延岡市文化財報告書　第48集

岩土北平遺跡２次・４次、岩土原遺跡２次・３次

市道岩土原線整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2012年

延岡市教育委員会

序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しまして深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。延岡市教育委員会では、北方町岩土北平及び岩土原地区内に所在する埋蔵文化財調査を実施しました。本書は、その報告書です。

延岡市は宮崎県の北部に位置し、五ヶ瀬川水系の水力資源を利用した県内最大級の電気化学工業集積地となっています。また、近世延岡藩の城下町としても繁栄を遂げ、教育文化・産業経済のけん引役を担っています。

近年は、市民参加による「のべおか天下一薪能」、「城山かぐらまつり」などの開催をはじめ、九州保健福祉大学の開学や国道10号延岡道路及び国道218号北方延岡道路の部分開通など大きな変革を迎えています。さらに、市有面積としては九州内で二番目の規模をもつ都市となり、伝承芸能や農林水産資源などが融合する活気あるまちづくりに歩みだしているところです。

本書の刊行を通しまして、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたってご協力をいただきました市民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化財課、新最終処分場建設室、北方町総合支所建設課、笠下区など関係機関の皆様に対し、こころより感謝申し上げます。

平成24年３月

延岡市教育委員会

教育長　町　田　訓　久

例　言

1．本書は、平成22・23年度市道岩土原線整備事業に伴い新最終処分場建設室の委託を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．調査は、延岡市教育委員会が主体となり、同文化課文化財係専門員　小野信彦が担当した。

3．本書に使用した遺構・遺物の実測・トレース・図面作成は、発掘調査及び整理作業員の協力のもと小野信彦が行なった。

4．現場及び遺物の写真撮影は、小野が行った。空中写真の撮影は、九州航空（株）が行った。

5．方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海抜高である。

6．本書の執筆・編集は小野があたった。

7．本書で使用した写真・図面については、延岡市教育委員会で保管している。

8．出土遺物は、延岡市教育委員会にて保管しており、今後展示公開の予定である。

目　次

Ⅰ　はじめに

1．調査に至る経緯…… 1

2．調査の組織…… 1

3．位置と歴史的環境…… 1

Ⅱ　調査の内容

1．調査の概要…… 5

2．基本層序…… 5

3．岩土北平遺跡の調査…… 8

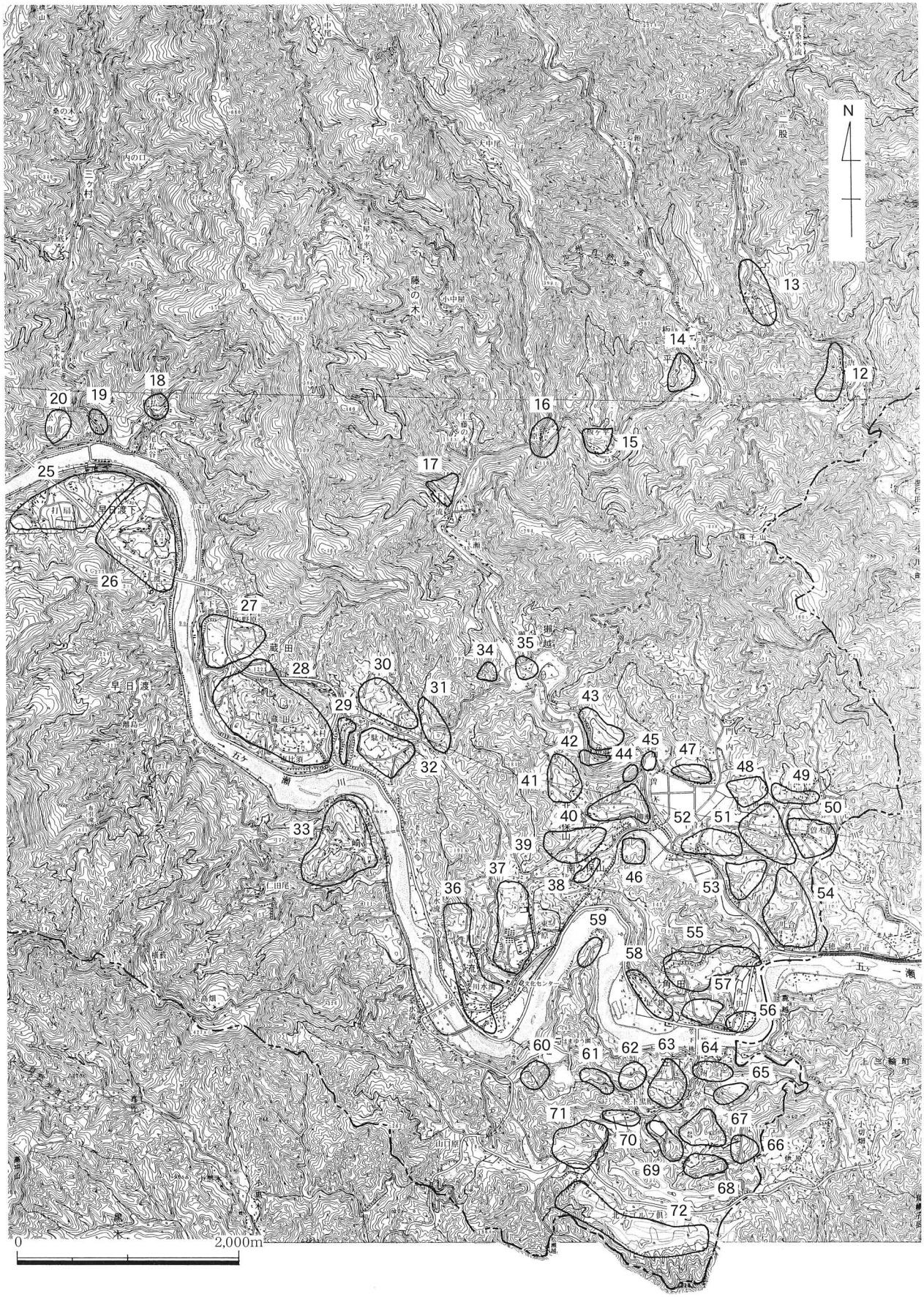
4．岩土原遺跡の調査……12

Ⅲ　おわりに……53

報告書抄録……54

挿図・表・写真目次

番号	内　　容	頁	番号	内　　容	頁
1	延岡市北方町遺跡分布図（S＝1/50,000）		47	岩土原遺跡５区航空写真	46
2	延岡市北方町遺跡一覧表	3	48	１号集石遺構（北より）	47
3	岩土北平遺跡・岩土原遺跡周辺地形図（S＝1/20,000）	4	49	２号集石遺構（南より）	47
4	調査区位置図（S＝1/1,000）	6	50	３・４号集石遺構（南より）	47
5	検出遺構一覧表	7	51	５号集石遺構（北より）	47
6	自然科学分析一覧表	7	52	６号集石遺構（北より）	47
7	岩土北平遺跡遺構配置図（S＝1/400）	8	53	７号集石遺構（北より）	47
8	岩土北平遺跡出土遺物実測図①（S＝1/3） 岩土北平遺跡集石遺構実測図①（S＝１/40）	9	54	８・９・10号集石遺構（北より）	47
			55	９号集石遺構断面（北より）	47
9	岩土北平遺跡出土遺物実測図②（S＝1/2・1/3・2/3）	10	56	11号集石遺構（南より）	48
10	岩土北平遺跡出土遺物実測図③（S＝1/3）	11	57	12号集石遺構（東より）	48
11	岩土原遺跡遺構配置図（S＝1/400）	13・14	58	13号集石遺構（東より）	48
12	岩土原遺跡出土遺物実測図①（S＝1/2・1/3・2/3）	15	59	14号集石遺構（北より）	48
13	岩土原遺跡出土遺物実測図②（S＝1/3）	16	60	２号土坑（東より）	48
14	岩土原遺跡集石遺構実測図①（S＝1/40）	17	61	３号土坑（北より）	48
15	岩土原遺跡集石遺構実測図②（S＝1/40）	18	62	４号土坑（南より）	48
16	岩土原遺跡集石遺構実測図③（S＝1/40） 集石遺構内出土遺物実測図①（S=1/2・1/3）	19	63	５号土坑（南より）	48
			64	６号土坑（南より）	49
17	岩土原遺跡集石遺構内出土遺物実測図（S＝1/3・2/3）	20	65	７号土坑（北より）	49
18	岩土原遺跡土坑実測図①（S＝1/40）	21	66	８号土坑（東より）	49
19	岩土原遺跡土坑実測図②（S＝1/40）	22	67	９号土坑（東より）	49
20	岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図①（S＝1/2・1/3・2/3）	23	68	10号土坑（東より）	49
21	岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図②（S＝1/3・2/3）	24	69	１号竪穴住居跡（西より）	49
22	岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図③（S＝1/3・2/3）	25	70	出土遺物（　1～ 14）	49
23	岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図④（S＝1/2・1/3・2/3・1/4）	26	71	出土遺物（ 15～ 32）	49
24	岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図⑤（S＝1/3）	27	72	出土遺物（ 33～ 51）	50
25	岩土原遺跡出土遺物実測図③（S＝1/2・1/3・2/3）	28	73	出土遺物（ 52～ 66）	50
26	岩土原遺跡出土遺物実測図④（S＝1/2・1/3・2/3・1/6）	29	74	出土遺物（ 67～ 84）	50
27	岩土原遺跡出土遺物実測図⑤（S＝1/3・1/4）	30	75	出土遺物（ 85～103）	50
28	岩土原遺跡出土遺物実測図⑥（S＝1/3・1/6）	31	76	出土遺物（104～122）	50
29	岩土原遺跡出土遺物実測図⑦（S＝1/3）	32	77	出土遺物（123～142）	50
30	岩土原遺跡出土遺物実測図⑧（S＝1/3）	33	78	出土遺物（143～159）	50
31	岩土原遺跡出土遺物実測図⑨（S＝1/3）	34	79	出土遺物（160～178）	50
32	岩土原遺跡出土遺物実測図⑩（S＝1/3）	35	80	出土遺物（179～199）	51
33	岩土原遺跡出土遺物実測図⑪（S＝1/3）	36	81	出土遺物（200～206）	51
34	岩土原遺跡竪穴住居跡実測図（S＝1/40） 竪穴住居跡内出土遺物実測図①（S=1/3・1/4・1/6）	37	82	出土遺物（207～215）	51
			83	出土遺物（216～221）	51
35	出土陶磁器類一覧表	38	84	出土遺物（222～224）	51
36	岩土原遺跡その他の出土遺物実測図（1/3・1/4）	38	85	出土遺物（225～244）	51
37	出土陶磁器類（364～423）	39	86	出土遺物（245～265）	51
38	出土遺物観察表①	40	87	出土遺物（266～280）	51
39	出土遺物観察表②	41	88	出土遺物（281～296）	52
40	出土遺物観察表③	42	89	出土遺物（297～319）	52
41	出土遺物観察表④	43	90	出土遺物（320～342）	52
42	出土遺物観察表⑤	44	91	出土遺物（343～351）	52
43	岩土北平遺跡・岩土原遺跡航空写真（南西より）	45	92	出土遺物（352）	52
44	岩土北平遺跡航空写真	45	93	出土遺物（353）	52
45	岩土原遺跡１区航空写真	46	94	出土遺物（354～356）	52
46	岩土原遺跡２～４区航空写真	46	95	出土遺物（357～363）	52



1. 延岡市北方町遺跡分布図（S＝1/50,000）

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経緯

延岡市北方町笠下地区では、市道笠下中山線と笠下松瀬線を結ぶ道路整備が、かねてより強く望まれていた。そこへ、新たに新最終処分場建設が予定され、同地区への廃棄物運搬車両等の増加が見込まれることから、安全性の確保及び運搬車両の効率的な運行のために、市道岩土原線の整備が急務となってきた。工事予定地内は、昭和44年に南九州短期大学によって発掘調査が行われ半船底型細石核と隆帯上に爪形文を施した土器が共伴して出土した岩土原遺跡の一角に当たるため、平成22年４月26日以降協議を重ね、工事着手前に本調査を実施することになった。

本調査は、表土剥ぎのみを平成23年３月１日から平成23年３月31日にかけて実施し、引き続き遺構検出等の作業を平成23年４月19日から７月25日にかけて行った。整理・報告書作成作業は平成23年５月９日から実施した。

２．調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査主体　延岡市教育委員会

教 育 長	町田　訓久	
教育部長	甲斐　享博	
文化課長	大島紀世子	（平成22年度）
	佐藤　憲史	（平成23年度）
文化課課長補佐	伊東　　優	（平成22年度）
	鵜島　孝幸	（平成23年度）
文化課文化財係長	山田　　聡	

庶務担当	文化課文化振興係主任主事	松岡　直子
調査担当	文化課文化財係専門員	小野　信彦
調査指導	宮崎県文化財課	
調査協力	宮崎県埋蔵文化財センター、宮崎県総合博物館、宮崎県立西都原考古博物館、宮崎県市町村埋蔵文化財担当者及び地元関係各位	

３．位置と歴史的環境

岩土北平遺跡及び岩土原遺跡が所在する延岡市北方町は、宮崎県の北部に位置し、南は門川町・美郷町北郷区、西は西臼杵郡日之影町、北は大分県佐伯市と境を接する。南部を九州山地に源を発する五ヶ瀬川が流れる。北には1,000m級の大崩山・鬼の目山などの山々が連なる。五ヶ瀬川流域や曽木川流域には、阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、遺跡の大部分が集中する。

岩土北平遺跡及び岩土原遺跡の西には、最終処分場建設に伴う発掘調査で縄文時代早期の集石遺構、古墳時代前期の竪穴住居跡が検出された上田下遺跡がある。また、南には笠下（ゴルフ場）遺跡がありナイフ形石器や剥片尖頭器が出土している。この外に、五ヶ瀬川上流にはAT層下位より石核等が出土した矢野原遺跡がある。縄文時代では、矢野原遺跡、蔵田遺跡等で早期の押型文土器・集石遺構が検出されている。前期では笠下下原遺跡で轟Ｂ式土器・曽畑土器等が、中期では笠下下原遺跡等で船元式土器がしている。後期では菅原洞穴で鐘ヶ崎式土器等が、晩期では南久保山小堀町遺跡で黒色磨研土器が出土している。

弥生時代では、昭和28年に板付Ⅱ式土器と思われる土器片が採集されて、宮崎大学に保管されている。後期初頭には瀬戸内系土器の移入も見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡が、矢野原遺跡、打扇遺跡、蔵田遺跡、早日渡遺跡等で検出されている。

古墳時代では、後期の箱式石棺が殿上、矢野原、駄小屋、後曽木等で発見されている。昭和12年に県指定史跡となった『北方村古墳』も、後期箱式石棺群の一つである。

古代では、速日峰地区遺跡や南久保山小堀町遺跡等で、若干の遺物が出土している程度である。中世になると、町内各地で六地蔵や五輪塔等が散見される。中世山城跡として、蔵田城や仲畑城があるが、笠下遺跡等では祭祀遺構が検出され、備前焼のすり鉢や明銭等が出土している。近世は延岡藩領となり、木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ、明治新政府へと引き継がれた。

江戸時代から明治期にかけて、北方地区では日平鉱山・槇峰鉱山等の鉱山開発が積極的に行われた。特に、三菱に経営権が移ってからの槇峰鉱山は、明治33年（1900）以降に発電所建設や技術革新が積極的に行われ、格段の活況を呈した。鉱山の賑わいは、北方地区の生活基盤の底上げを行い、経済効果はもちろん文化面での影響も多大なものがあった。

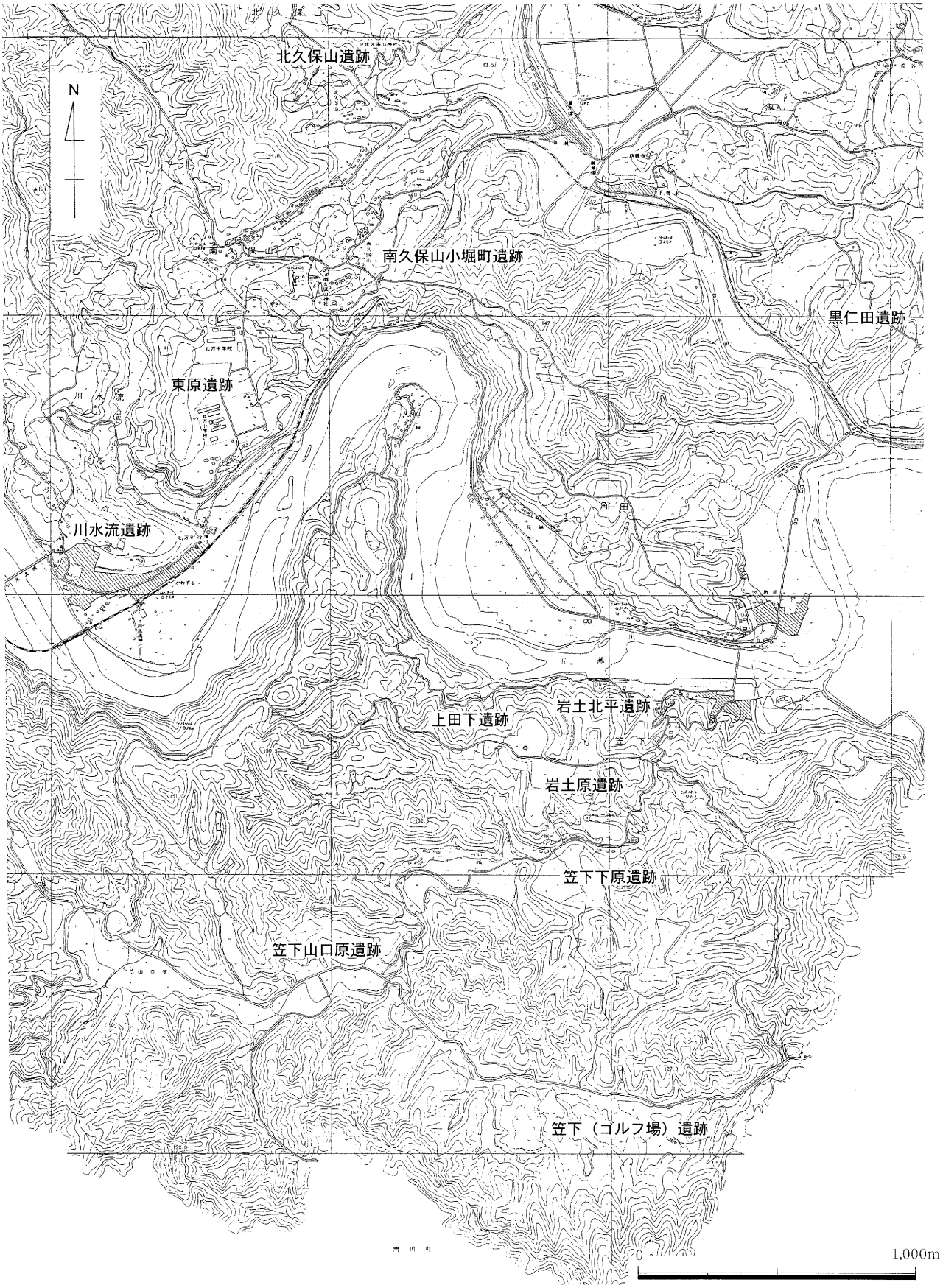
昭和42年（1967）に鉱山が閉山すると産業構造も大きく変化し人口も大きく減少した。このため、農林業の振興の他、国指定名勝である比叡山・矢筈岳や鹿川渓谷等の自然遺産や人工芝スキー場・風力発電を備えた総合レジャー施設ＥＴＯランド等の観光資源を活かした地域づくりを積極的に推し進めている。

引用・参考文献

・田中　茂『東臼杵郡北方村先史遺物地名録』北方村教育委員会　昭和34年（1959）
・田中　茂『東臼杵郡北方村の古墳』北方村教育委員会　昭和37年（1962）
・鈴木重治「本邦における土器起源に関する研究－岩土原遺跡の調査を中心に」
『南九州大学園芸学部研究報告』第３号・別刷　南九州大学園芸学部　昭和45年（1973）
・北方町史編纂委員会『北方町史』北方町役場　昭和47年（1972）
・角川書店『角川　日本地名大辞典』45宮崎県　昭和61年（1986）
・北方町教育委員会「笠下遺跡」『北方町文化財報告書１』昭和61年（1986）
・北方町文化財保護審議会『北方町の古跡を訪ねて』　平成元年（1989）
・宮崎県『宮崎県史』資料編考古１　ぎょうせい　平成元年（1989）
・宮崎県『宮崎県史』資料編考古２　ぎょうせい　平成５年（1993）
・北方町教育委員会『槇峰鉱山史』（1992）『宮崎県史』史料編近世３　ぎょうせい　平成4年
・宮崎県教育委員会「打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡」『一般国道218号線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』平成７年（1995）
・平凡社『宮崎県の地名』－日本歴史地名体系46巻　平成９年（1997）
・北方町『日本唯一干支の町　北方町の文化財』平成10年（1998）
・宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅰ』平成10年（1998）
・宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ』平成11年（1999）
・北方町史第２巻編纂委員会『北方町史第２巻』北方町役場　平成11年（1999）
・延岡市教育委員会『延岡市の文化財』平成13年（2001）
・北方町教育委員会「町内遺跡詳細分布調査報告書」『北方町文化財報告書23』平成16年（2004）
・延岡市教育委員会「上田下遺跡」『延岡市文化財報告書44』平成23年

番号	名　　称	所　在　地	種　　別	時　　代	備　　考
1	上鹿川東の内遺跡	上鹿川（東の内）申	散布地	縄文～近世	一部日之影町へ分布が広がる
2	比叡山	菅原未	国指定史跡		日之影町矢筈岳と合わせて指定
3	菅原洞穴・菅原遺跡	菅原未	散布地・洞穴遺跡	旧石器～中世	昭和41年南九州短大により調査
4	槇峰遺跡	槇峰未	散布地	縄文～近代	鉱山跡
5	美々地遺跡	美々地未	散布地	縄文～中世	中世山城の可能性
6	三ヶ村桑の木遺跡	三ヶ村（桑の木）午	散布地	中世～近世	備前焼のすり鉢と多量の古銭が出土
7	三ヶ村内の口遺跡	三ヶ村（内の口）午	散布地	中世～近世	
8	上中尾遺跡	藤の木（上中尾）酉	散布地	中世～近世	和鏡５面と明銭２枚が出土
9	大保下遺跡	板上（大保下）亥	散布地	中世～近世	
10	石上遺跡	板上（石上）亥	散布地	中世～近世	
11	二股上遺跡	二股（二股上）戌	散布地	中世～近世	
12	唐立遺跡	二股（唐立）戌	散布地	中世～近世	
13	樫原遺跡	二股（樫原）戌	散布地	縄文～中世	平成４年確認調査、一部消滅
14	屋形原遺跡	板下（屋形原）戌	散布地	縄文～中世	
15	板ヶ平遺跡	板下（板ヶ平）戌	散布地	縄文～中世	
16	小原遺跡	板下（小原）戌	集落跡	縄文～中世	平成５年確認調査、一部消滅
17	藤の木桑水流遺跡	藤の木（桑水流）酉	集落跡	縄文～中世	平成５年確認調査、一部消滅
18	尾払遺跡	八峡（尾払）午	散布地	中世～近世	
19	八峡遺跡	八峡午	集落跡	弥生～近世	一部消滅
20	松舟遺跡	八峡（松舟）午	散布地	中世～近世	
21	椎畑遺跡	椎畑未	散布地	縄文～近世	多木遺跡（旧名）を変更
22	城遺跡	早上（城）巳	中世山城	縄文～近世	山城の大部分は削平されている
23	久保遺跡	早上（久保）巳	散布地	縄文～近世	
24	荒平遺跡	早上（荒平）巳	散布地	縄文～近世	
25	打扇遺跡	早中（打扇）巳	集落跡	旧石器～近世	平成２年～12年調査、一部保存
26	早日渡遺跡	早日渡巳	集落跡	旧石器～近世	平成２年～12年調査、一部保存
27	矢野原遺跡	蔵田（矢野原）辰	集落跡	旧石器～近世	平成５年調査、一部消滅
28	蔵田遺跡	蔵田辰	集落跡	旧石器～近世	昭和62年～平成５年調査、一部消滅
29	蔵田城	蔵田辰	中世山城	中世	堀等が良好に残る
30	駄小屋遺跡	蔵田（駄小屋）辰	散布地	旧石器～近世	
31	地山遺跡	蔵田（地山）辰	散布地	縄文～近世	平成９年調査、一部消滅
32	殿上遺跡	蔵田（辰）戸の上	散布地・石棺群	旧石器～近世	石棺群は消滅
33	上崎地区遺跡	蔵田（上崎）辰	集落跡	旧石器～近世	平成12年度～19年度まで調査、一部消滅
34	船木谷遺跡	獺越（船木谷）子	散布地	縄文～近世	
35	獺越遺跡	獺越子	散布地	縄文～近世	
36	川水流遺跡	川水流卯	集落跡	旧石器～近世	中世山城の可能性、一部消滅
37	東原遺跡	川水流（東原）卯	散布地	旧石器～近世	一部消滅
38	南久保山小堀町遺跡	南久保山（小堀町）子	集落跡	旧石器～近世	一部消滅
39	十朗ヶ尾遺跡	南久保山（十朗ヶ尾）子	散布地	縄文～近世	
40	柳瀬遺跡	曽木（柳瀬）子	散布地	縄文～近世	
41	北久保山遺跡	北久保山子	散布地	縄文～近世	一部消滅
42	猪渡遺跡	獺越（猪渡）子		縄文～近世	一部消滅
43	上畑遺跡	獺越（上畑）子	散布地・中世山城	縄文～中世	西南戦争時に再利用
44	仲畑城跡	獺越（仲畑）子	中世山城	中世	堀等が残る
45	仲畑遺跡	獺越（仲畑）子	散布地	縄文～近世	
46	壱丁鐘遺跡	曽木（壱丁鐘）子	石棺群	古墳	県指定北方村古墳１号墳
47	後曽木遺跡	曽木（後曽木）子	散布地・石棺群	古墳	県指定北方村古墳３号墳
48	笹原遺跡	曽木（笹原）子	散布地	縄文～近世	
49	荒谷遺跡	曽木（荒谷）子	散布地	縄文～近世	
50	曽木原遺跡	曽木（曽木原）子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
51	深谷遺跡	曽木（深谷）子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
52	古城遺跡	曽木（古城）子	散布地・中世山城	旧石器～近世	一部消滅
53	中野遺跡	曽木（中野）子	散布地	縄文～近世	一部消滅
54	黒仁田遺跡	曽木（黒仁田）子	散布地	縄文～近世	一部消滅
55	権現原遺跡	角田（権現原）丑	散布地	縄文～近世	一部消滅
56	角田遺跡	角田丑	散布地・中世山城	縄文～近世	上屋敷、下屋敷、垣内などの地名が残る
57	角田上ノ原遺跡	角田（上ノ原）丑	散布地	縄文～近世	
58	足鍋遺跡	角田（足鍋）丑	散布地	縄文～近世	
59	下崎遺跡	角田（下崎）丑	散布地	縄文～近世	
60	中山遺跡	川水流（中山）卯	散布地	縄文～近世	消滅
61	上田下遺跡	笠下（上田下）寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
62	**岩土北平遺跡**	**笠下（岩土北平）寅**	**散布地**	**旧石器～近世**	
63	**岩土原遺跡**	**笠下（岩土原）寅**	**散布地**	**旧石器～近世**	**昭和44年南九州短期大学により調査**
64	笠下遺跡	笠下寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
65	松尾原遺跡	笠下（松尾原）寅	散布地	旧石器～近世	
66	藤ノ木谷遺跡	笠下（藤ノ木谷）寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
67	伊木原遺跡	笠下（伊木原）寅	散布地	旧石器～近世	
68	炭ノ越遺跡	笠下（炭ノ越）寅	集落跡	旧石器～近世	
69	笠下下原遺跡	笠下（下タノ原）寅	散布地	旧石器～近世	下原は通称名
70	笠下黒原遺跡	笠下（黒原）寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
71	笠下山口原遺跡	笠下（山口原）寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
72	笠下ゴルフ場遺跡	笠下（塩田　外）寅	集落跡	旧石器～近世	一部消滅

2. 延岡市北方町遺跡一覧表



3. 岩土北平遺跡・岩土原遺跡周辺地形図（S＝1/20,000）

Ⅱ．調査の内容

１．調査の概要

調査は、市道岩土原線の拡幅部分を崩土防止や地区住民の耕作のための安全通行を優先し、谷を挟んで西側の岩土北平遺跡を３地区に、東側の岩土原遺跡を５地区に設定して行った。

岩土北平遺跡は削平が進み、１区・２区では耕作土を除去するとローム層となり、３区の一部にアカホヤ層が残るのみであった。調査の結果、縄文時代早期の集石遺構１基と時期不明の柱穴を若干検出したにとどまった。また、ローム層中に縄文時代早期包含層の影響を確認した。そのいくつかには縄文時代早期の遺物が出土し炭化物及び焼土の集中が見られるものの、不定形なものが多く明確な掘り込みラインを確認していない。出土遺物では、量は少ないものの旧石器時代の使用痕剥片や礫器、縄文時代早期の石鏃、スクレイパー、磨石、石斧、尖頭状石器、押型文土器がある。弥生・古墳時代及び中近世の遺物は極端に少ない。

岩土原遺跡もアカホヤ層が確認されたのは１・４・５区の一部で、耕作による改変を大きく受けている。調査の結果、縄文時代早期の集石遺構14基、多数の焼土集中部及び焼礫の集中部１ヶ所、土坑１基を検出した。古墳時代では古墳時代の竪穴住居跡１軒を一部検出するに止まった。１・２・４区でもローム層中に、縄文時代早期包含層の影響を確認している。３区では、土坑を９基検出したが、耕作による影響も大きい。遺物の大半は１区から出土した縄文時代早期の遺物が占め、新最終処分場建設に伴う発掘調査で多く出土した縄文時代晩期の遺物は少ない。また、削平の影響からか、弥生～古墳時代及び中近世の遺物も少ない。陶磁器は、小破片が多い。

岩土原遺跡は、昭和44年に南九州短期大学によって発掘調査が行われ、流紋岩製の半船底型細石核と隆帯上に爪型文を施した土器が共伴して出土した学史上の遺跡である。今回、岩土北平遺跡３区、岩土原遺跡２区・３区でトレンチ跡を検出した。発掘作業員の中に当時を覚えておられる人がいて、当時発掘した跡であることを確認した。周辺の掘り下げには慎重を期したが、流紋岩製の半船底型細石核と隆帯上に爪型文を施した土器は検出できなかった。

２．基本層序

岩土北平遺跡、岩土原遺跡の基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層…表土層もしくは耕作土（約20cm）

Ⅱ層…埋土（約20～80cm）畑地の整地用

Ⅲ層…茶褐色土層。パサつく。ほとんど残存していない。

Ⅳ層…黒色土層。パサつく。ほとんど残存していない。

Ⅴ層…アカホヤ層（約20cm）

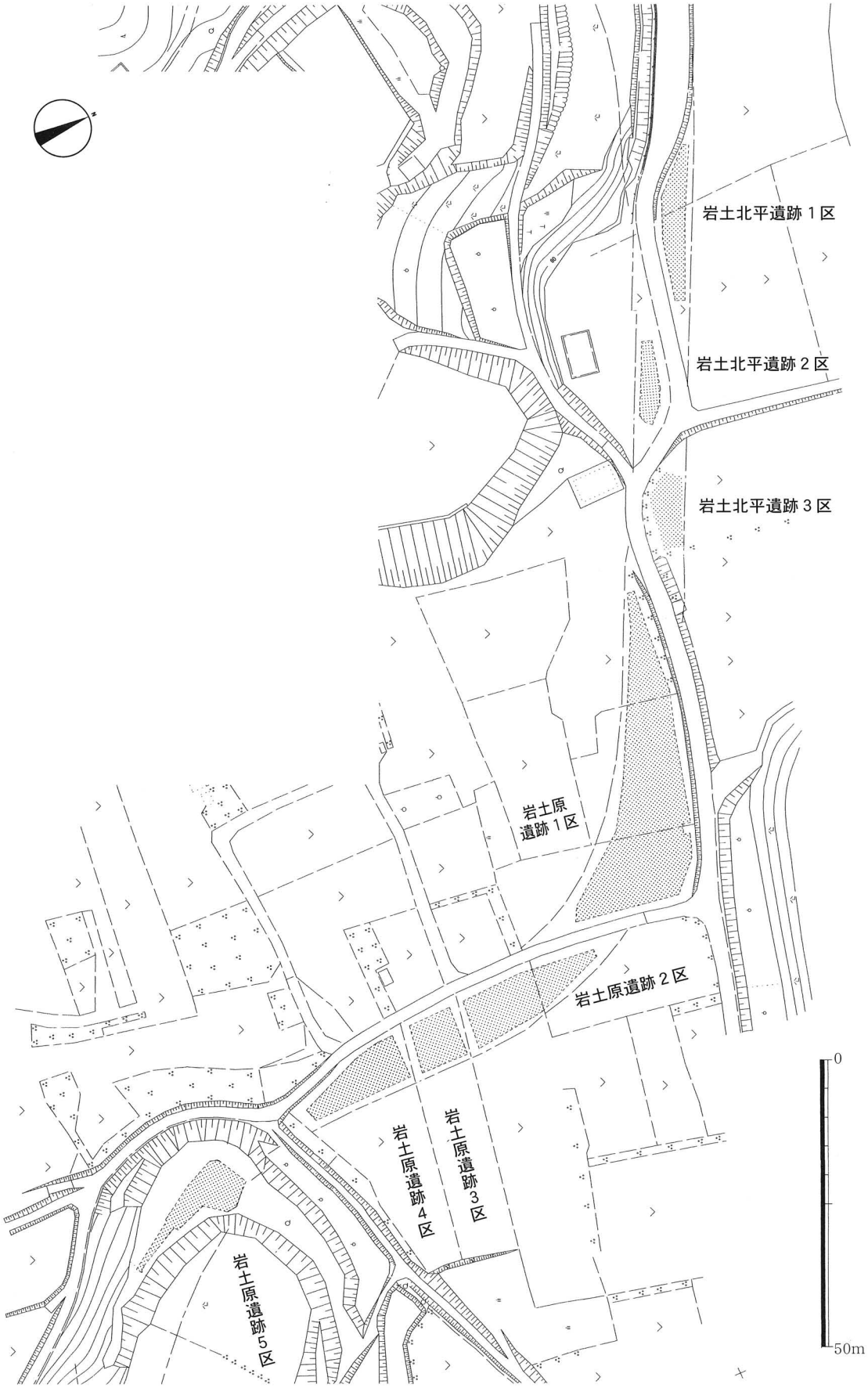
Ⅵ層…黒褐色土層（約20cm）やや粘質。縄文時代早期の遺物が出土。

Ⅶ層…黄褐色土層（約20cm）粘質。旧石器時代の遺物が出土。

Ⅷ層…ＡＴ層（約20cm）

Ⅸ層…黒褐色土層。（約20～50cm）今回の調査では遺物の出土はなかった。3～５cmのブロック上を呈する。

Ⅹ層…黄褐色土層。粘質。小砂利を多く含む。上部で石器が出土する遺跡の調査例が、県北地域でも増えている。



4. 調査区位置図（S＝1/1,000）

遺構名	頁	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備　　考
1号集石遺構	9	0.88	0.79	0.14	なし	敷石あり　一部カク乱
2号集石遺構	17	0.58	0.58	0.16	なし	敷石あり
3号集石遺構	17	0.46	0.44	0.18	石器	敷石あり　4号と近接
4号集石遺構	17	0.52	0.52	0.16	なし	敷石あり
5号集石遺構	17	0.85	0.58	0.34	土器	敷石あり
6号集石遺構	17	0.77	0.58	0.10	なし	敷石なし
7号集石遺構	17	1.20	1.08	0.21	石器・土器	敷石あり　浅い堀込み
8号集石遺構	18	1.36	(1.20)	0.22	土器	敷石あり　一部カク乱
9号集石遺構	18	1.24	1.04	(0.70)	なし	敷石あり　10号と近接
10号集石遺構	18	0.92	0.82	0.22	土器	敷石あり　段がつく
11号集石遺構	19	1.06	0.78	0.22	石器・土器	敷石あり
12号集石遺構	19	1.60	0.96	0.34	なし	敷石あり
13号集石遺構	19	0.70	0.50	0.28	なし	敷石あり
14号集石遺構	19	0.78	(0.58)	(0.16)	土器	敷石あり　一部カク乱
1号土坑	-	1.50	0.90	0.20	ビニール袋・キセル・陶磁器	粘土製　底面に砂粒がたまる
2号土坑	21	(2.44)		(0.24)	石器・土器	一部検出
3号土坑	21	(1.38)	0.70	0.14	石器・土器	一部検出　焼土あり
4号土坑	21	2.62		0.74	石器・土器	一部検出　焼土なし
5号土坑	22	2.94		0.54	石器・土器	一部検出　焼土あり
6号土坑	22	2.96	1.94	0.92	石器・土器	焼土あり　連結土坑
7号土坑	22	(1.62)		0.44	なし	一部検出　焼土あり
8号土坑	22	(1.48)	0.72	0.22	石器・土器	一部検出　焼土なし
9号土坑	22	1.36		0.36	なし	一部検出　焼土なし　段がつく
10号土坑	22	0.86		0.20	石器	一部検出　焼土あり
1号竪穴住居跡	37	2.80	(1.50)	42.00	石器・土器	南東隅に浅い柱穴

(　　)は検出部分の計測値　単位はm

5. 検出遺構一覧表

遺構名	暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	炭化材
1号住居跡	1,549±23	437calAD-489calAD (45.5%)	430calAD-566calAD (95.4%)	アカメガシワ
1号住居跡	1,572±23	435calAD-492calAD (49.7%)	425calAD-544calAD (95.4%)	
1号住居跡	1,556±23	436calAD-490calAD (49.1%)	430calAD-557calAD (95.4%)	クリ
3号集石遺構	8,607±35	7613calBC-7582calBC (53.9%)	7716calBC-7575calBC (95.4%)	
4号集石遺構	8,692±35	7723calBC-7632calBC (58.9%)	7789calBC-7597calBC (95.4%)	
1区Ⅵ層中炭化材	7,694±32	6532calBC-6497calBC (47.4%)	6595calBC-6446calBC (95.4%)	
2区焼土集中部	8,380±40	7524calBC-7452calBC (45.5%)	7536calBC-7350calBC (95.4%)	
3区焼土集中部	8,270±30	7364calBC-7292calBC (35.5%)	7384calBC-7181calBC (75.2%)	

6. 自然科学分析一覧表

3．岩土北平遺跡の調査

岩土北平遺跡は、標高80m程のほぼ平坦な台地の南側に位置している。南と東は谷となっている。

調査は、道路拡幅部分を畑の区画に沿って１～３区に設定し、耕作の関係で３→２→１区の順に行った。

１区・２区では耕作土を除去するとローム層となり、アカホヤ層は３区の一部に残るのみであった。

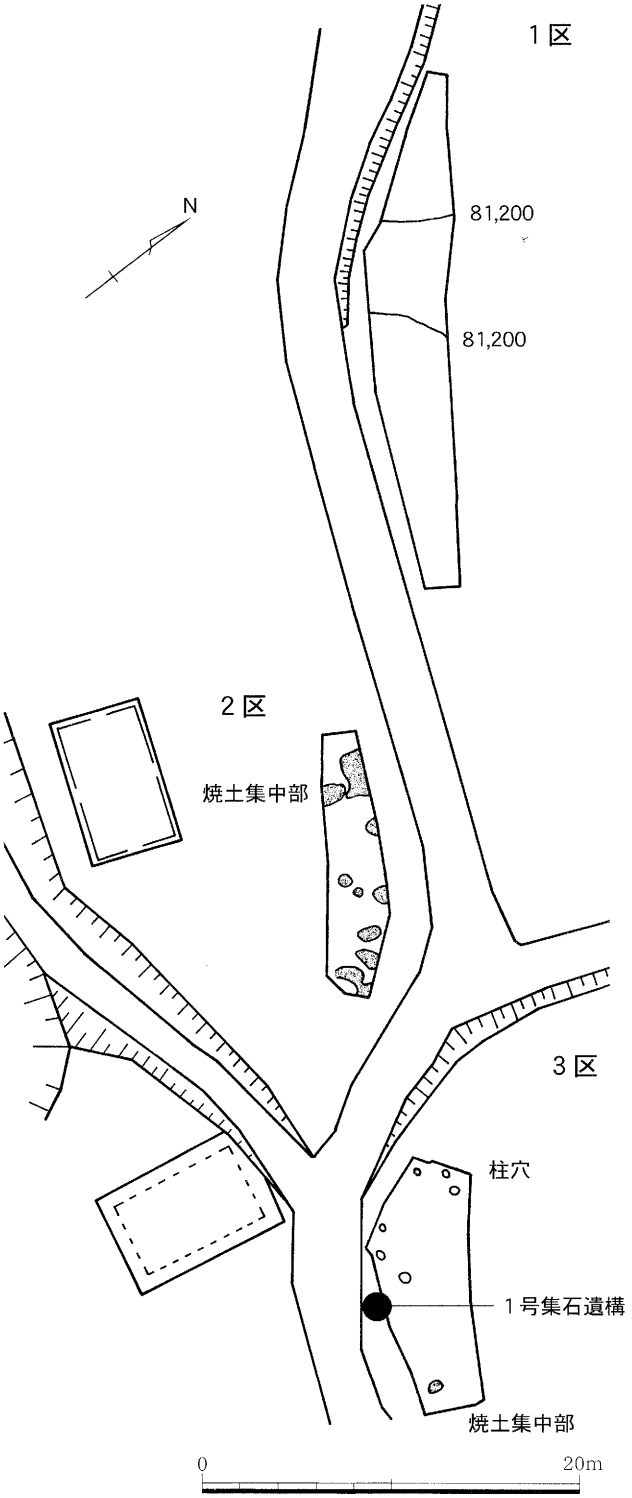
１区では、旧石器時代及び縄文時代早期の遺物が若干出土するに止まった。

２区では、ローム層中に縄文時代早期包含層面からの落ち込みを確認した。ほとんどの落ち込みには炭化物及び焼土の集中が見られる。平面形は不定形が多く、明確な掘り込みラインを確認できていない。また、縄文時代早期の他、旧石器時代の遺物の出土が見られる。出土遺物の無いものが多い。

３区では、集石遺構１基と時期不明の柱穴を若干検出したにとどまった。集石遺構は敷石のみの検出である。一部、茶の根により撹乱されている。集石遺構内よりの出土遺は無い。柱穴内も同様である。北側には、南九州短期大学により調査された昭和43年当時と思われるトレンチ痕を確認した。若干拡幅したが、壁面での遺物の出土は確認していない。

岩土北平遺跡では、旧石器時代の出土遺物は少ない。流紋岩製の使用痕剥片（１）と、ホルンフェルス製の礫器（２）等が出土している。礫器は自然面をグリップ部としており、風化が進んでいる。ローム層を掘り下げたが、ナイフ形石器等の出土遺物はなかった。

縄文時代早期の遺物として石鏃、スクレイパー、磨石、石斧、尖頭状石器、石錐、磨石、磨製石斧、貝殻条痕文・押型文・より糸文・縄文土器が出土している。石材としては、流紋岩、ホルンフェルス、チャート、黒曜石、砂岩、花崗斑岩等を利用している。押型文土



7. 岩土北平遺跡遺構配置図（S＝1/400）

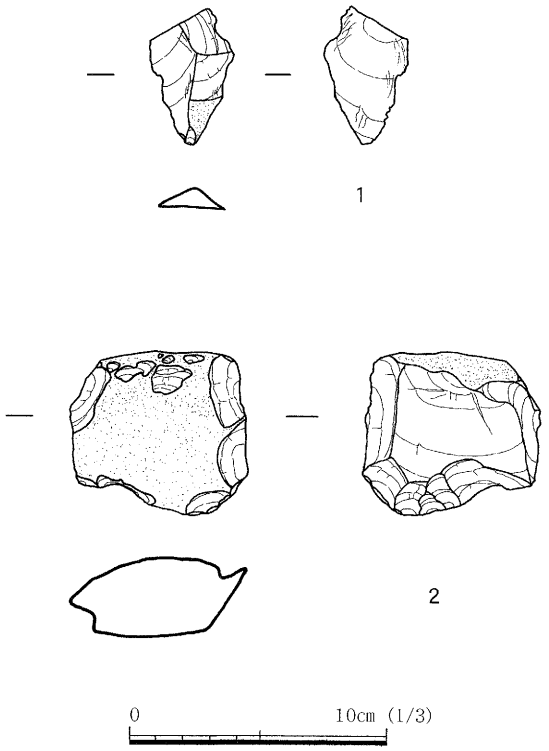
器の文様は、楕円文が主体で、格子文は出土していない。

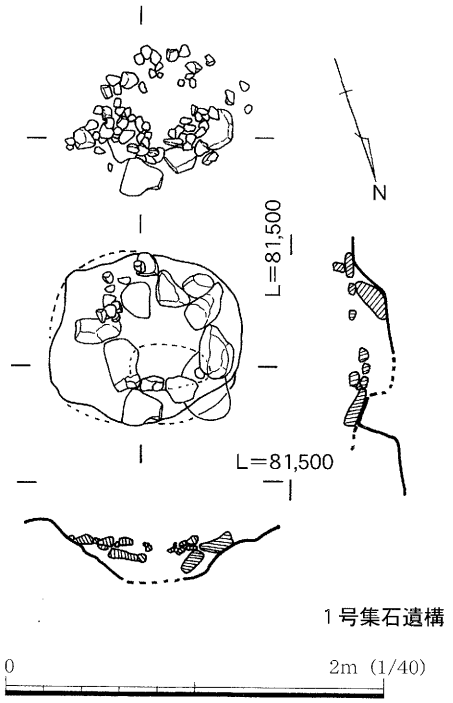
その他の時代では、縄文時代晩期の黒色磨研土器、古墳時代の甕口縁部、時期不明の土錘が出土している。縄文時代早期に比べ、他の時代の遺物は極端に少ない。中近世の遺物も同様である。陶磁器については、35. 出土陶磁器一覧表及び37. 出土陶磁器類の写真にまとめている。

364の龍泉窯系青磁の端反碗、371の漳州窯青花皿、374の褐釉陶器壺、376の天目茶碗、381の肥前系時期の染付丸碗及び387の小杯が出土している。(陶磁器の同定は、宮崎県文化財課　堀田孝博氏による)

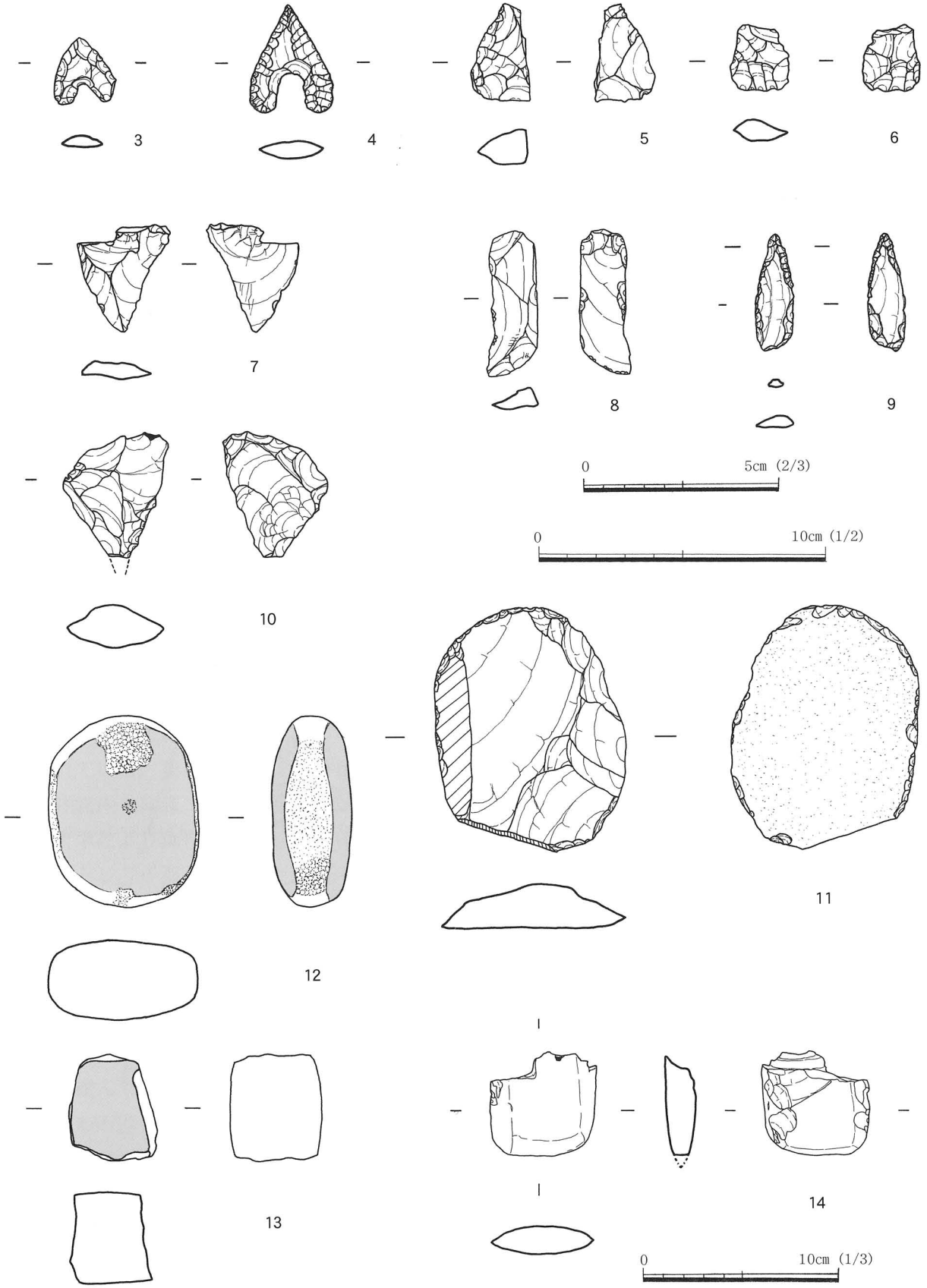
岩土北平の南側の谷の西側には上田下台地から伸びる尾根があり、周辺に点在していた五輪塔等が寄せられて祀られている。３区の柱穴も当該期のものかもしれないが、出土遺物が無く時期決定はできない。

調査中、３区北側の畑の中で箱式石棺が発見され、急遽発掘調査が行われた。詳細は不明であるが、北方地区では五ヶ瀬川南側での調査初例であり注目される。３区の南側には塚があったとの伝承が残り、上田下遺跡では須恵器の出土も見られることから、当該期の遺構が残存する可能性が高いと思われる。周辺の開発には十分注意する必要がある。

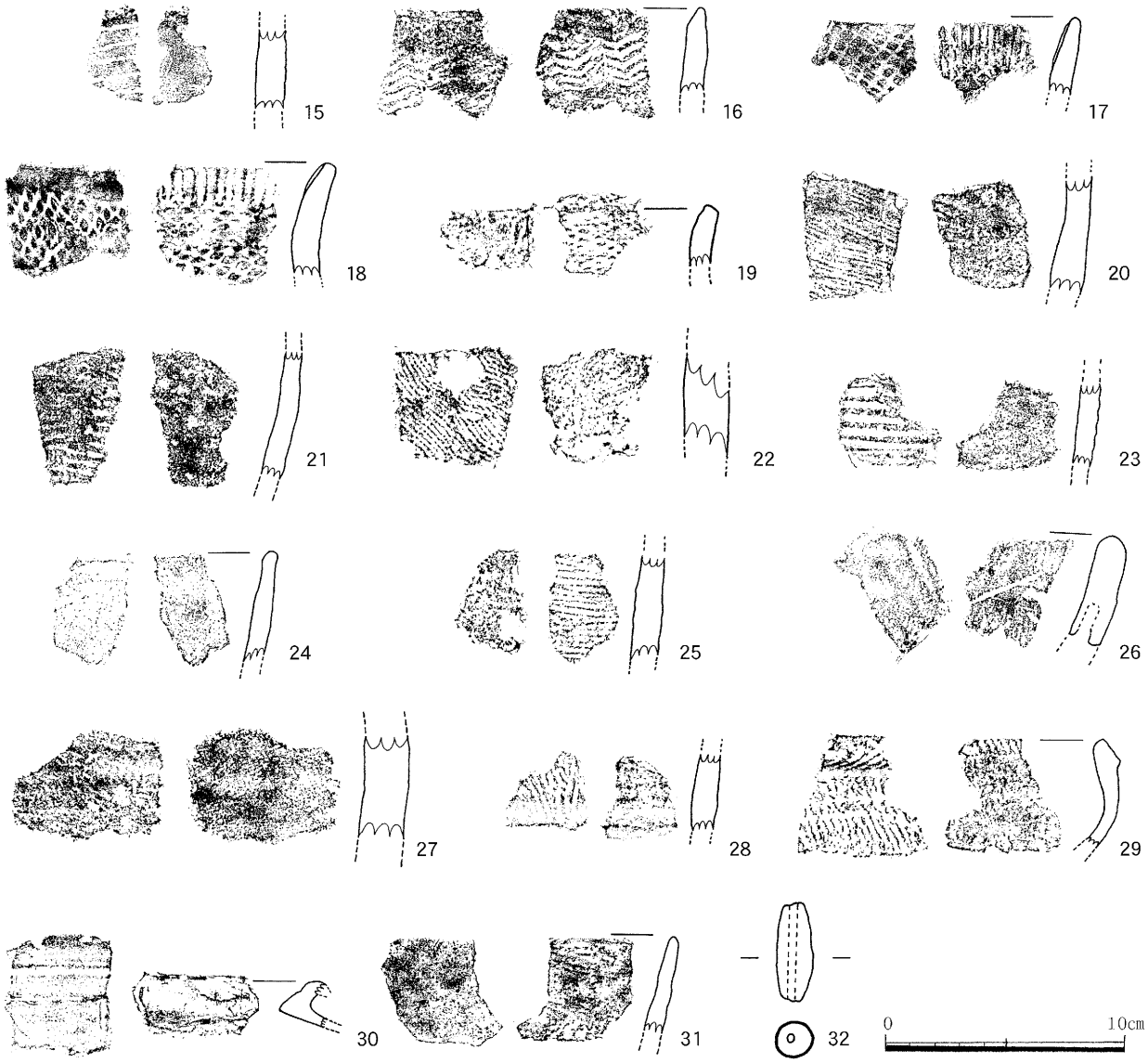




8. 岩土北平遺跡出土遺物実測図①（S＝1/３）
岩土北平遺跡集石遺構実測図①（S＝１/40）



9. 岩土北平遺跡出土遺物実測図②（S＝1/2・1/3・2/3）



10. 岩土北平遺跡出土遺物実測図③（S＝1/3）

４．岩土原遺跡の調査

調査の概要

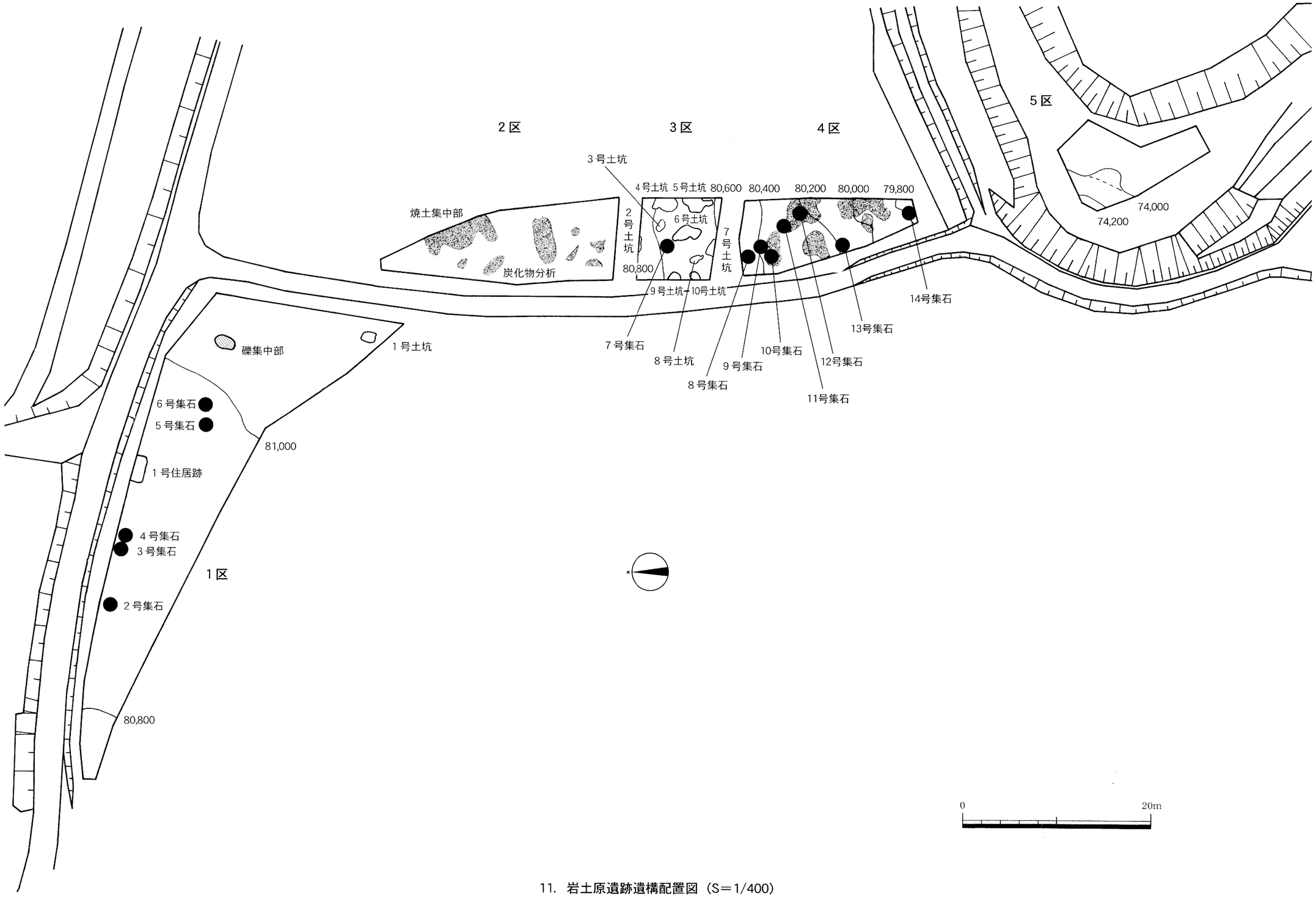
遺跡は、五ヶ瀬川右岸の標高70～80m前後の段丘上に位置している。調査は、市道岩土原線の拡幅部分を崩土防止や農耕車両の安全通行を考慮し、５地区に設定して行った。１区から３区は、耕作による削平が進みほぼ平坦である。４区はやや南側に緩やかに下る斜面上に位置するが、アカホヤ層は一部を除き残存していなかった。５区は台地に挟まれた谷頭に当たり、段々畑にするために大幅な改変が行われている。埋土中より流紋岩の剥片や陶磁器等が出土した。

岩土原遺跡は、昭和43年に南九州短期大学によって発掘調査が行われ、流紋岩製の半船底型細石核と隆帯上に爪型文を施した土器が共伴して出土した学史上の貴重な遺跡である。層位的に３つの文化層が確認されている。第１文化層では、縄文時代早期後半の押型文土器とそれに伴う石器群が検出され、第２文化層では、隆帯文土器と船野型細石核が共伴している。また、第３文化層では安山岩、流紋岩の剥片を素材とする石器に加えて不整形の剥片などを組成とする一群が検出されている。今回の調査では、その時のものと思われるトレンチ跡を岩土北平遺跡３区、岩土原遺跡２区・３区で検出した。発掘作業員の中に当時を覚えておられる人がいて、当時発掘した跡であることを確認した。周辺の掘り下げには慎重を期したが、流紋岩製の半船底型細石核と隆帯上に爪型文を施した土器は検出できなかった。

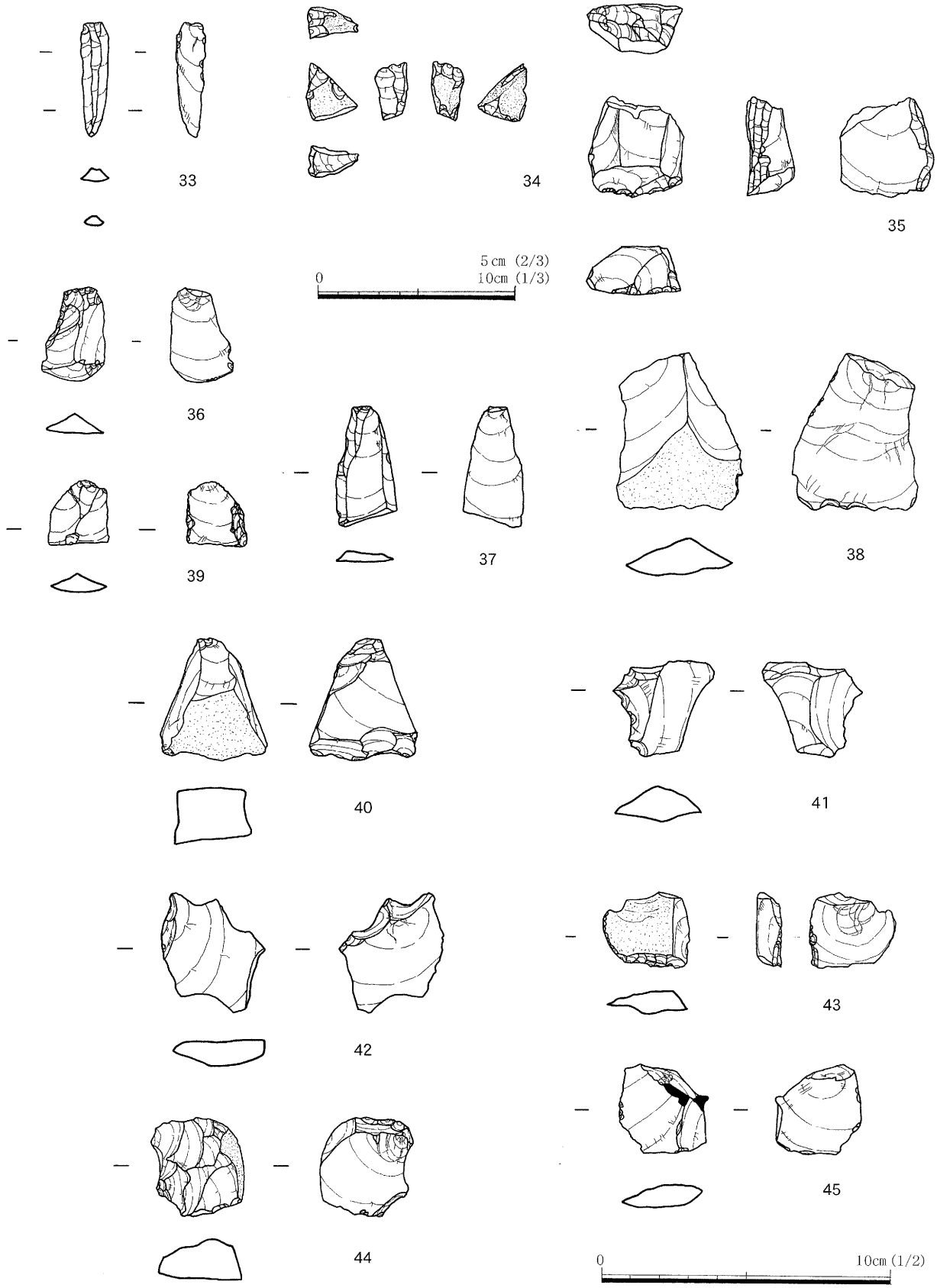
遺構と遺物

アカホヤ層が確認されたのは１・４・５区の一部で、耕作による改変を大きく受けている。調査の結果、縄文時代早期の集石遺構13基、多数の焼土集中部及び焼礫の集中部１ヶ所、土坑10基を検出した。古墳時代では後期の竪穴住居跡１軒の一部検出するに止まった。縄文時代早期の集石遺構は１区の西側と北側、４区で検出した。台地が緩やかに傾斜する斜面上にあたり、アカホヤ層の削平が免れたことが早期の包含層や集石遺構の残存状態が良かった一因としてあげられる。１区の南側と２区・３区は表土層を除去すると、ローム層が検出された。岩土原でも、岩土北平と同様にローム層中に縄文時代早期の包含層の落ち込みが確認されている。３区では、土坑を９基検出したが、耕作による影響も大きい。

遺物では、旧石器時代の細石刃・細石核や使用痕剥片、縄文時代早期及び中期・後期・晩期の石器・土器が出土した。また、弥生時代中期の中溝式土器の甕口縁部、古墳時代後期では、壺・甕・鉢・高杯等が出土している。また、中・近世では陶磁器が、時期は特定できないが土錘・石錘等も出土している。遺物の大半は１区から出土した縄文時代早期の遺物が占め、新最終処分場建設に伴う上田下遺で多く出土した縄文時代晩期の遺物は少ない。また、削平の影響からか、弥生～古墳時代及び中近世の遺物も少ない。中近世では遺構の検出は無く、耕作土中より陶磁器が出土したが、一部を除き小破片が多い。陶磁器の同定には、宮崎県文化財課の堀田孝博氏による調査指導を受け、35．出土陶磁器一覧表にまとめた。14世紀後半～幕末まで長い期間生活の場として使用されたことが、陶磁器を通して推察されるとのことであった。陶磁器の中には、中国製、関西系のものも見られることから瀬戸内海航路を通しての交流や豊後大友氏、堺商人との関係も伺えるとの指摘を受けた。岩土北平遺跡に西側の上田下遺跡から派生する南側の尾根上には五輪塔群も確認されていることから、周辺には中近世の良好な生活空間が残っている可能性も高いと判断され、今後の開発には十分注意する必要がある。



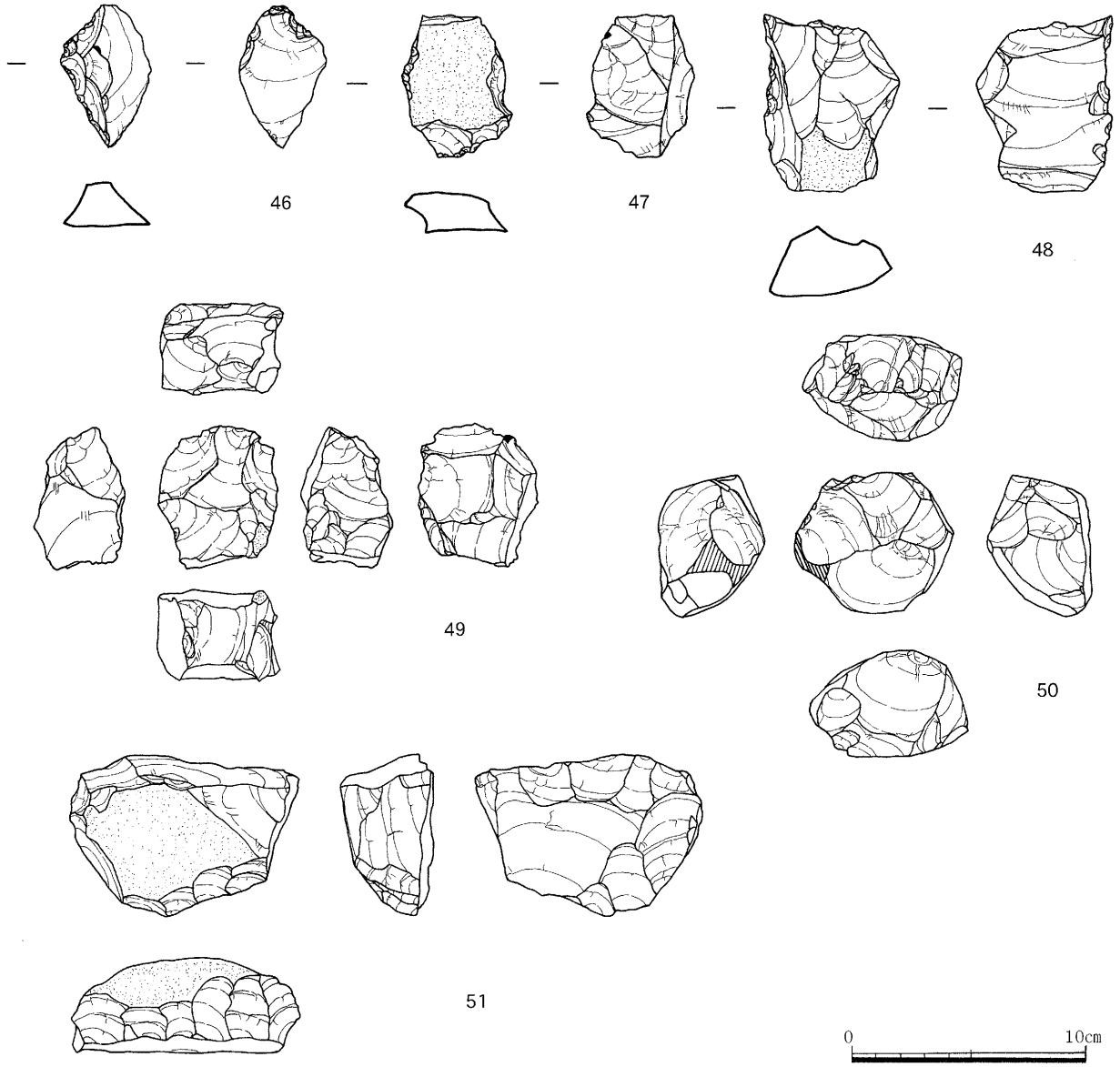
11. 岩土原遺跡遺構配置図（S＝1/400）



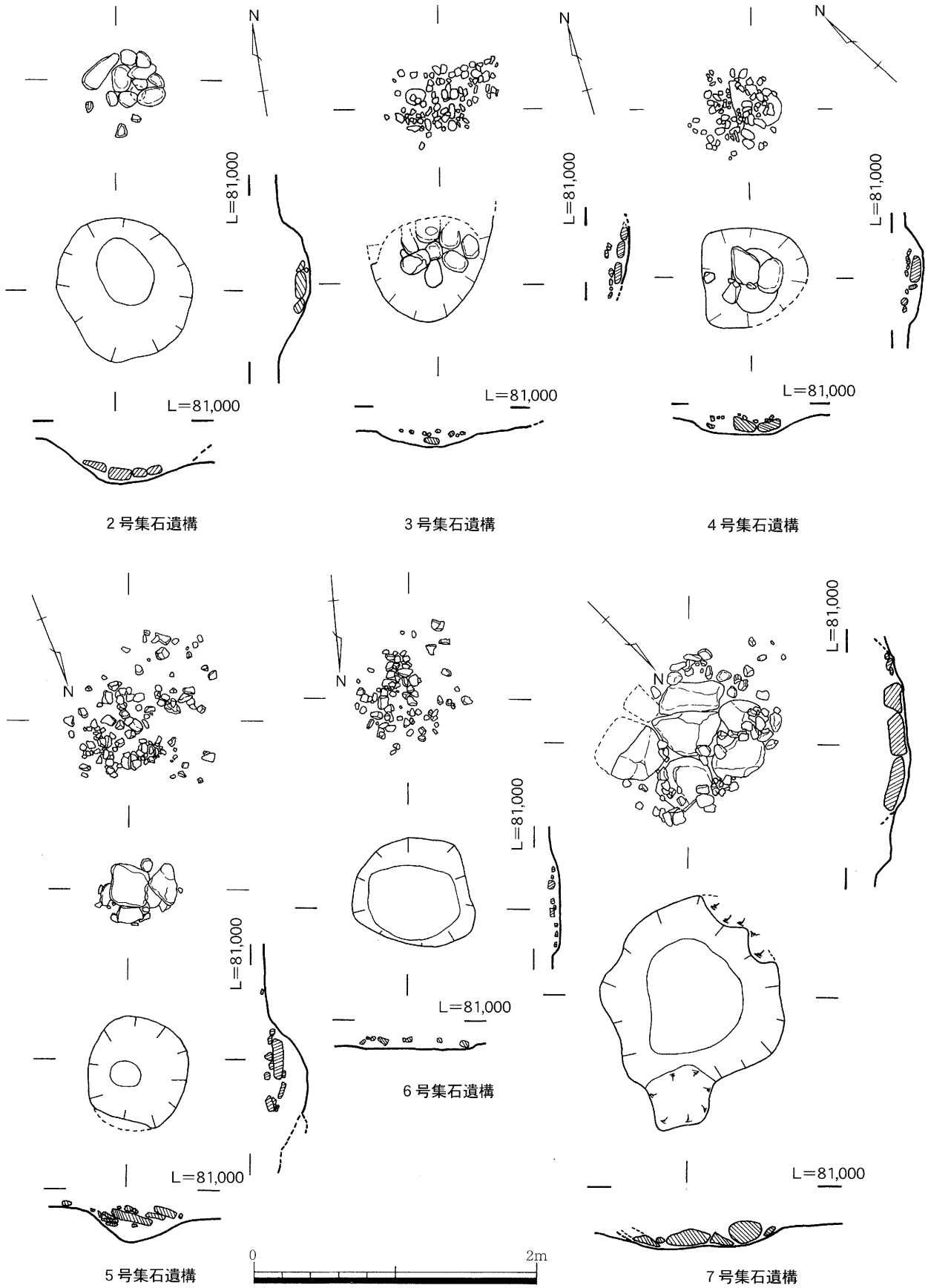
12. 岩土原遺跡出土遺物実測図① (S＝1/2・1/3・2/3)

旧石器時代の遺物として細石刃、細石核、使用痕剥片、スクレイパー、加工を有する剥片、礫器、石核等が主にⅦ層上面から出土しているが、量的には多くない。石材としては、流紋岩を主体としてホルンフェルス、黒曜石の使用が認められる。流紋岩製の細石核は船野型ではなく、スクレイパーの側面に剥離面が見られるものである。また、黒曜石製の小型三角形を呈する板状の剥片を利用した細石刃核が出土している。打面を順繰りに回転しながら細石刃を剥離し、自然面はそのままで調整剥離も行わないシンプルな石器である。今回の調査で出土した細石刃は、ホルンフェルス製の１点のみで、黒曜石製・流紋岩製の細石刃は出土していない。隆帯文土器の出土も無かった。

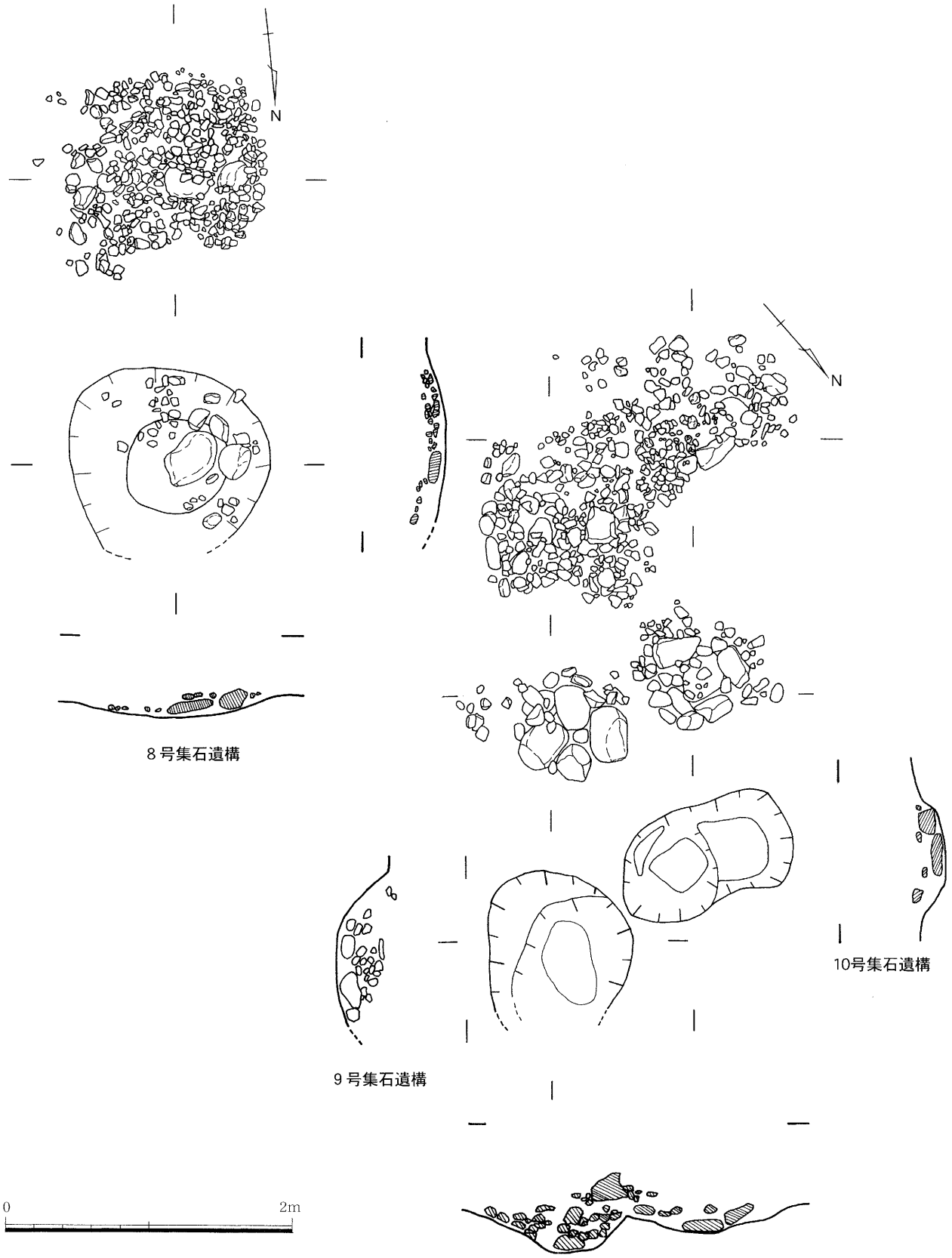
旧石器時代の遺物は縄文時代早期の包含層や竪穴住居跡、集石遺構や土坑、焼土集中部内からの出土例も見られるが、ローム層下位からの遺物の無くナイフ型石器等の出土はなかった。一部トレンチを掘り下げ白斑ローム下位まで掘り下げたが、遺物・遺物の検出はなかった。



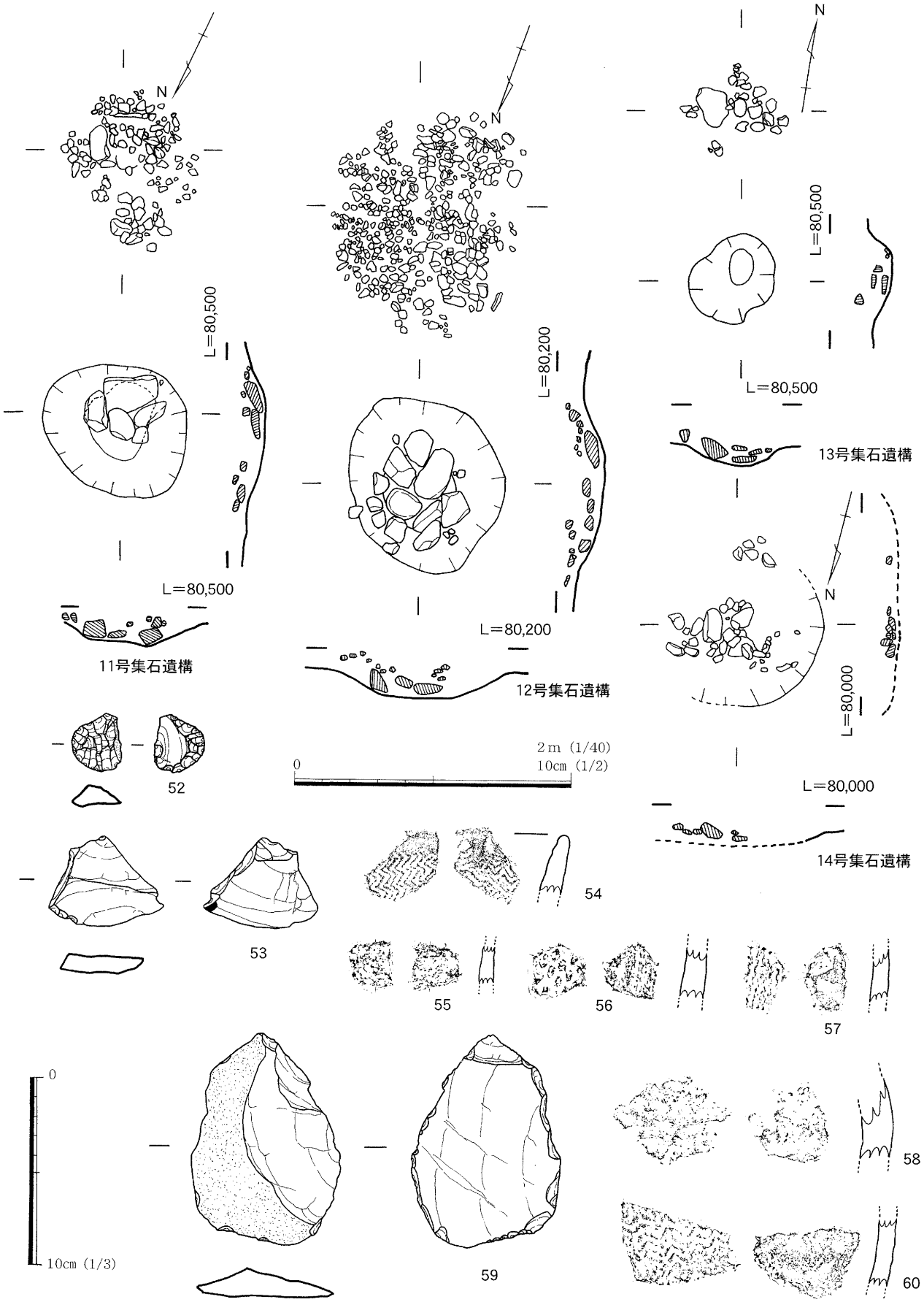
13. 岩土原遺跡出土遺物実測図②（S＝1/3）



14. 岩土原遺跡集石遺構実測図①（S＝1/40）



15. 岩土原遺跡集石遺構実測図②（S＝1/40）

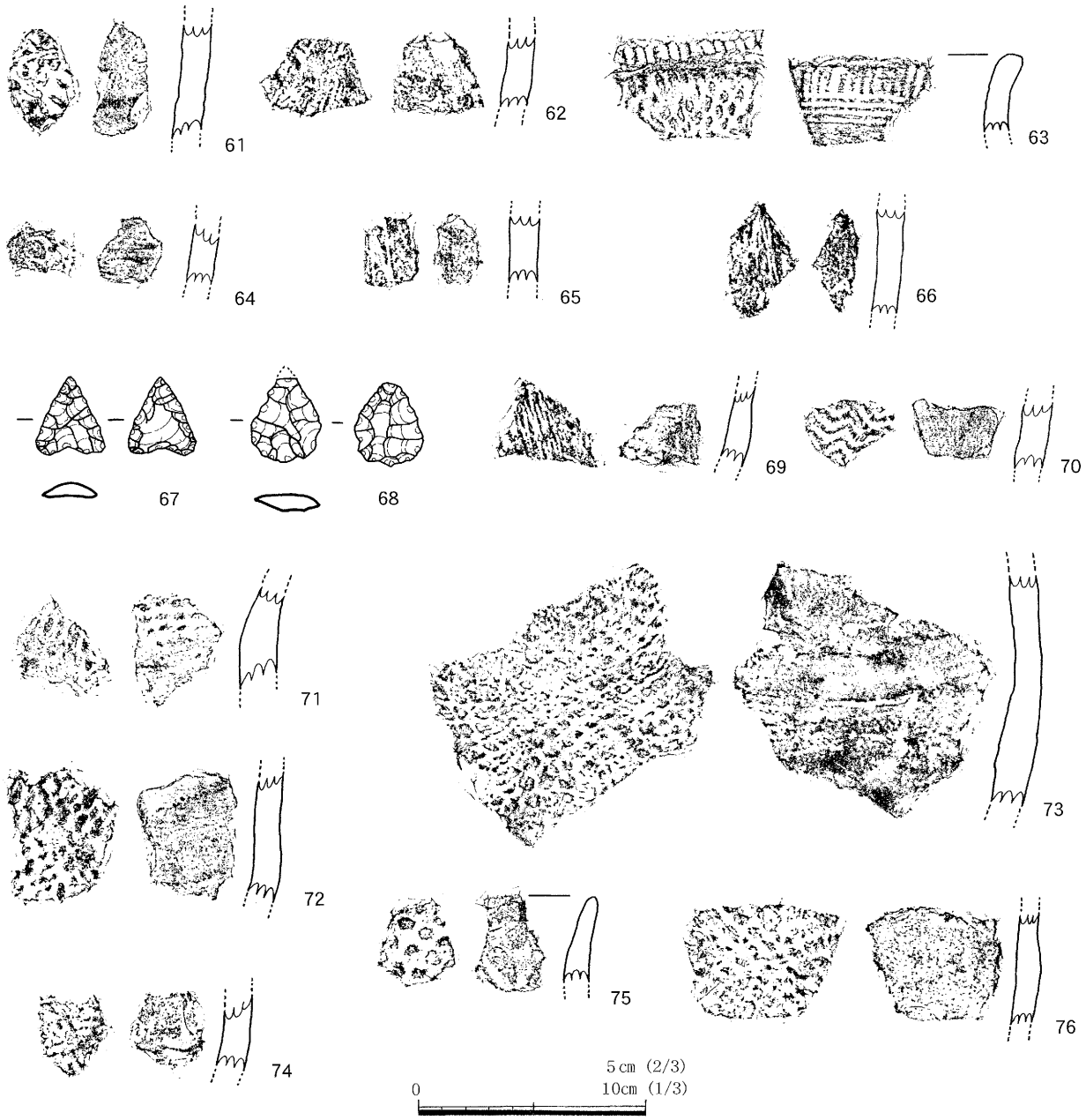


16. 岩土原遺跡集石遺構実測図③（S＝1/40）集石遺構内出土遺物実測図①（S=1/2・1/3）

集石遺構

集石遺構は、焼けた礫が円形状に集中し、下部に敷石と掘り込みの見られる遺構であるが、敷石がない事例も多い。本遺跡では、13基の集石遺構を検出した。ほとんどの集石遺構で敷石が確認されている。敷石には扁平な円礫を使用する例（２号）や人頭大の川原石を利用する例（７号）もある。近接する事例が２例（３号・４号、９号・10号）ある。掘り込みはほとんどが20～30cm程度であるが、70cmを測る事例もある。（９号）10号集石遺構には掘り込みに段がつく。

出土遺物には、石器では石鏃、スクレイパー、使用痕剥片等がある。土器はほとんどが押型文土器で、貝殻腹縁文土器、より糸文が若干出土している。１区の東側では焼けた礫の集中部を１ヶ所検出したが、掘り込みは確認できなかった。出土遺物もなく、周囲に礫がまばらに見られる程度である。



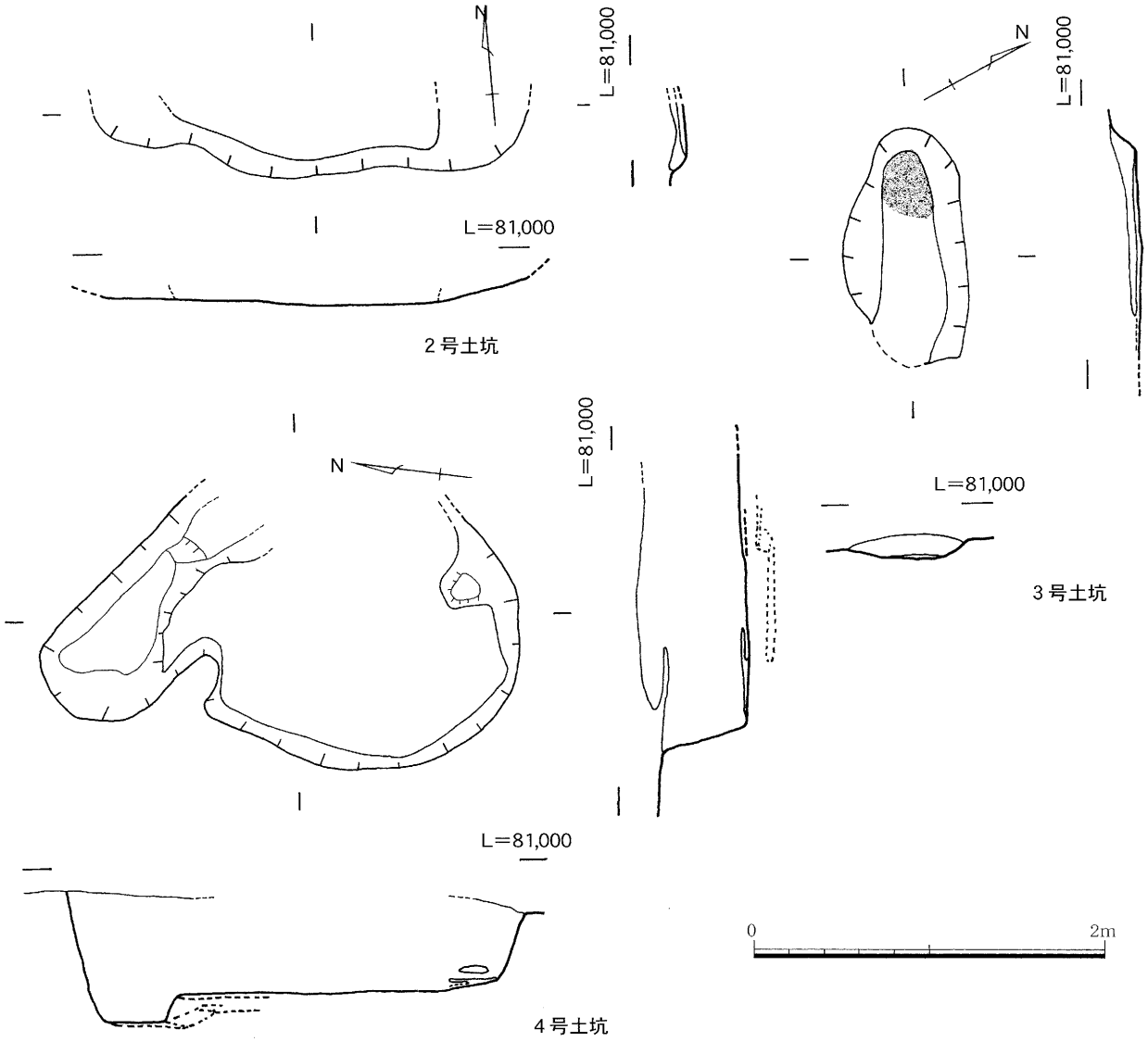
17. 岩土原遺跡集石遺構内出土遺物実測図（S＝1/3・2/3）

集石遺構内より出土した炭化物の放射性炭素年代（14C年代）測定を行った（３号、４号）測定の結果、３号集石遺構で8,607±35yrBP、４号集石遺構で8,692±35 yrBPの値が得られている。おおむね縄文時代早期中葉もしくはその前後に相当し、出土遺物との差異はない。

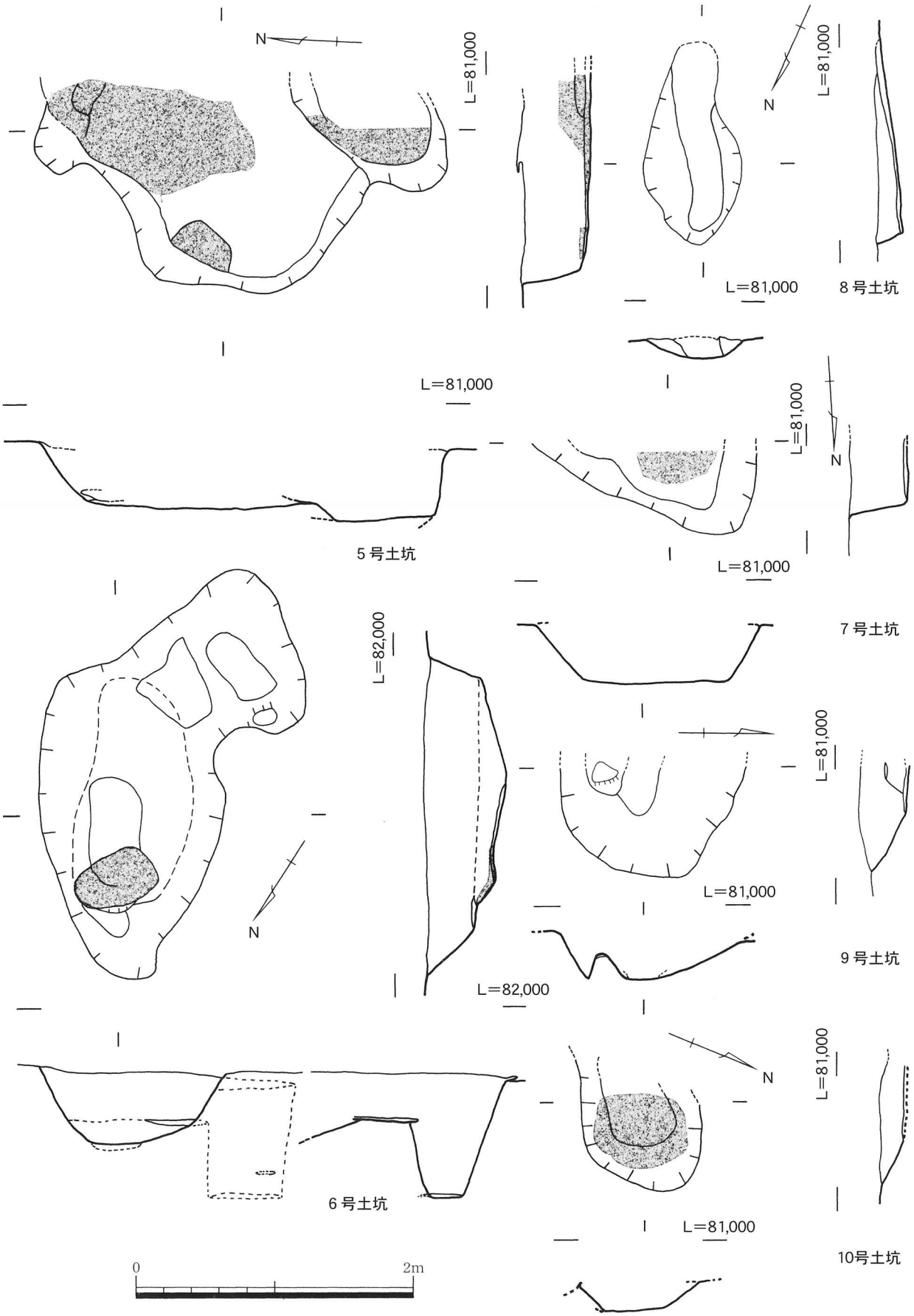
土坑

土坑は、３区で９基確認した。ほとんどの土坑は耕作による影響を受けている。一部調査区外へのびており、完掘できたのは７号土坑のみである。土坑の底部には焼土の集中が見られ、平面形から連結土坑の可能性もある。4号と5号土坑は、掘り込みがしっかりしており床面もフラットである。一部調査区外への伸びているため詳細は不明であるが、連結土坑とは別の機能も考えられる。

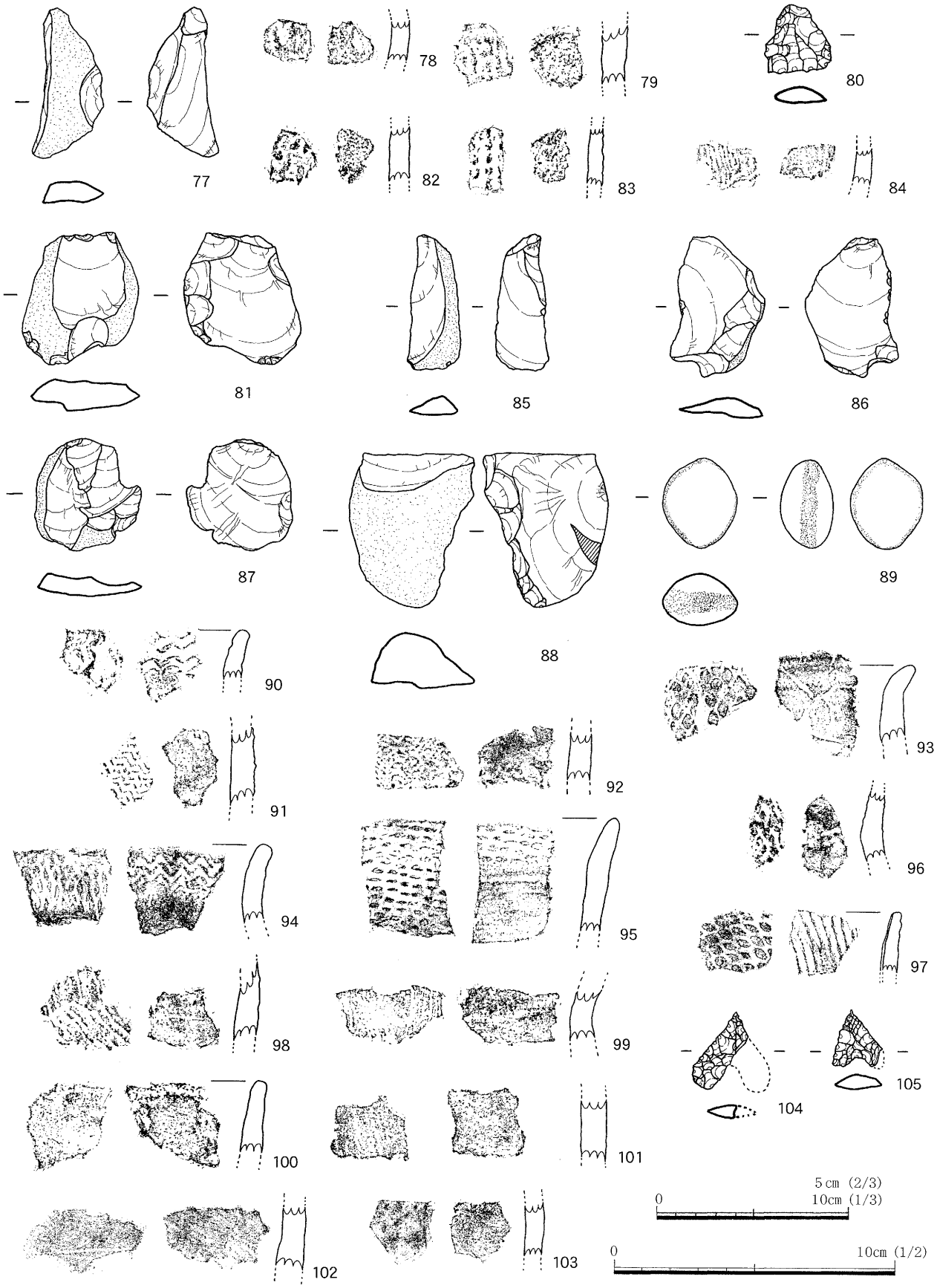
出土遺物には、石鏃、使用痕剥片、スクレイパー、尖頭状石器、貝殻文円筒土器、条痕文土器、より糸文土器、押型文土器等がある。一部旧石器時代の遺物も出土している。



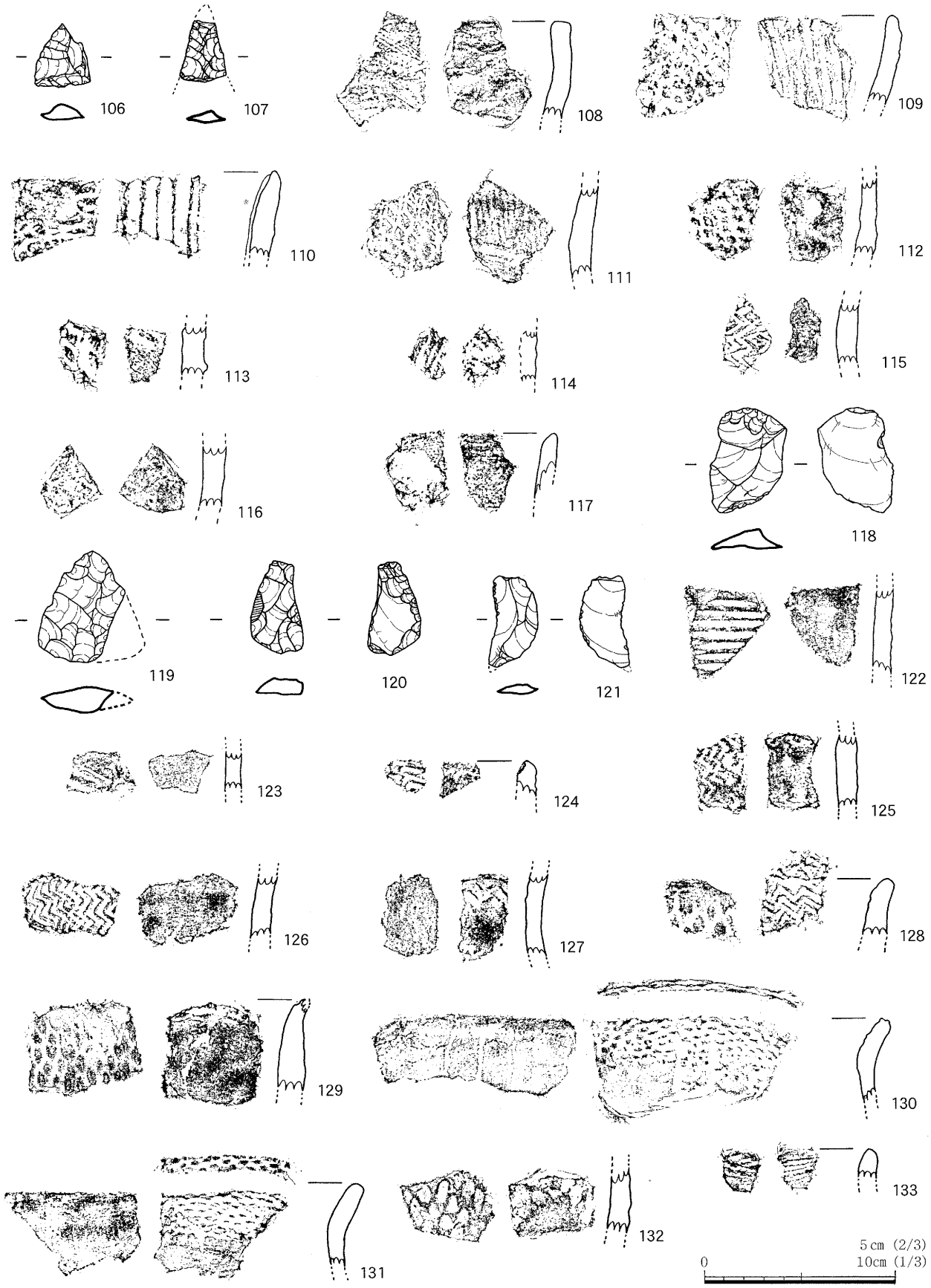
18. 岩土原遺跡土坑実測図①（S＝1/40）



19. 岩土原遺跡土坑実測図②（S＝1/40）



20. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図① (S＝1/2・1/3・2/3)



21. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図②（S＝1/3・2/3）

焼土集中部

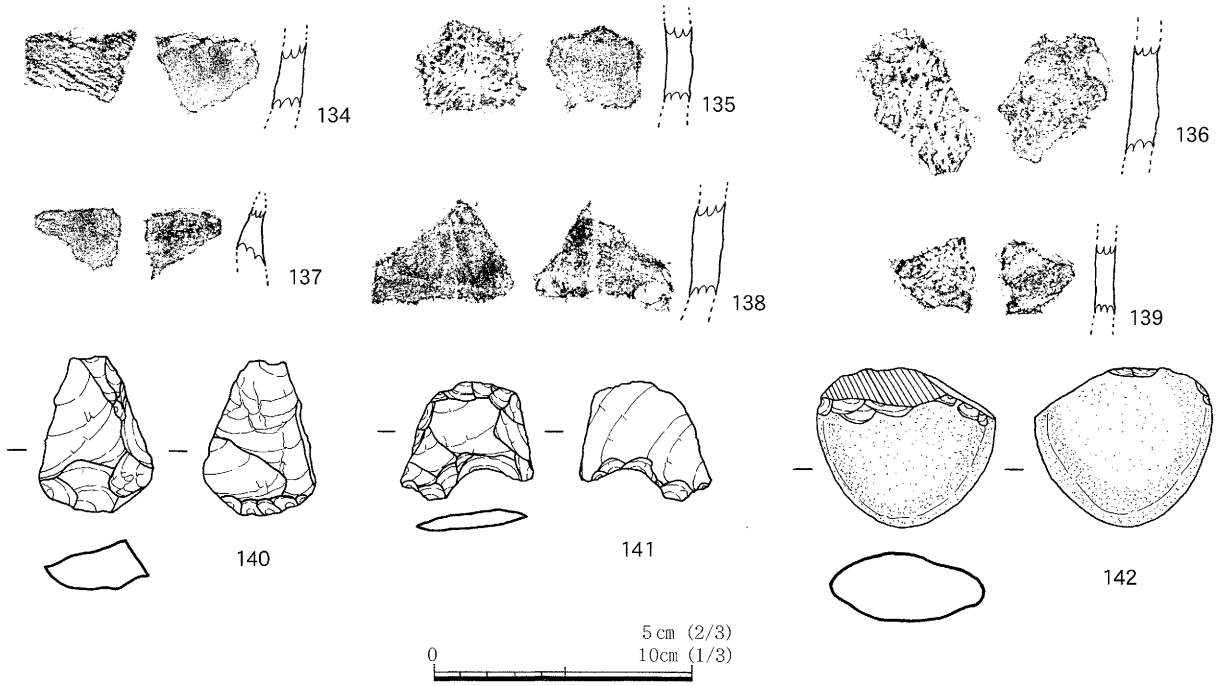
本遺跡でも、１区、２区、４区でローム層中に縄文時代早期包含層面からの落ち込みを確認した。ほとんどの落ち込みには炭化物及び焼土の集中が見られる。平面形は不定形が多く、明確な掘り込みラインを確認できていない。平板による位置及び範囲確認と、断面観察を行った。出土遺物には、石鏃、スクレイパー、敲打器、加工を有する石器、磨石、押型文土器、より糸文土器、貝殻条痕文土器が出土している。出土遺物の無いものが多い。

２区と３区の焼土集中部より出土した炭化物の放射性炭素年代（14C年代）測定を行った結果、２区で8,380±40yrBP、３区で8,270±30 yrBPの値が得られている。

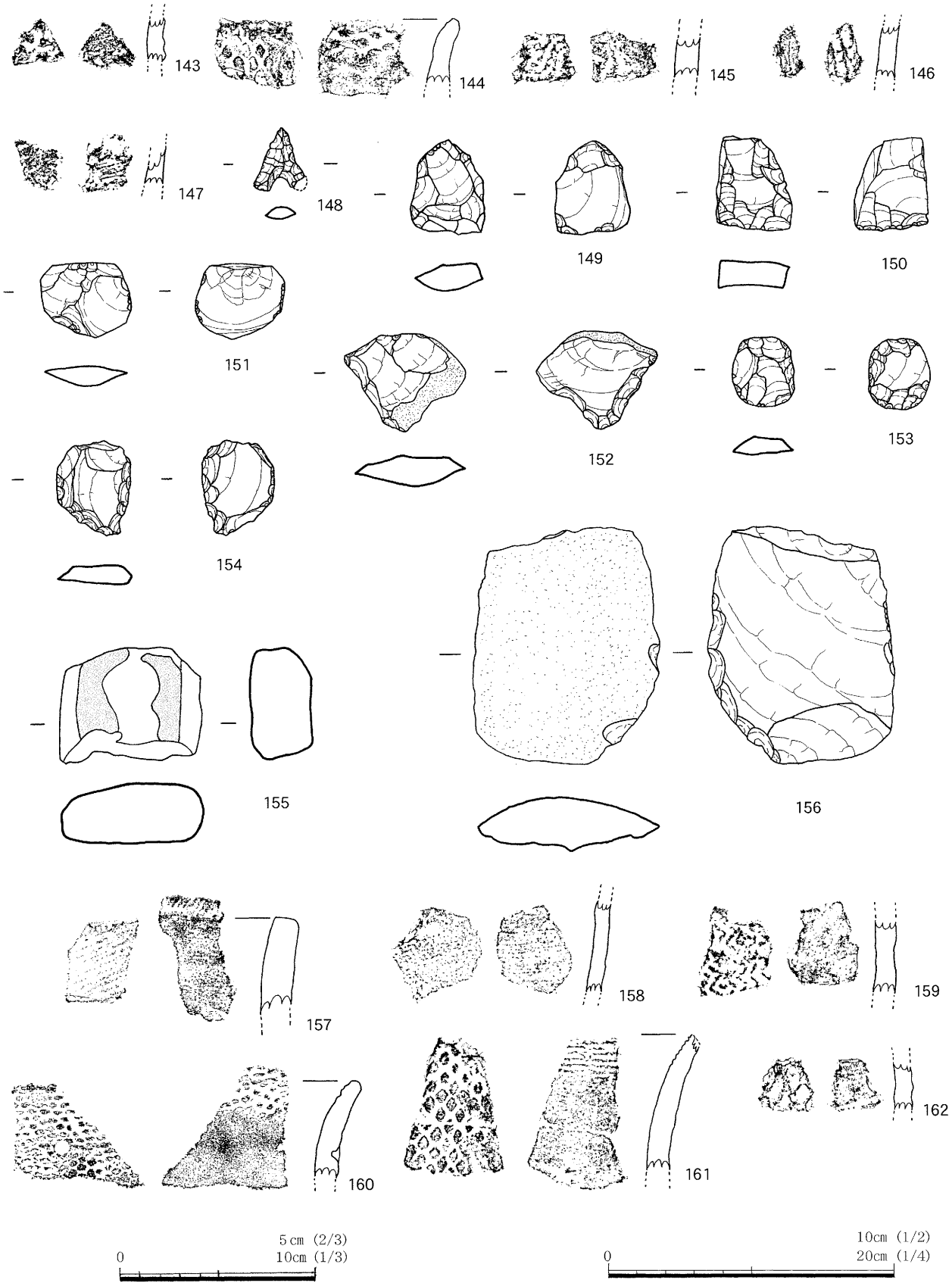
この数値は集石遺構の年代とも近く、出土遺物の大半を占める押型文土器の年代である縄文時代早期中葉を示すものである。

岩土原遺跡から出土した遺物の大半は縄文時代早期に相当するものである。Ⅵ層はその縄文時代早期の包含層であるが、Ⅵ層中より出土した炭化材の放射性炭素年代（14C年代）測定を行った。その結果、7,694±32yrBPの値が得られている。早期の遺物はⅦ層であるローム層上面からも出土している。その逆の例もある。

早期でも、前葉に比定される貝殻条痕文や後葉の塞ノ神式・手向山式土器の出土例は少なく、中葉の押型文土器が圧倒的に多い。この他、より糸文、縄文、無文、松葉折施文、連続刺突文等を施す土器が少量出土している。無文土器には繊維痕が確認されるものがある。押型文土器では、楕円が大半を占め、山形文も少なからず出土するが、格子目は極端に少ない。楕円文と山形文、より糸文を組み合わせたさまざまなバリエーションの押型文が出土している。また、口縁部が直行するものはまれで、ほとんどが外反する。口縁内部には柵状文（原体を縦方向に押引いてつける文様）を施すものや、口唇部に山形文や楕円文を施文する事例もある。柵状文が次第に太くなり凸帯文となる楕円押型文土器（259）も出土している。



22. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図③（S＝1/3・2/3）

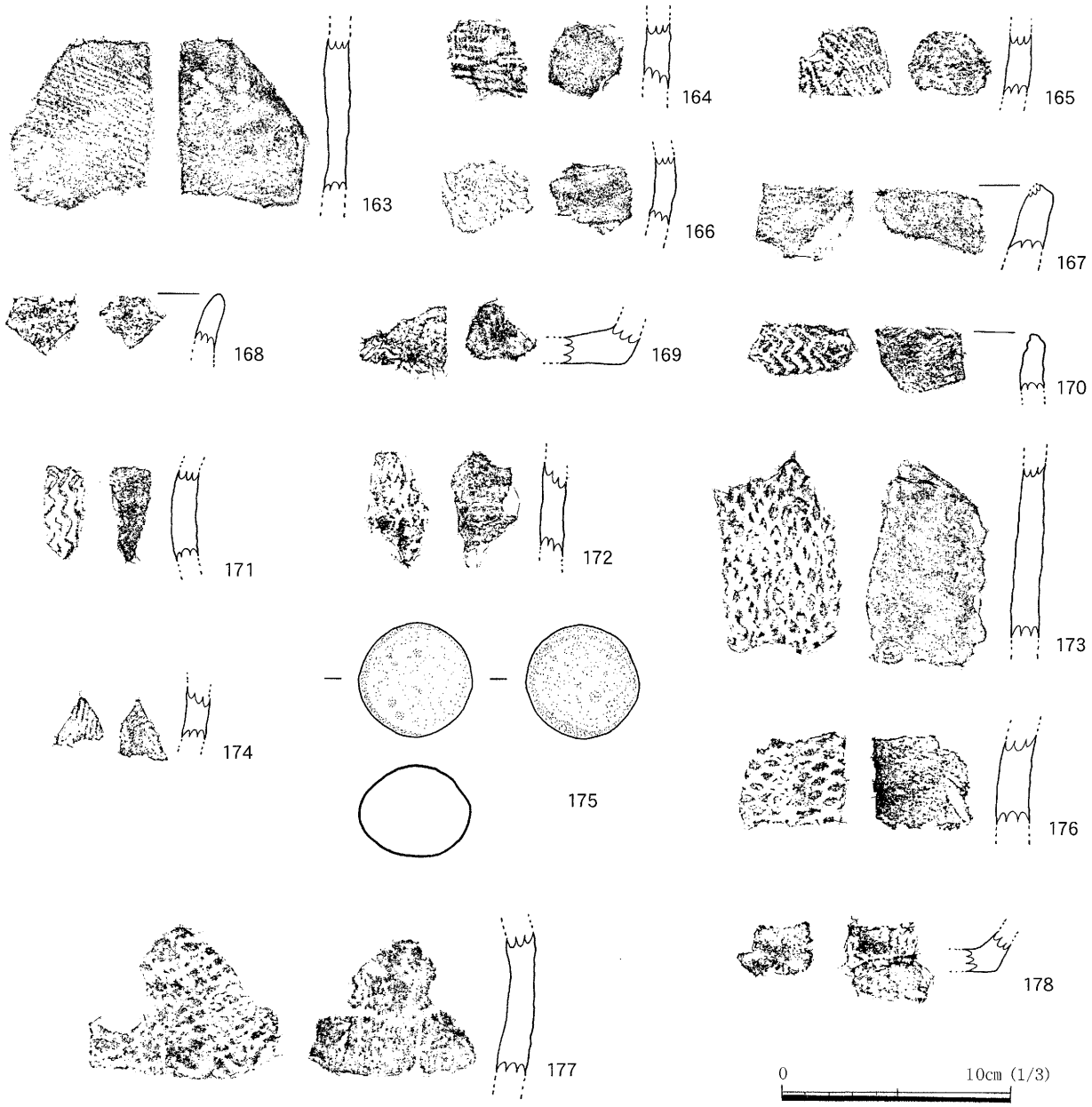


23. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図④（S＝1/2・1/3・2/3・1/4）

石器では、石鏃、尖頭状石器、使用痕剥片、スクレイパー、石錐、加工を有する石器、礫器、石斧（磨製、局部磨製、扁平打製）、叩石、敲打器、磨石、石皿等が出土している。包含層出土以外の石器については、土器と違って明確な時期決定が困難である。

石材として、チャート、赤チャート、黒曜石（産地については不明である）、姫島産黒曜石、流紋岩、ホルンフェルス、砂岩、頁岩、花崗斑岩、凝灰岩等が使用されている。アカホヤ層下位から姫島産黒曜石や砂岩製の礫器の出土例が増加しつつある。砂岩製の礫器については、片面に自然面を残す石器が多い。

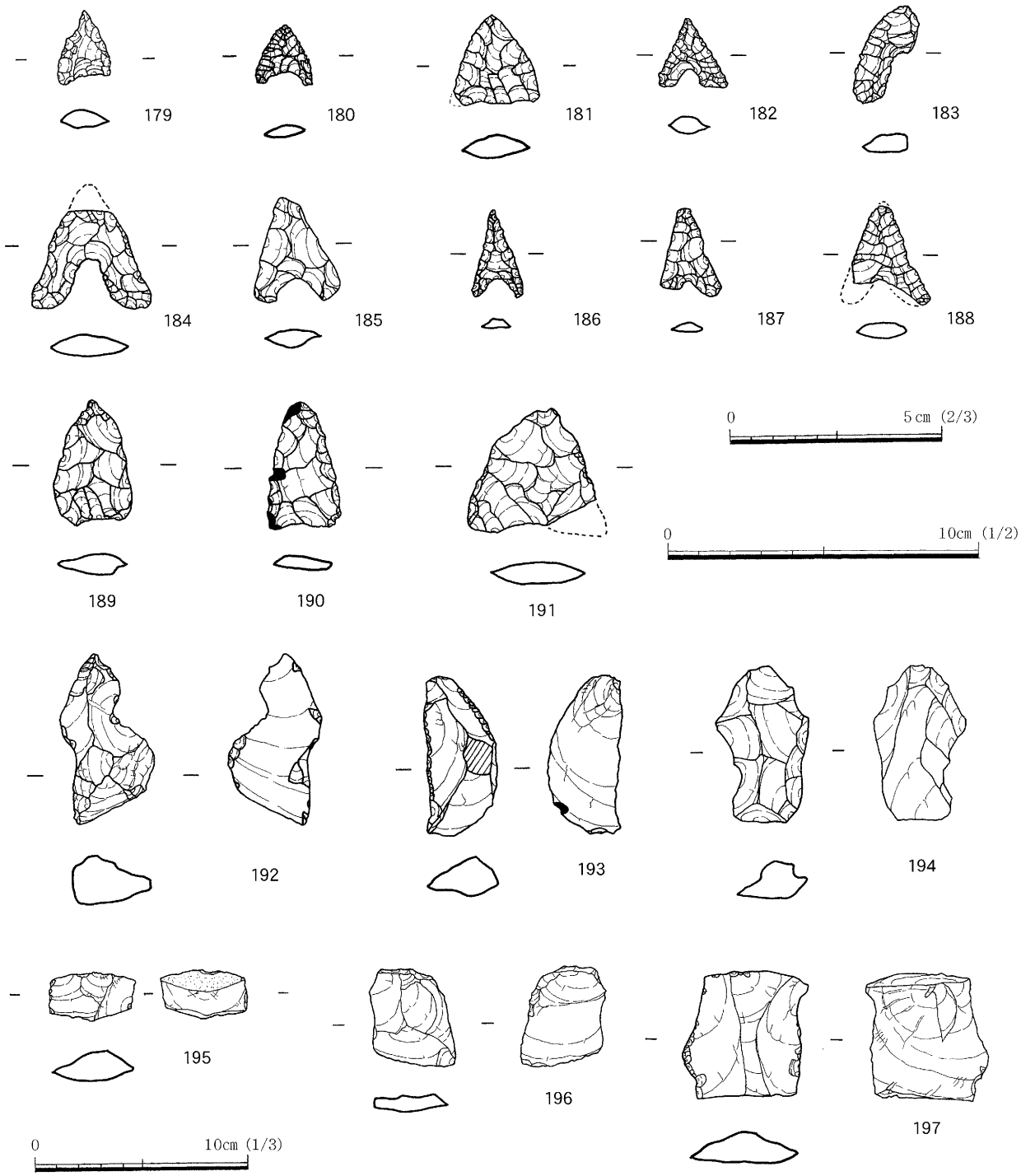
北方地区の遺跡の多くで、叩石、敲打器、磨石、石皿が出土している。山間部での植物性蛋白やでん粉摂取を目的とした生活の一端を垣間見るようで興味深い。



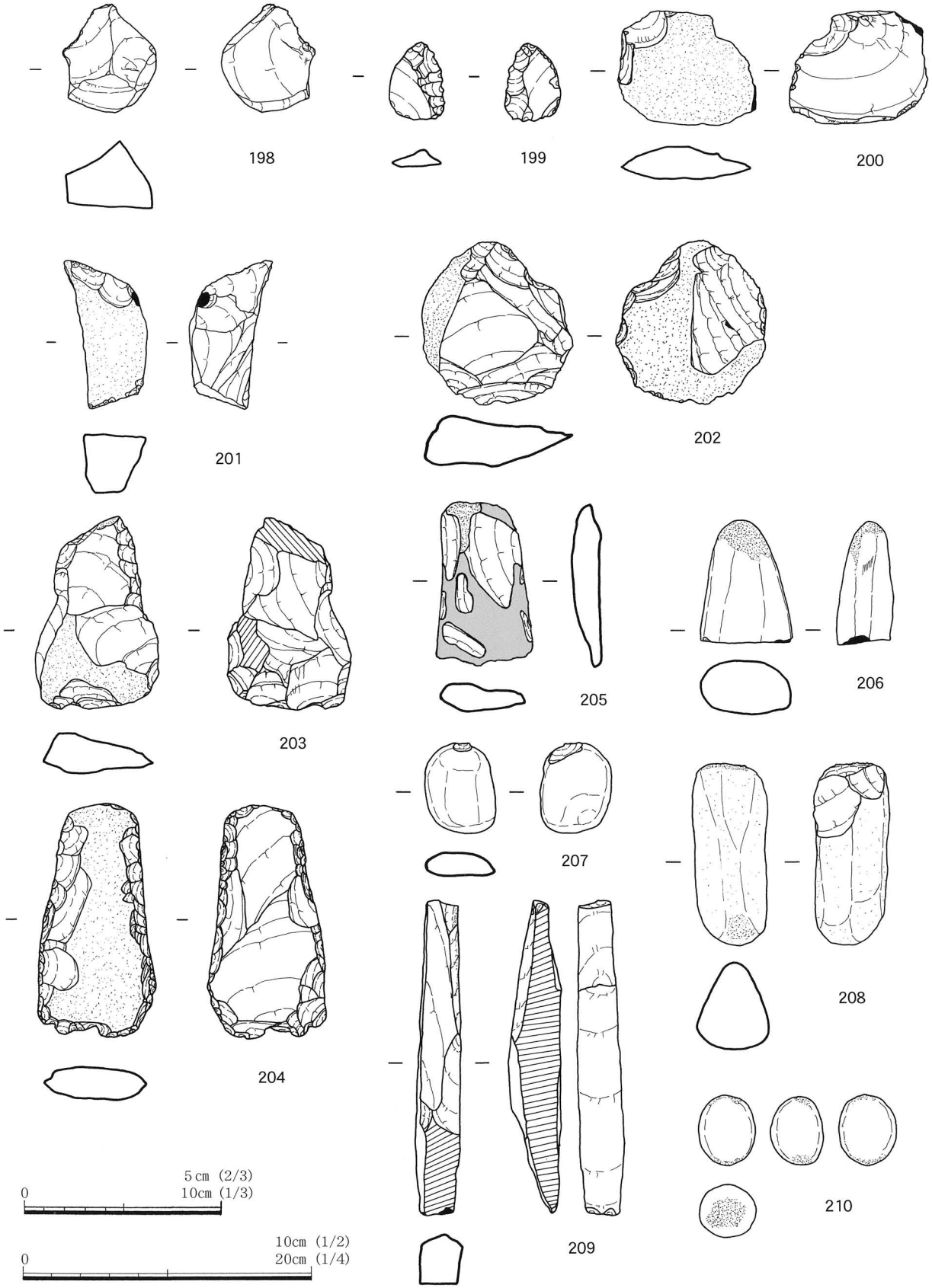
24. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図⑤（S＝1/3）

叩石、敲打器、磨石、石皿には、受熱の影響による赤変が見られる。

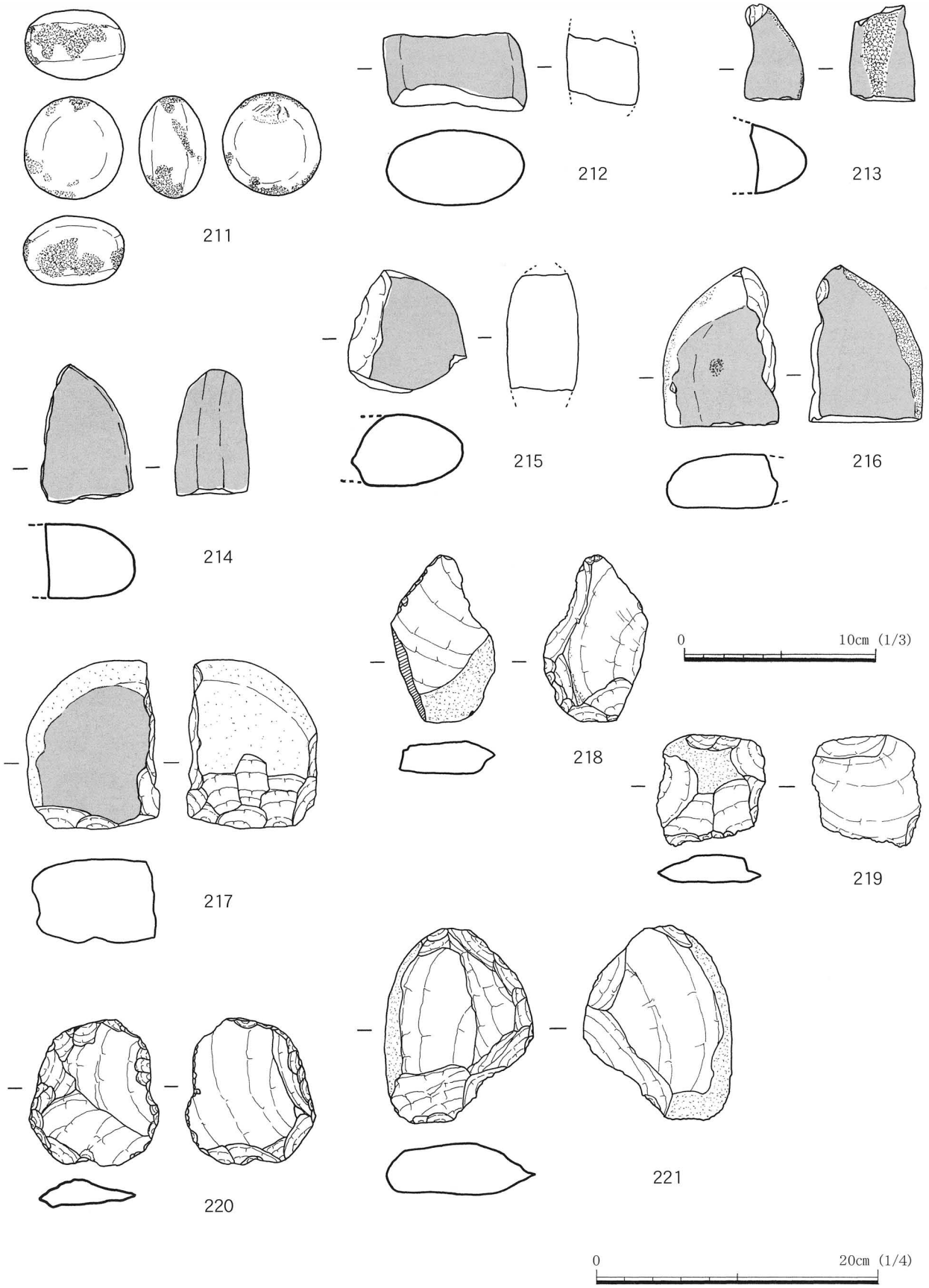
縄文時代前期～晩期の遺構は検出されていない。遺物も埋土中より縄文時代中期の船元式土器、後期の西平系土器、口縁部がやや内湾し沈線施文や貝殻ミガキによる調整が施される南九州系土器、晩期の凸帯文土器等が若干出土している状況である。精製磨研土器は出土していない。圧倒的に多いのは縄文時代早期の遺物である。早期でも、前葉に比定される貝殻条痕文や後葉の手向山式土器の出土例は少なく、中葉の押型文土器が圧倒的に多い。



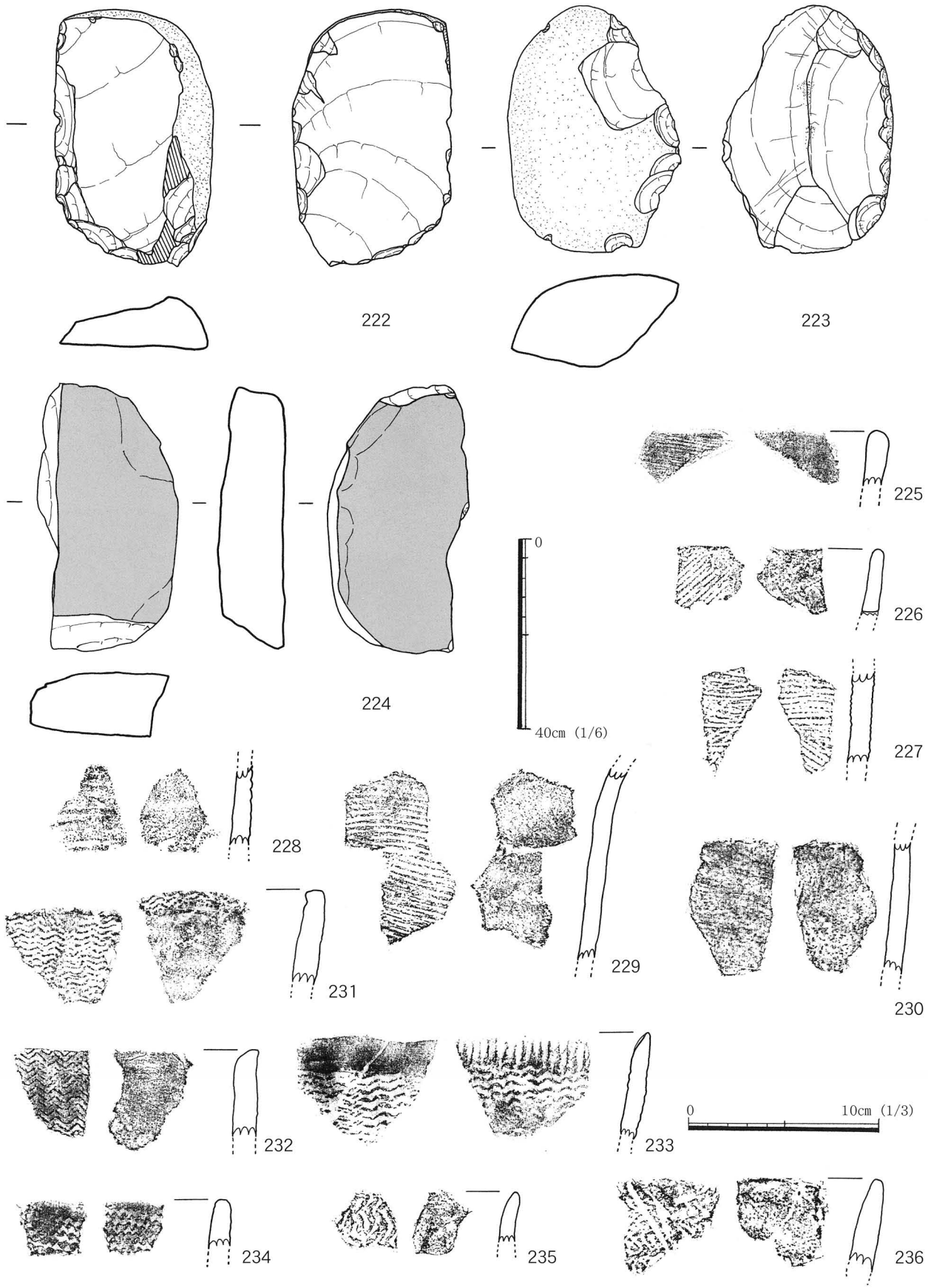
25. 岩土原遺跡出土遺物実測図③（S＝1/2・1/3・2/3）



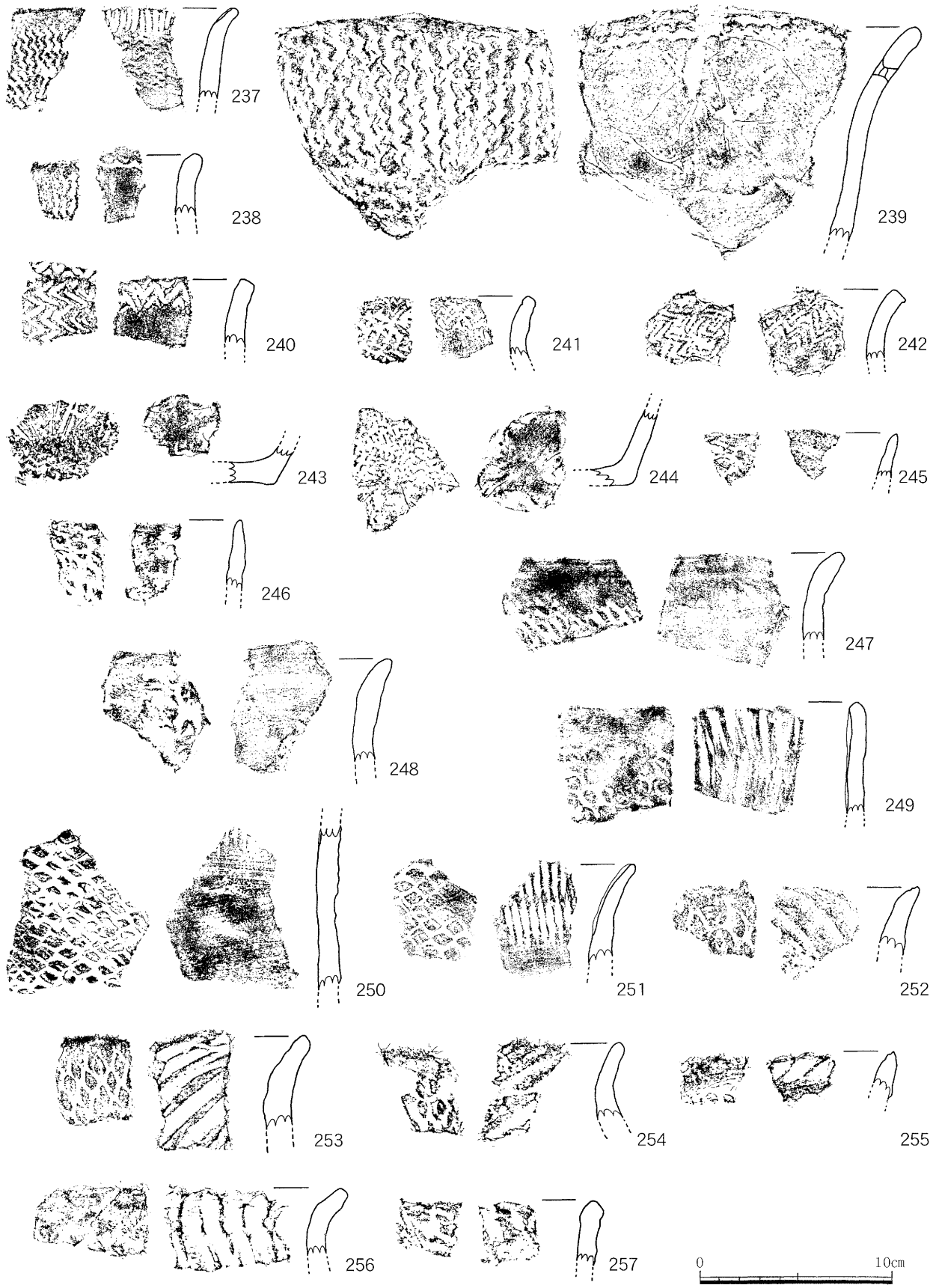
26. 岩土原遺跡出土遺物実測図④（S＝1/2・1/3・2/3・1/6）



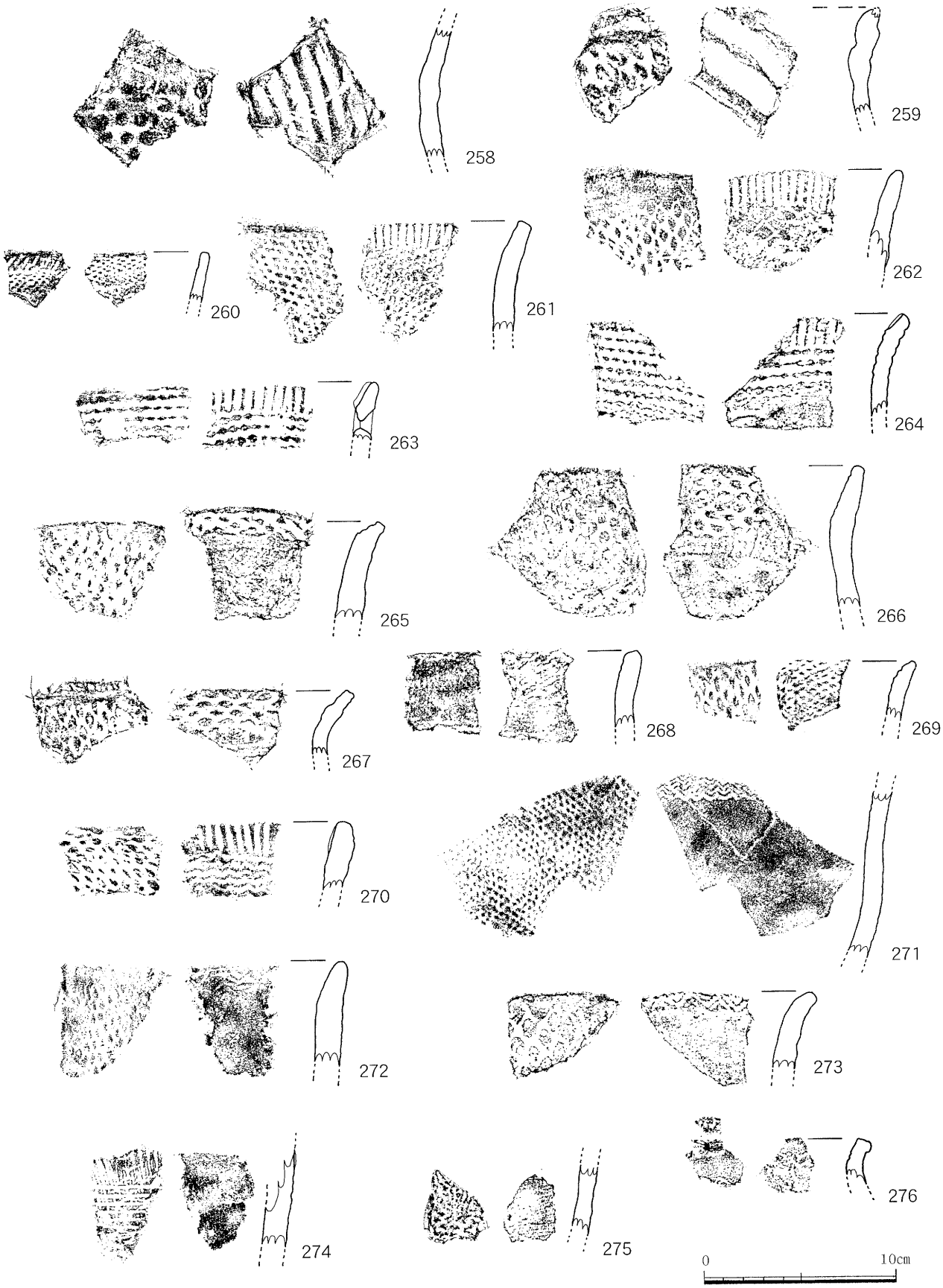
27. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑤（S＝1/3・1/4）



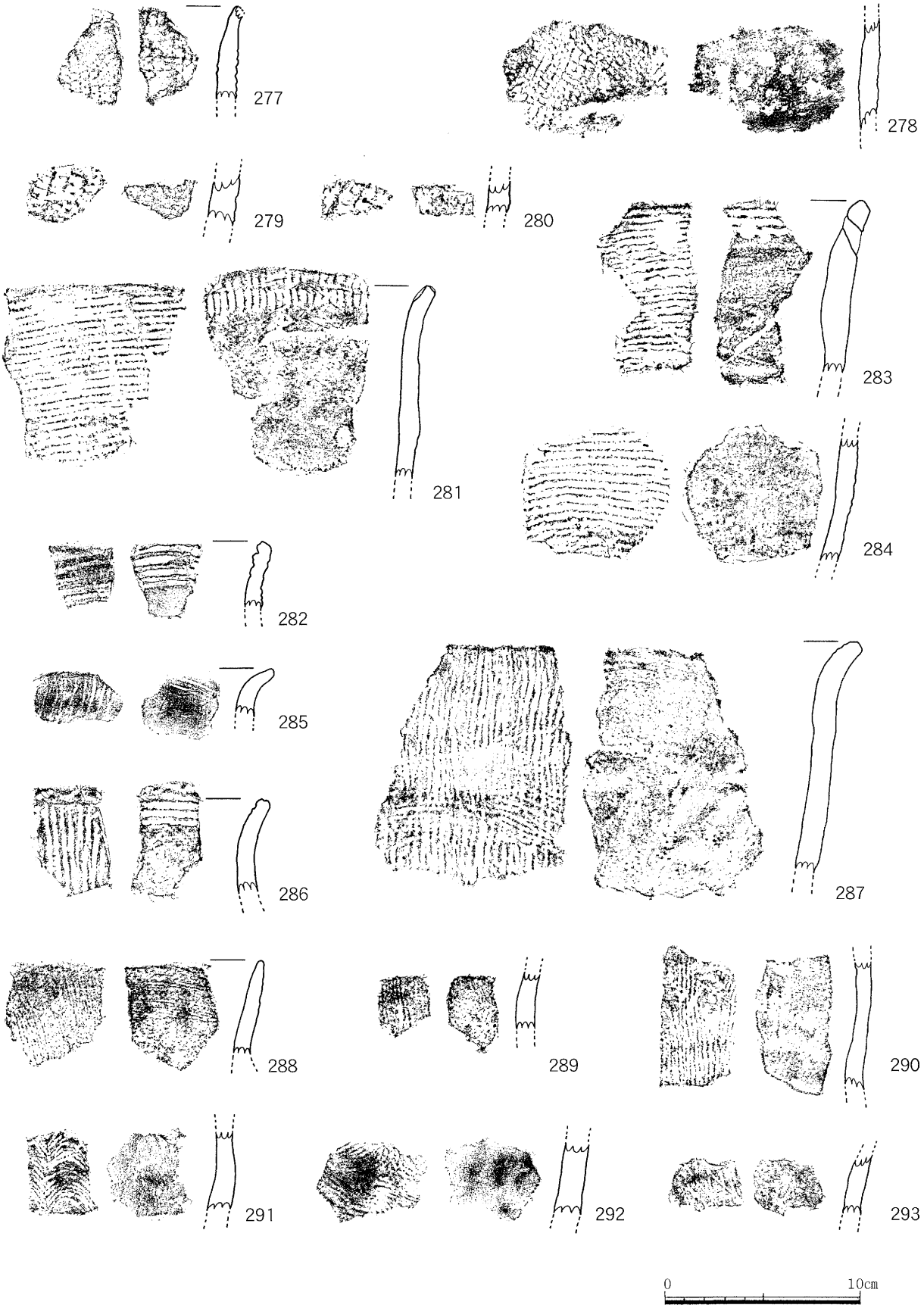
28. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑥（S＝1/3・1/6）



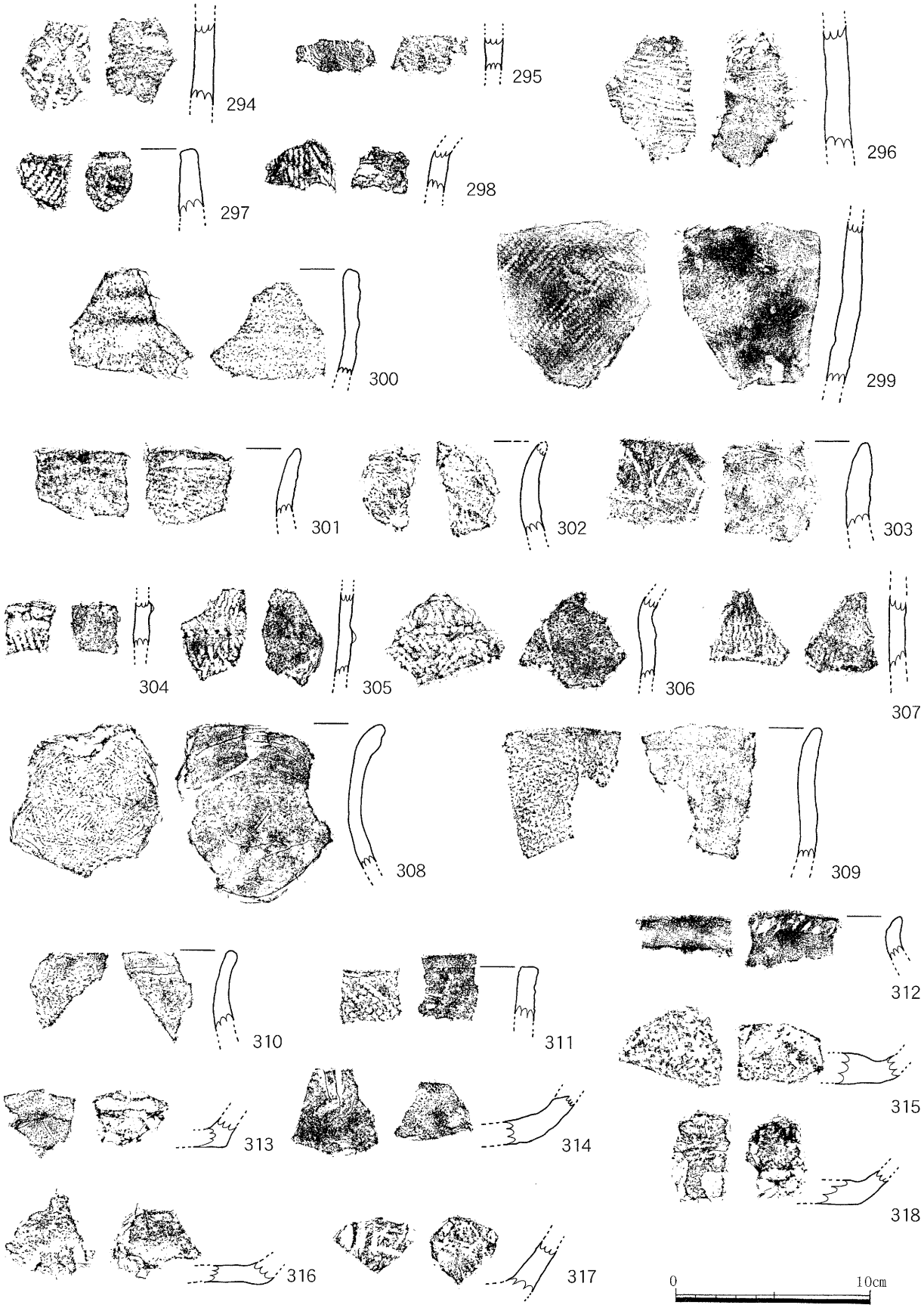
29. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑦（S＝1/3）



30. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑧（S＝1/3）



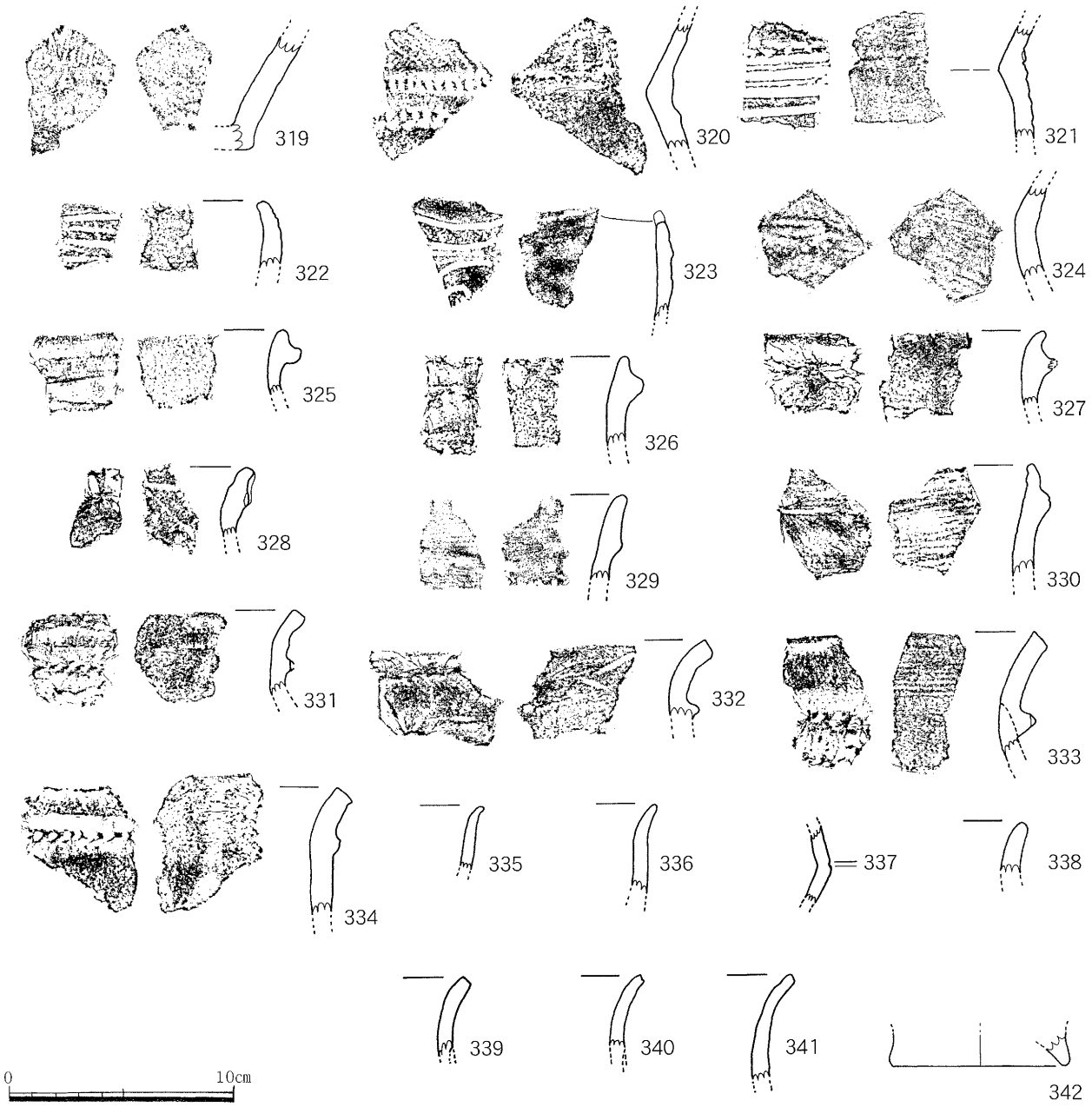
31. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑨（S＝1/3）



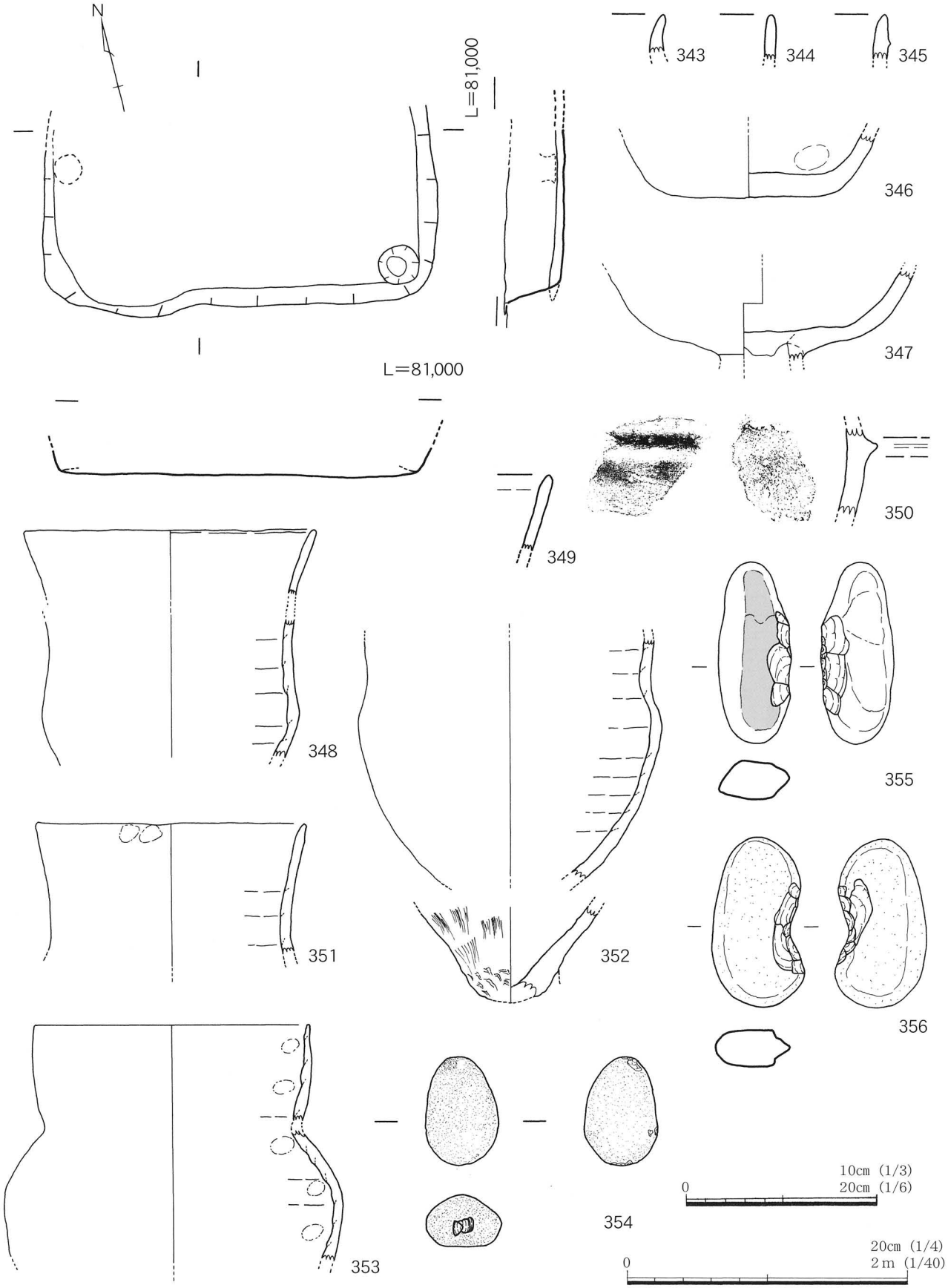
32. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑩（S＝1/3）

弥生・古墳時代の遺構としては、古墳時代後期の竪穴住居跡１軒のみ一部を検出したのみである。平面形は方形を呈し、１辺の長さは３ｍ未満の小型の住居跡になると思われる。床面はほぼ平坦で、検出面からの深さは42cmを測る。主柱穴は不明である。出土遺物には、壺、甕、鉢、高杯、砂岩製の敲打器、砂岩及び花崗斑岩製の礫器がある。東南側の壁際に浅い土坑が掘られているが、中より出土遺物はない。353の甕は底部が不明であるが、西側の壁際にふせた状態で出土している。周辺に炭化物や焼土の集中が見られることから、土器炉の可能性も考えられる。全体に埋土中に炭化物や焼土が多く見られ、炭化材も出土していることから焼失家屋の可能性もある。炭化材は樹種同定の結果、アカメガシワとクリであった。建築部材や器具の柄等に利用されたものと思われる。炭化物の分析を行なった結果、425ＡＤ～566ＡＤの値がでている。

遺構外の遺物として、中溝式の甕（331～334）の他に、古墳時代後期の甕や壺片が出土している。



33. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑪（S＝1/3）



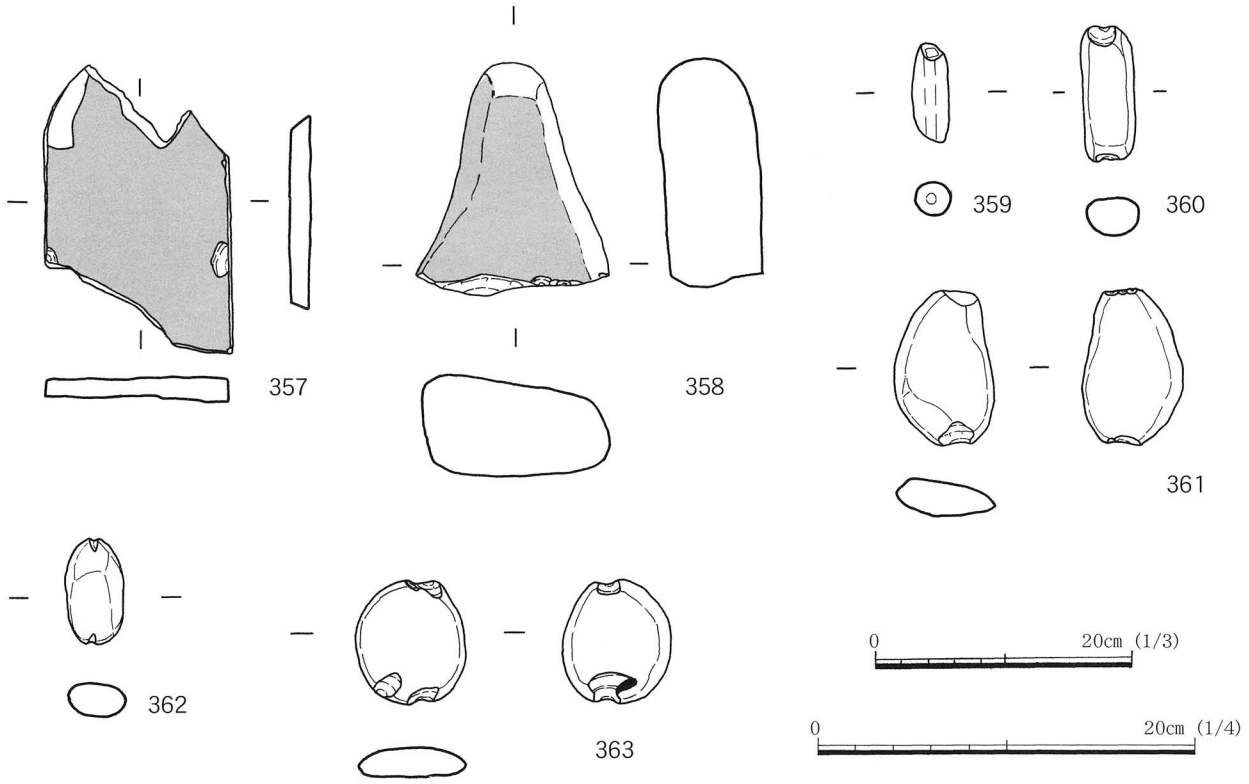
34. 岩土原遺跡竪穴住居跡実測図（S＝1/40）
竪穴住居跡内出土遺物実測図①（S＝1/3・1/4・1/6）

古代から近世にかけての遺構の検出は無かった。中・近世の遺物としては陶磁器があるが、鉄器等は出土していない。陶磁器は、輸入品（龍泉窯系青磁、漳州窯系青花、景徳鎮系青花、褐釉陶器等）と国産品（肥前系陶磁器、上野・高取系陶器、瀬戸・美濃系陶磁器、関西系陶器、備前焼等）が出土しているが、耕作の影響からか小破片が多い。また、明確に時期を判断できない遺物をとして、砂岩製の砥石（357・358）と土錘（359）及び砂岩製の石錘（360～363）がある。

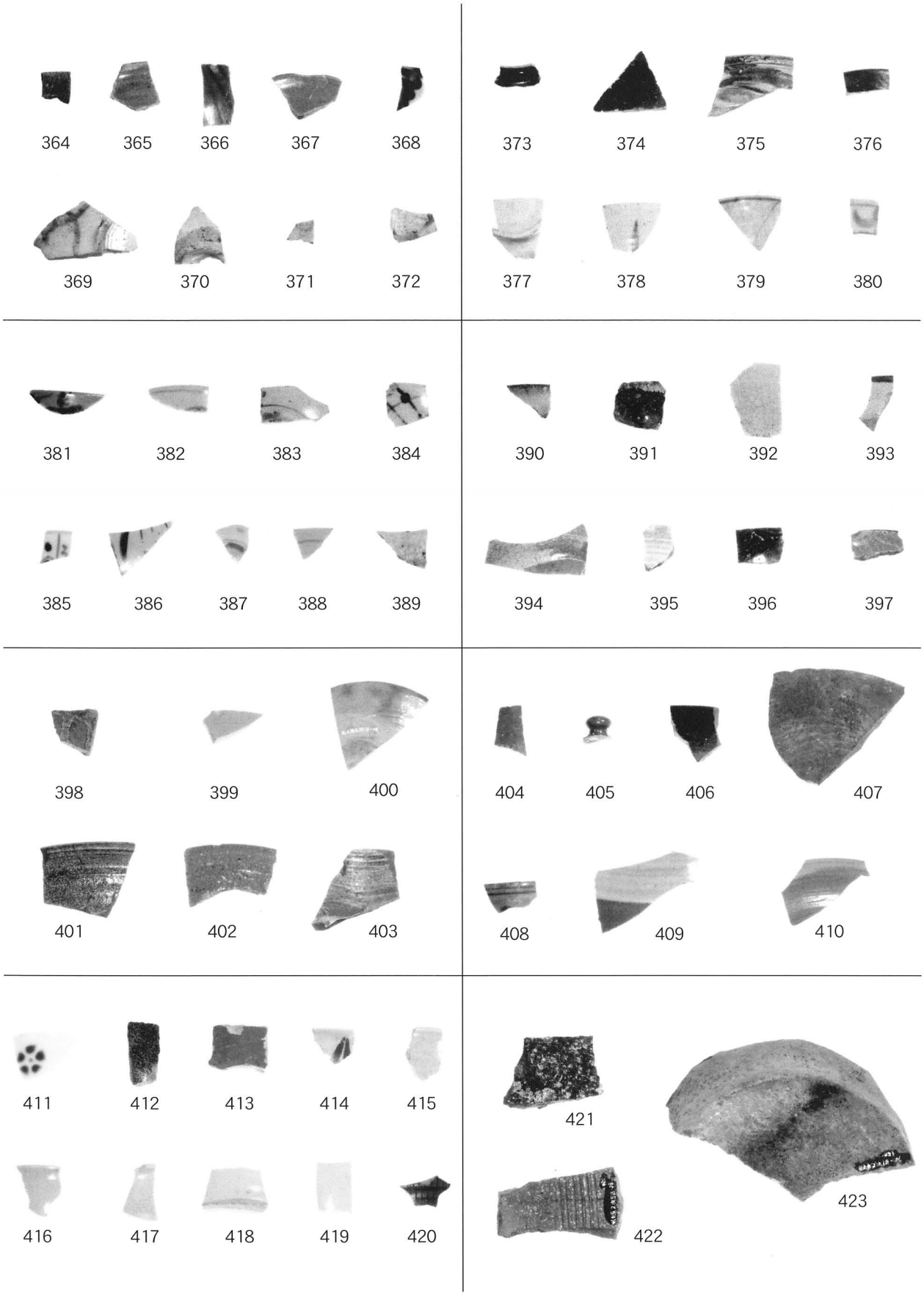
産地	種類	時期	出土遺物	備考
龍泉窯系青磁	端反碗	14c後半～15c前半	364	
	直口碗	14c後半～15c前半	365	
	蓮弁文碗	15c後半～16c	366	
	稜花皿	15c後半～16c前半	367	
景徳鎮窯系青磁	皿	15c後半～16c	368	外面宝相華唐草文
			370	
	碗？	15c後半～16c	369	
漳洲窯系青花	皿	16c後半	371	
			372	皿以外の可能性あり
褐釉陶器	茶入	15c後半～16c前半	373	中国産？
	壺	16c代？	374,375	中国産　374？
			375	中国産？
天目茶碗	碗	不明	376	中世
肥前系磁器	高台無釉碗	17c中頃	377	
	広東碗	1780～1840年代	378	
	端反碗	1810～1860年代	379	
	染付端反碗	1810～1860年代	380,384	
	染付丸碗	18c～19c	381,382	肥前系以外の九州の窯の可能性あり
	染付碗	18c～19c	383	細分困難
	染付蓋物	18c～19c	385	
	染付袋物	18c～19c	386	
	小杯	19cか？	387	上絵付
	染付皿	18c～19c	388,389	

産地	種類	時期	出土遺物	備考
肥前系陶器	碗	16c末	390～392	鉄釉・藁灰釉
	碗	17c後半～18c前半	393,394	銅緑釉・透明釉
	刷毛目碗	17c後半～17c前半	395,396	
	皿	16c末～17c初頭	397	絵唐津
	皿	17c中葉	398	二彩唐津
	皿	17c後半～18c前半	399	
			400	銅緑釉・透明釉かけ分け皿
	刷毛目皿	17c代？	401,402	二彩手
	刷毛目鉢？	17c代？	403,414	花瓶・徳利？銅緑釉
	袋物	19c	404	
	土瓶蓋	19c	405	
	擂鉢	17c後半	406,407	小峰焼の可能性有
陶胎染付	香炉・火入れ類	18c後半～19c	408	
上野・高取系陶器	徳利？	不明	409	
	皿	不明	410	
瀬戸・美濃系磁器	端反碗	19c代	411	
	天目茶碗	15c後半～16c中葉	412,413	
関西系陶器	端反碗	18c後半～19c前半	415～417	
		19c代	419	
	袋物（徳利？）	19c代？	418	
	土瓶or鍋	19c代？	420	
備前焼	四耳壺	15c中葉～16c	421	
	擂鉢	14c中葉～15c中葉	422	
	壺	時期不明	423	

35. 出土陶磁器類一覧表



36. 岩土原遺跡その他の出土遺物実測図（S＝1/3・1/4）



37. 出土陶磁器類（364～423）

番号	出土地点	層	器種（石材）・部位	文様・調整・色調等（外）	文様・調整・色調等（中）	最長 cm（器高）	最幅 cm（口・底経）	最厚 cm（胎土）	重量 g（焼成）
1	岩土北平１区	7	使用痕剥片　流紋岩	打面不明　先端部欠損　上部欠損		5.0	4.3	0.8	10.45
2	岩土北平１区		礫器　ホルンフェルス	打面なし　自然面有　風化顕著		6.5	7.0	3.2	179.94
3	岩土北平３区	6	石鏃　ホルンフェルス	鍬形鏃		1.8	1.6	0.3	0.60
4	岩土北平２区	6	石鏃　チャート	鍬形鏃		2.8	2.2	0.5	1.89
5	岩土北平１区		スクレイパー　チャート	切断抜法？　使用痕有		2.5	1.5	0.9	3.12
6	岩土北平３区	6	スクレイパー　チャート	一部欠損		1.7	1.5	0.6	1.38
7	岩土北平２区	6	使用痕剥片　黒曜石	自然面を打面とする		3.7	3.1	0.6	3.95
8	岩土北平３区	6	使用痕剥片　チャート	打面側にも使用痕　調整不明		5.0	1.6	0.7	6.18
9	岩土北平表採		石錐　チャート	尖端部欠損　両側辺部加工有		4.0	1.3	0.4	2.19
10	岩土北平２区	6	石錐　チャート	尖端部欠損　つまみ部折れ		3.2	2.7	1.1	8.28
11	岩土北平２区	6	礫器　砂岩	使用痕顕著　自然面有		12.5	9.9	2.6	351.39
12	岩土北平３区	6	磨石　砂岩	側面に敲打痕有　両面の一部浅く凹む		9.9	7.9	4.1	493.95
13	岩土北平２区	6	磨石　花崗斑岩	受熱　欠損部多し		5.6	4.5	4.8	200.63
14	岩土北平２区	6	石斧　砂岩	両側辺に加工残る　受熱		5.4	5.6	1.5	63.07
15	岩土北平２区	7	深鉢　胴部	貝殻腹縁　押付　ナデ　ス　褐色	ナデ　暗褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
16	岩土北平１区	7	深鉢　口縁部	山形押型文　ナデ　指押さえ　にぶい黄褐色	山形押型文　ナデ　指押さえ　にぶい黄橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
17	岩土北平２区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　明褐色	楕円押型文　櫛状文　指押さえ　明褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
18	岩土北平２区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　暗褐色	楕円押型文　櫛状文　指押さえ　暗褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
19	岩土北平２区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　にぶい黄褐色	楕円押型文　ナデ　指押さえ　褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
20	岩土北平２区	7	深鉢　胴部	より糸文　ス　にぶい橙色	ナデ　にぶい褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
21	岩土北平２区		深鉢　胴部	より糸文　指押さえ　にぶい黄橙色	ナデ　にぶい黄橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
22	岩土北平２区	6	深鉢　胴部	より糸文　指押さえ　にぶい黄橙色	ナデ　にぶい黄橙色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
23	岩土北平表採		深鉢　胴部	条痕文　灰黄褐色	ナデ　にぶい黄褐色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
24	岩土北平１区	7	深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ　褐色	ナデ　指押さえ　明褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
25	岩土北平２区	7	深鉢　胴部	ナデ　にぶい黄褐色	条痕文　ス　明黄褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
26	岩土北平１区		深鉢　口縁部	ナデ　ス　明黄褐色	ナデ　明黄褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
27	岩土北平２区	6	深鉢　胴部	ナデ　ス　浅黄橙色	ナデ　ス　にぶい黄橙色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
28	岩土北平２区	6	深鉢　胴部	より糸文　ナデ　浅黄橙色	ナデ　浅黄橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
29	岩土北平２区	6	深鉢　口縁部	縄文　沈線　原体押付　ス　にぶい黄橙色	ナデ　ス　にぶい黄褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
30	岩土北平２区		浅鉢　口縁部	ミガキ　黒褐色	ミガキ　にぶい橙色			径1mm程の砂粒含む	良
31	岩土北平１区		甕　口縁部	ナデ　指押さえ　ス（若干ハケ目）黒褐色	ナデ　指押さえ　ス　黄灰色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
32	岩土北平表採		土錘	ナデ　ツマミ整形		4.3	1.6	1.5	8.61
33	岩土原２区	7	細石刃　ホルンフェルス	打面有		4.9	1.0	0.5	1.98
34	岩土原１区	6	細石核　黒曜石	自然面有		2.0	1.8	1.1	2.57
35	岩土原１区		細石核　流紋岩	使用痕有　スクレイパー併用？		3.4	3.4	1.6	22.71
36	岩土原住居１		使用痕剥片　流紋岩	打面有		4.9	3.3	1.0	13.85
37	岩土原１区	7	使用痕剥片　流紋岩	打面有　切断		6.2	3.1	0.6	13.51
38	岩土原１区	7	使用痕剥片　ホルンフェルス	打面有　風化顕著　自然面有		8.1	6.3	2.0	78.23
39	岩土原１区	6	スクレイパー　流紋岩	打面有　切断		3.2	3.1	1.0	11.01
40	岩土原１区	6	加工を有する石器　流紋岩	自然面有		6.3	5.4	3.0	103.52
41	岩土原１区	6	加工を有する石器　流紋岩			4.7	4.6	1.8	38.62
42	岩土原２区		スクレイパー　流紋岩	打面有		5.2	5.4	1.2	42.43
43	岩土原１区	6	スクレイパー　流紋岩	打面有　顕著な使用痕　自然面有		4.9	4.4	1.3	22.74
44	岩土原１区	7	スクレイパー　流紋岩	打面有　自然面有		5.0	4.5	2.1	57.19
45	岩土原４区	7	スクレイパー　流紋岩	打面有		4.6	4.5	1.1	29.32
46	岩土原２区	6	スクレイパー　流紋岩	打面有		9.3	3.4	1.9	35.80
47	岩土原１区		スクレイパー　流紋岩	自然面有		6.2	4.5	1.7	56.70
48	岩土原２区	6	スクレイパー　流紋岩	自然面有		5.7	7.2	3.0	146.64
49	岩土原１区	6	石核　流紋岩	自然面有		6.1	5.3	4.0	153.33
50	岩土原１区	6	石核　流紋岩			7.0	6.1	4.5	225.95
51	岩土原１区	7	礫器　ホルンフェルス	風化顕著		10.0	7.0	4.1	325.20
52	岩土原集石４		スクレイパー　黒曜石	自然面有		2.0	1.7	0.7	2.23
53	岩土原集石４		使用痕剥片　流紋岩	熱変？		3.2	4.1	0.7	10.14
54	岩土原集石９		深鉢　口縁部	山形押型文　ナデ　ス　にぶい黄褐色	山形押型文　櫛状文　灰白色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
55	岩土原集石９		深鉢　胴部	山形押型文　ナデ　ス　灰黄褐色	ナデ　灰黄褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	やや不良
56	岩土原集石９		深鉢　胴部	楕円押型文　にぶい黄橙色	ナデ　にぶい橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
57	岩土原集石９		深鉢　胴部	山形押型文　胴部　橙色	灰白色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
58	岩土原集石８		深鉢　胴部	ナデ　ス　褐色	ナデ　にぶい褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
59	岩土原集石８		使用痕剥片　砂岩	自然面有		11.4	8.2	1.5	140.10
60	岩土原集石９		深鉢　胴部	山形押型文　ナデ　指押さえ　にぶい黄褐色	ナデ　指押さえ　灰黄褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
61	岩土原集石９		深鉢　胴部	楕円押型文　ス　にぶい赤褐色	ナデ　褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
62	岩土原集石９		深鉢　胴部	より糸文　ス　橙色	ナデ（剥落アリ）　明赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
63	岩土原集石９		深鉢　口縁部	楕円押型文　櫛状文　にぶい黄褐色	櫛状文　沈線　ナデ　ス　にぶい黄褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
64	岩土原集石11		深鉢　胴部	ナデ　褐色	ナデ　褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
65	岩土原集石11		深鉢　胴部	より糸文　にぶい赤褐色	ナデ　指押さえ　にぶい褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
66	岩土原集石11		深鉢　胴部	より糸文　ナデ　にぶい赤褐色	ナデ　ス　灰褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
67	岩土原集石12		石鏃　チャート			1.8	1.6	0.3	0.60
68	岩土原集石12		スクレイパー　チャート			2.0	1.6	0.4	0.98
69	岩土原集石12		深鉢　胴部	貝殻腹縁文　指押さえ　ス　にぶい橙色	ナデ　にぶい橙色			径1～2mm程度の砂粒含む　雲母	良
70	岩土原集石12		深鉢　胴部	山形押型文　横方向　ス　にぶい赤褐色	ナデ　橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
71	岩土原集石12		深鉢　胴部	楕円押型文　ナデ　黒色	楕円押型文　ナデ　指押さえ　黒色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
72	岩土原集石12		深鉢　胴部	楕円押型文　指押さえ　明褐色	ナデ　にぶい褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
73	岩土原集石12		深鉢　胴部	楕円押型文　指押さえ　ス　明黄褐色	ナデ　指押さえ　ス　褐色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
74	岩土原集石14		深鉢　胴部	山形押型文　にぶい褐色	ナデ　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
75	岩土原集石14		深鉢　口縁部	楕円押型文　褐色	ナデ　にぶい赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
76	岩土原集石14		深鉢　胴部	楕円押型文　指押さえ　ス　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　ス　にぶい褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
77	岩土原土坑２		使用痕剥片　流紋岩	打面有　自然面有　打面に加工有		5.2	2.2	0.7	8.82
78	岩土原土坑２		深鉢　胴部	山形押型文　ナデ　ス　褐灰色	ナデ　褐灰色			径1～4mm程度の砂粒含む	良

38.　出土遺物観察表①

番号	出土地点	層	器種（石材）・部位	文様・調整・色調等（外）	文様・調整・色調等（中）	最長 cm（器高）	最幅 cm（口・底経）	最厚cm（胎土）	重量 g（焼成）
79	岩土原土坑２		深鉢　胴部	楕円押型文　指押さえ　明赤褐色	ナデ　明赤褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
80	岩土原土坑３		スクレイパー　チャート	一部欠損		1.8	1.8	0.4	1.23
81	岩土原土坑３		スクレイパー　流紋岩	打面有　自然面有		4.5	3.9	1.0	19.95
82	岩土原土坑３		深鉢　胴部	楕円押型文　ススス　明赤褐色	ナデ　にぶい赤褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
83	岩土原土坑３		深鉢　胴部	楕円押型文　橙色	ナデ　橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
84	岩土原土坑３		深鉢　胴部	より糸文　にぶい褐色	ナデ　にぶい褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
85	岩土原土坑４		使用痕剥片　流紋岩	自然面有		7.3	2.8	1.0	22.72
86	岩土原土坑４		使用痕剥片　流紋岩	自然面有		7.6	4.6	1.0	40.43
87	岩土原土坑４		使用痕剥片　ホルンフェルス	自然面有		6.0	5.6	1.4	42.41
88	岩土原土坑４		加工を有する石器　頁岩	自然面有		8.3	6.5	3.0	160.87
89	岩土原土坑４		敲打器　硬質砂岩	研磨整形		4.9	4.0	2.8	70.36
90	岩土原土坑４		深鉢　口縁部	山形押型文　ナデ　指押さえ　にぶい赤褐色	山形押型文　ナデ　指押さえ　赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む　雲母	良
91	岩土原土坑４		深鉢　胴部	山形押型文　指押さえ　明赤褐色	ナデ　指押さえ　にぶい赤褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
92	岩土原土坑４		深鉢　胴部	山形押型文　指押さえ　ススス　にぶい橙色	ナデ　にぶい橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
93	岩土原土坑４		深鉢　口縁部	山形押型文　ススス　明赤褐色	ナデ　ススス　明赤褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
94	岩土原土坑４		深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　ススス　灰黄褐色	山形押型文　ナデ　褐灰色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
95	岩土原土坑４		深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　ススス　浅黄橙色	楕円押型文　指押さえ　浅黄橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
96	岩土原土坑４		深鉢　頸部	楕円押型文　ススス　灰褐色	楕円押型文　ナデ　ススス　灰褐色			径1～24mm程度の砂粒含む	良
97	岩土原土坑４		深鉢　口縁部	楕円押型文　灰褐色	にぶい赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
98	岩土原土坑４		深鉢　胴部	より糸文　ナデ　指押さえ　ススス　褐色	にぶい褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
99	岩土原土坑４		深鉢　頸部	より糸文　ナデ　指押さえ　ススス熱変　極暗赤褐色	ナデ　指押さえ　ススス熱変　暗赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
100	岩土原土坑４		深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ　口唇部（指押さえにより凹む）ススス　灰褐色	ナデ　指押さえ　ススス　にぶい赤褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
101	岩土原土坑４		深鉢　胴部	ナデ　指押さえ　にぶい赤褐色	ナデ　指押さえ　にぶい黄褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
102	岩土原土坑４		深鉢　胴部	ナデ　橙色	ナデ　にぶい黄褐色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
103	岩土原土坑４		深鉢　胴部	ナデ　ススス　明赤褐色	ナデ　明褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
104	岩土原土坑５		石鏃　黒曜石	脚部欠損		2.9	0.8	0.4	0.60
105	岩土原土坑５		石鏃　黒曜石			1.3	1.2	0.4	0.43
106	岩土原土坑５		加工を有する石器　チャート	一部欠損		1.7	1.5	0.4	0.73
107	岩土原土坑５		石鏃　チャート	胴部のみ		1.6	1.2	0.3	0.65
108	岩土原土坑５		深鉢　口縁部	より糸文　ナデ　にぶい橙色	ナデ　にぶい褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
109	岩土原土坑５		深鉢　口縁部	楕円押型文　橙色	柵状文　ナデ　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
110	岩土原土坑５		深鉢　口縁部	楕円押型文　にぶい赤褐色	柵状文　ナデ　浅黄橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
111	岩土原土坑５		深鉢　頸部	楕円押型文　ススス　にぶい褐色	柵状文　ナデ　ススス　灰褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
112	岩土原土坑５		深鉢　胴部	楕円押型文　ナデ　にぶい黄橙色	ナデ　にぶい黄橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
113	岩土原土坑５		深鉢　胴部	楕円押型文　明褐色	ナデ　橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
114	岩土原土坑５		深鉢　胴部	より糸文　赤褐色	剥落のため不明　にぶい赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
115	岩土原土坑５		深鉢　頸部	山形押型文　にぶい赤褐色	ナデ　にぶい橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
116	岩土原土坑５		深鉢　胴部	山形押型文　指押さえ　にぶい赤褐色	ナデ　にぶい褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
117	岩土原土坑５		深鉢　口縁部	貝殻文（円筒）　明赤褐色	ナデ　浅黄橙色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
118	岩土原土坑６		スクレイパー　流紋岩	打面有		5.9	3.7	1.0	21.07
119	岩土原土坑６		尖頭状石器　チャート	一部欠損		3.0	2.1	0.7	3.87
120	岩土原土坑６		スクレイパー　チャート	一部欠損　自然面有		2.4	1.4	0.5	1.48
121	岩土原土坑６		使用痕剥片　流紋岩	打面部・尖端部欠損		4.8	2.3	0.5	5.60
122	岩土原土坑６		深鉢　胴部	条痕文　ススス　灰黄褐色	ナデ　灰黄色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
123	岩土原土坑６		深鉢　胴部	ナデ　ススス　にぶい赤褐色	ナデ　暗赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
124	岩土原土坑６		深鉢　胴部	山形押型文　ススス　にぶい赤褐色	山形押型文　ナデ　赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
125	岩土原土坑６		深鉢　胴部	山形押型文　ナデ　指押さえ　橙色	ナデ　指押さえ　オリーブ褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
126	岩土原土坑６		深鉢　頸部	山形押型文　灰褐色	ナデ　灰褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
127	岩土原土坑６		深鉢　胴部	ナデ　にぶい褐色	山形押型文　ナデ　にぶい赤褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
128	岩土原土坑６		深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　ススス　にぶい赤褐色	山形押型文　ナデ　ススス　橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
129	岩土原土坑６		深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　明赤褐色	ナデ　ススス　明赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
130	岩土原土坑６		深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ　ススス　灰褐色	楕円押型文　ナデ　指押さえ　ススス　にぶい赤褐色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
131	岩土原土坑６		深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ　ススス　明赤褐色	楕円押型文　ナデ　ススス　明赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
132	岩土原土坑６		深鉢　胴部	楕円押型文　ススス　明赤褐色	ナデ　橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
133	岩土原土坑６		深鉢　口縁部	より糸文　ナデ　暗褐色	より糸文　ナデ　黒褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
134	岩土原土坑６		深鉢　胴部	より糸文　指押さえ　ススス　にぶい赤褐色	ナデ　ススス　黒褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
135	岩土原土坑６		深鉢　胴部	より糸文　橙色	ナデ　指押さえ　にぶい赤褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
136	岩土原土坑６		深鉢　胴部	より糸文　指押さえ　ススス　明赤褐色	ナデ　ススス　黒褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
137	岩土原土坑６		深鉢　頸部	ナデ　褐色	ナデ　黒褐色			径1mm程の砂粒含む	良
138	岩土原土坑６		深鉢　胴部	ナデ　ススス　にぶい赤褐色	ナデ　ススス　赤黒色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
139	岩土原土坑８		使用痕剥片　チャート			3.0	2.2	0.9	6.19
140	岩土原土坑８		加工を有する石器　砂岩	使用痕なし		4.2	5.2	0.6	18.01
141	岩土原土坑８		深鉢　胴部	山形押型文　指押さえ　ススス　明赤褐色	ナデ　指押さえ　ススス　橙色			径1～9mm程度の砂粒含む	良
142	岩土原土坑10		敲石　砂岩			6.3	7.2	2.7	134.80
143	岩土原焼土１		深鉢　胴部	楕円押型文　明黄褐色	ナデ　明黄褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
144	岩土原焼土４		深鉢　胴部	楕円押型文　指押さえ　ススス付着　にぶい赤褐色	口唇下部　楕円押型文　ナデ　指押さえ　明赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
145	岩土原焼土４		深鉢　胴部	山形押型文　にぶい赤褐色	ナデ　にぶい赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
146	岩土原焼土４		深鉢　胴部	格子目押型文　にぶい赤褐色	ナデ　ススス　暗褐色			径1～1.5mm程度の砂粒含む	良
147	岩土原焼土３		深鉢　胴部	ナデ　繊維痕　にぶい橙色	線状痕（確認）　橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
148	岩土原焼土５		石鏃　チャート	脚部欠損		1.7	1.2	0.4	0.48
149	岩土原焼土５		使用痕剥片　チャート			2.5	2.0	0.7	3.79
150	岩土原焼土５		スクレイパー　チャート			2.5	1.9	0.9	5.06
151	岩土原焼土５		使用痕剥片　流紋岩	打面を有す		3.9	4.7	1.1	20.93
152	岩土原焼土５		加工を有する石器　頁岩	打面を自然面とする		5.2	6.5	1.8	
153	岩土原焼土５		スクレイパー　安山岩	全周加工（粗）		3.6	3.3	1.0	13.56
154	岩土原焼土５		スクレイパー　ホルンフェルス	自然面有		5.0	3.8	1.0	26.63
155	岩土原焼土５		すり石　凝灰岩	熱変		7.8	9.9	4.2	502.64
156	岩土原焼土２		礫器　砂岩	自然面有		16.2	12.9	3.7	872.88

39.　出土遺物観察表②

番号	出土地点	層	器種（石材）・部位	文様・調整・色調等（外）	文様・調整・色調等（中）	最長 cm（器高）	最幅 cm（口・底経）	最厚cm（胎土）	重量 g（焼成）
157	岩土原焼土５		深鉢　口縁部	貝殻条痕文　ナデ　指押さえ　ススにぶい橙色	ナデ　指押さえ　ススぶい橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
158	岩土原焼土５		深鉢　胴部	山形押型文　ススぶい橙色	ナデ　ススぶい赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
159	岩土原焼土５		深鉢　胴部	山形押型文　ナデ　指押さえ　橙色	ナデ　指押さえ　暗赤褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
160	岩土原焼土５		深鉢　口縁部	楕円押型文　暗赤褐色	楕円押型文　にぶい橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
161	岩土原焼土５		深鉢　口縁部	楕円押型文　にぶい黄褐色	より糸文　灰黄褐色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
162	岩土原焼土５		深鉢　胴部	楕円押型文　橙色	ナデ　にぶい赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
163	岩土原焼土５		深鉢　胴部	より糸文　ナデ　指押さえ　橙色	ナデ　指押さえ　ススにぶい赤褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
164	岩土原焼土５		深鉢　胴部	より糸文　ナデ　指押さえ　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　にぶい黄橙色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
165	岩土原焼土５		深鉢　胴部	より糸文　ナデ　赤褐色	ナデ　にぶい赤褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
166	岩土原焼土５		深鉢　胴部	ナデ　指押さえ　繊維痕有　にぶい赤褐色	ナデ　指押さえ　にぶい赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
167	岩土原焼土５		深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ（山磨部やや凹む）橙色	ナデ　指押さえ　にぶい橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
168	岩土原焼土５		深鉢　口縁部	ナデ　ススにぶい赤褐色	ナデ　ススぶい橙色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
169	岩土原焼土５		深鉢　底部	ナデ　赤褐色	ナデ　指押さえ　褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
170	岩土原焼土６		深鉢　胴部	山形押型文　ススにぶい赤橙色	山形押型文　ナデ　ススにぶい褐色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
171	岩土原焼土６		深鉢　頸部	山形押型文　ススにぶい橙色	ナデ　ススぶい褐灰色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
172	岩土原焼土６		深鉢　胴部	楕円押型文　指押さえ　明赤褐色	ナデ　橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
173	岩土原焼土６		深鉢　胴部	楕円押型文　指押さえ　ススぶい橙色	ナデ　にぶい橙色			径1～8mm程度の砂粒含む	良
174	岩土原焼土６		深鉢　胴部	より糸文　ススぶい暗赤褐色	ナデ　褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
175	岩土原焼土７		敲打器　花崗斑岩			5.1	5.1	4.1	136.96
176	岩土原焼土７		深鉢　頸部	楕円押型文　指押さえ　ススにぶい褐色	ナデ　ススぶい橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
177	岩土原焼土７		深鉢　胴部	楕円押型文　指押さえ　ススにぶい橙色	ナデ　ススぶい暗赤褐色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
178	岩土原焼土７		深鉢　底部	ナデ　にぶい黄橙色	ナデ　浅黄橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
179	岩土原２区	7	石鏃　赤チャート			1.6	1.2	0.4	0.66
180	岩土原２区	6	石鏃　赤チャート			1.5	1.3	0.2	0.35
181	岩土原１区	6	石鏃　チャート	鋸歯状の加工		2.1	2.1	0.6	2.13
182	岩土原２区	6	石鏃　チャート	鍬形鏃		1.2	1.7	0.4	0.59
183	岩土原１区	6	石鏃　黒曜石	脚部欠損		1.8	1.2	0.4	0.94
184	岩土原１区		石鏃　チャート	尖端部欠損　鍬形鏃　脚部外反		2.4	2.8	0.5	2.71
185	岩土原１区	6	石鏃　ホルンフェルス	尖端部欠損		2.1	3.0	0.4	1.86
186	岩土原１区	7	石鏃　チャート			1.6	1.2	0.2	0.38
187	岩土原１区	6	石鏃　姫島産黒曜石	脚部欠損		1.7	1.5	0.2	0.56
188	岩土原１区	7	石鏃　チャート			2.3	1.9	0.4	1.21
189	岩土原１区		石鏃　チャート			3.0	1.8	0.5	2.62
190	岩土原３区		石鏃　安山岩			3.9	1.7	0.3	2.17
191	岩土原１区	6	尖頭状石器　チャート			3.1	2.5	0.6	4.87
192	岩土原１区	6	石錐　姫島産黒曜石			5.8	2.4	1.6	16.14
193	岩土原１区	6	使用痕剥片　チャート	打面有		5.0	2.3	1.2	10.16
194	岩土原２区	7	使用痕剥片　チャート			3.7	2.3	0.9	6.87
195	岩土原１区	6	使用痕剥片　流紋岩	自然面を打面とする		2.3	4.1	1.6	14.62
196	岩土原１区	6	使用痕剥片　流紋岩	打面無		4.8	3.8	0.7	19.77
197	岩土原１区	6	使用痕剥片　流紋岩	打面有		5.9	5.7	1.5	70.36
198	岩土原１区	6	使用痕剥片　流紋岩			5.7	4.8	3.5	85.45
199	岩土原１区	7	スクレイパー　チャート			2.0	1.4	0.4	1.18
200	岩土原２区	6	スクレイパー　流紋岩	打面有　自然面有		5.8	7.2	1.6	84.56
201	岩土原１区	6	加工を有する石器　ホルンフェルス	自然面有		7.8	3.3	3.1	120.62
202	岩土原１区	6	礫器　安山岩	自然面有		11.1	10.3	3.5	462.54
203	岩土原１区		打製石斧　頁岩	自然面有　基部欠損		9.9	6.4	2.1	148.37
204	岩土原１区		打製石斧　砂岩	自然面有		12.1	6.1	1.7	149.48
205	岩土原１区		局部磨製石斧　ホルンフェルス	自然面有　刃部欠損		8.5	5.0	1.3	87.56
206	岩土原１区		磨製石斧　ホルンフェルス	基部のみ残		6.4	4.8	2.3	132.54
207	岩土原１区	6	叩石　砂岩	扁平な小礫を利用		4.6	3.6	1.3	33.19
208	岩土原１区	6	叩石　砂岩	受熱		9.3	3.9	4.5	211.48
209	岩土原４区	7	叩石　頁岩			16.3	2.3	2.7	132.87
210	岩土原１区	7	敲打器　砂岩	弱い磨痕有		3.6	2.9	2.7	40.59
211	岩土原２区	7	敲打器　砂岩	弱い磨痕有		5.5	5.2	3.2	134.46
212	岩土原１区	6	磨石　凝灰岩	欠損		4.1	7.4	3.8	184.16
213	岩土原１区	6	敲打器　砂岩			5.3	3.1	3.8	71.65
214	岩土原２区	7	敲打器　花崗斑岩	熱変　欠損		7.2	4.8	4.3	192.50
215	岩土原１区	6	敲打器　花崗斑岩	熱変　欠損		6.3	3.8	3.9	218.44
216	岩土原１区	7	磨石　砂岩	熱変　欠損		11.0	8.1	3.8	487.16
217	岩土原１区	7	磨石　凝灰岩	欠損		11.8	9.2	5.9	769.64
218	岩土原１区	6	礫器　砂岩	打面不明　自然面有		11.7	6.9	2.6	189.09
219	岩土原１区	6	礫器　砂岩	打面不明　自然面有		7.6	7.3	2.1	136.05
220	岩土原１区	6	礫器　砂岩	打面不明		10.3	9.0	2.5	213.57
221	岩土原４区	6	礫器　砂岩	打面不明　自然面有		18.1	11.3	3.5	533.21
222	岩土原４区		礫器　砂岩	打面不明　自然面有		17.6	10.8	3.9	932.74
223	岩土原２区	7	礫器　砂岩	打面不明　自然面有　打痕有		17.5	12.1	6.2	1500.00
224	岩土原表採		石皿　砂岩	熱変　欠損		25.7	24.1	9.7	7400.00
225	岩土原２区	7	深鉢　口縁部	条痕文　ススぶい暗褐色	ナデ　にぶい黄褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
226	岩土原４区	6	深鉢　口縁部	条痕文　ススにぶい赤褐色	穿孔　ナデ　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
227	岩土原１区	7	深鉢　胴部	条痕文　ススより糸？　にぶい赤褐色	条痕文　赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
228	岩土原１区	6	深鉢　胴部	（浅い）条痕文　ナデ　にぶい褐色	ナデ　ススぶい橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
229	岩土原２区	7	深鉢　胴部	条痕文　ススにぶい褐色	ナデ　にぶい橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
230	岩土原１区	6	深鉢　胴部	ナデ　条痕が消される　ススぶい赤褐色	ナデ　にぶい黄褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
231	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	山形押型文　指押さえ　灰白色	ナデ　灰黄褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
232	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	山形押型文　口唇　ナデ　にぶい褐色	ナデ　にぶい橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
233	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	山形押型文　ナデ　ススぶい褐色	山形押型文　柵状文　ナデ　暗褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
234	岩土原１区		深鉢　口縁部	山形押型文　ナデ　指押さえ　ススにぶい橙色	山形押型文　にぶい橙色			径1～5mm程度の砂粒含む	良

40.　出土遺物観察表③

番号	出土地点	層	器種（石材）・部位	文様・調整・色調等（外）	文様・調整・色調等（中）	最長 cm（器高）	最幅 cm（口・底径）	最厚cm（胎土）	重量 g（焼成）
235	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	山形押型文　指押さえ　橙色	ナデ　にぶい橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
236	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	山形押型文　ナデ　指押さえ　にぶい黄橙色	ナデ　指押さえ　浅黄橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
237	岩土原１区		深鉢　口縁部	山形押型文　黒褐色	山形押型文　柵状文　にぶい褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
238	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	山形押型文　にぶい橙色	山形押型文　ナデ　黒褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
239	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	山形押型文　暗褐色	山形押型文　ナデ　にぶい褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
240	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	山形押型文　にぶい黄橙色	山形押型文　ナデ　にぶい褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
241	岩土原４区	7	深鉢　口縁部	山形押型文　指押さえ　にぶい赤褐色	山形押型文　ナデ　にぶい赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
242	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	山形押型文　スス　口唇つまみ出し　赤褐色	山形押型文　ナデ　指押さえ　赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
243	岩土原１区		深鉢　底部	山形押型文　ナデ　指押さえ　橙色	ナデ　指押さえ　にぶい褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
244	岩土原１区		深鉢　底部	山形押型文　ナデ　指押さえ　黒褐色	ナデ　指押さえ　淡黄色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
245	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　スス　橙色	ナデ　スス　にぶい橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
246	岩土原１区		深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい黄橙色	ナデ　指押さえ　スス　にぶい赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
247	岩土原４区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい黄橙色	ナデ　指押さえ　にぶい黄橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
248	岩土原４区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい黄橙色	ナデ　指押さえ　スス　褐灰色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
249	岩土原住居１		深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　橙色	楕円押型文　櫛状文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
250	岩土原１区	6	深鉢　頸部	楕円押型文　指押さえ　スス　にぶい橙色	柵状文　ナデ　指押さえ　にぶい橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
251	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　褐色	柵状文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
252	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい赤褐色	条痕文　ナデ　スス　明赤褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
253	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　スス　明赤褐色	条痕文　ナデ　明赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
254	岩土原２区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　にぶい橙色	条痕文　ナデ　にぶい橙色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
255	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　にぶい赤褐色	条痕文　ナデ　明赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
256	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい赤褐色	深い柵状文　ナデ　スス　にぶい赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
257	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　にぶい橙色	条痕文　ナデ　指押さえ　褐灰色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
258	岩土原１区	6	深鉢　頸部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　明褐色	条痕文　ナデ　指押さえ　明赤褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
259	岩土原３区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　沈線　ナデ　スス　にぶい褐色	凸帯文　ナデ　スス　にぶい褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
260	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　指押さえ　顔料？　スス　にぶい赤褐色	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　沈線文　褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
261	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　灰黄褐色	楕円押型文　櫛状文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい黄橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
262	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　灰白色	楕円押型文　櫛状文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい黄橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
263	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　スス　穿孔　灰褐色	楕円押型文　柵状文　スス　浅黄橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
264	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい褐色	楕円押型文　櫛状文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
265	岩土原１区		深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　明赤褐色	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい赤褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
266	岩土原３区		深鉢　口縁部	楕円押型文　指押さえ　にぶい黄橙色	楕円押型文　ナデ　指押さえ　灰白色			径1～10mm程度の砂粒含む	良
267	岩土原１区		深鉢　口縁部	楕円押型文　指押さえ　にぶい黄橙色	楕円押型文　ナデ　指押さえ　浅黄橙色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
268	岩土原１区		深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ　スス　暗褐色	楕円押型文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい褐色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
269	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　指押さえ　橙色	楕円押型文　ナデ　指押さえ　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
270	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	楕円押型文　口唇：ナデ　橙色	山形押型文　柵状文　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
271	岩土原１区	6	深鉢　頸部	楕円押型文　スス　灰褐色	山形押型文　ナデ　にぶい赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
272	岩土原４区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　指押さえ　にぶい橙色	山形押型文　ナデ　指押さえ　にぶい褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
273	岩土原２区	7	深鉢　口縁部	楕円押型文　ナデ　スス　黒褐色	山形押型文　ナデ　スス　にぶい赤褐色			径1～8mm程度の砂粒含む	良
274	岩土原４区	6	深鉢　胴部	楕円押型文　より糸文　浅黄橙色	ナデ　浅黄橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
275	岩土原１区	7	深鉢　胴部	山形・楕円押型文　にぶい黄橙色	ナデ　繊維痕有　灰黄褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
276	岩土原２区	7	深鉢　口縁部	山形押型文　ナデ　にぶい赤褐色	山形押型文　ナデ　にぶい赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む　雲母	良
277	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	格子目押型文　ナデ　スス　明赤褐色	格子目押型文　柵状文　ナデ　スス　明赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
278	岩土原１区	6	深鉢　胴部	格子目押型文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　スス　にぶい赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む　雲母	良
279	岩土原３区	6	深鉢　胴部	格子目押型文　ナデ　スス　にぶい橙色	ナデ　橙色			径1～5mm程度の砂粒含む　雲母	良
280	岩土原１区	6	深鉢　胴部	格子目押型文　スス　明赤褐色	ナデ　スス　明赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
281	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	より糸文　スス　指押さえ　褐色	柵状文　ナデ　指押さえ　スス　柵状文　灰褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
282	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	より糸文　ナデ　指押さえ　にぶい橙色	より糸文　ナデ　指押さえ　にぶい褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
283	岩土原１区		深鉢　口縁部	より糸文　穿孔　にぶい黄橙色	より糸文　ナデ　にぶい褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
284	岩土原１区	7	深鉢　胴部	より糸文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　スス　黒褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
285	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	より糸文　スス　明赤褐色	より糸文　ナデ　スス　明赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
286	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	より糸文　ナデ　スス　にぶい橙色	より糸文　ナデ　スス　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
287	岩土原１区	7	深鉢　口縁部	より糸文　指押さえ　スス　にぶい赤褐色	より糸文　ナデ　指押さえ　スス　明赤褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
288	岩土原４区		深鉢　口縁部	より糸文　指押さえ　スス　褐色	より糸文　指押さえ　スス　にぶい橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
289	岩土原１区	6	深鉢　頸部	より糸文　指押さえ　スス　にぶい黄褐色	ナデ　スス　明黄褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
290	岩土原２区		深鉢　胴部	より糸文　指押さえ　明褐色	ナデ　指押さえ　褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
291	岩土原２区	7	深鉢　胴部	より糸文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい黄褐色	ナデ　スス　灰褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
292	岩土原１区	7	深鉢　胴部	より糸文　指押さえ　明赤褐色	ナデ　指押さえ　明褐色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
293	岩土原１区		深鉢　頸部	より糸文　指押さえ　暗赤褐色	ナデ　指押さえ　暗赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
294	岩土原１区	6	深鉢　胴部	より糸文　指押さえ　明赤褐色	ナデ　指押さえ　明赤褐色			径1～３mm程度の砂粒含む	良
295	岩土原１区		深鉢　胴部	より糸文　スス　灰黄褐色	ナデ　にぶい橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
296	岩土原２区	7	深鉢　胴部	より糸文（横方向）　刺突　スス　暗褐色	ナデ　にぶい橙色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
297	岩土原２区	6	深鉢　口縁部	縄文（押圧）　ナデ　明赤褐色	ナデ　スス　にぶい赤褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
298	岩土原１区	6	深鉢　頸部	縄文　にぶい褐色	ナデ　褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
299	岩土原１区	6	深鉢　胴部	縄文　ナデ　指押さえ　スス　繊維痕　浅黄色	ナデ　指押さえ　スス　繊維痕　黄灰色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
300	岩土原１区	6	深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ　スス　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　スス　にぶい橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
301	岩土原住居１		深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ　スス　にぶい赤褐色	ナデ　指押さえ　スス　にぶい赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
302	岩土原３区	6	深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ　スス　繊維痕有　明褐色	ナデ　指押さえ　スス　繊維痕有　橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
303	岩土原４区	6	深鉢　口縁部	ナデ　指押さえ　スス　繊維痕有　橙色	ナデ　指押さえ　スス　繊維痕有　暗赤灰色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
304	岩土原１区	6	深鉢　胴部	縄文　ナデ　突帯（刻目）　スス　明赤褐色	ナデスス　暗褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
305	岩土原１区		深鉢　胴部	縄文　突帯（刻目）　スス　橙色	ナデ　スス　暗赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
306	岩土原２区		深鉢　口縁部	縄文　刺突　スス　橙色	ナデ　スス　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
307	岩土原４区	6	深鉢　胴部	より糸文　ナデ　浅黄橙色	ナデ　にぶい黄橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
308	岩土原４区	6	深鉢　口縁部	地文（山形）　粘土紐貼付　スス　にぶい赤褐色	ミガキ　ナデ　指押さえ　黒褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
309	岩土原１区		深鉢　口縁部	松葉折施文　橙色	ナデ　スス　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
310	岩土原４区		深鉢　口縁部	松葉折施文　スス　明赤褐色	ナデ　明赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
311	岩土原４区	6	深鉢　口縁部	連続刺突文　ナデ　指押さえ　スス　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　スス　灰褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
312	岩土原１区		深鉢　口縁部	ナデ　橙色	ナデ　原体押引文　橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良

41. 出土遺物観察表④

番号	出土地点	層	器種（石材）・部位	文様・調整・色調等（外）	文様・調整・色調等（中）	最長 cm（器高）	最幅 cm（口・底径）	最厚cm（胎土）	重量 g（焼成）
313	岩土原１区		深鉢　底部	ナデ　指押さえ　ススス　橙色	ナデ　にぶい褐色			径1～2mm程度の砂粒含む　雲母	良
314	岩土原１区	6	深鉢　底部	ナデ　指押さえ　格子（?）　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　にぶい橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
315	岩土原１区	7	深鉢　底部	ナデ　指押さえ　にぶい黄橙色	ナデ　指押さえ　にぶい黄橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
316	岩土原１区	6	深鉢　底部	ナデ（上げ底・高台貼付）　明赤褐色	ナデ　指押さえ　にぶい橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
317	岩土原１区	6	深鉢　底部	ナデ　にぶい橙色	ナデ　ススス　にぶい赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
318	岩土原１区	6	深鉢　底部	ナデ　指押さえ　ススス　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　明褐灰色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
319	岩土原１区	6	深鉢　底部	条痕文　ナデ　指押さえ　橙色	ナデ　指押さえ　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
320	岩土原１区		深鉢　頸部	縄文　突帯に刻目　ナデ　にぶい褐色	ナデ　明褐色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
321	岩土原１区		深鉢　頸部	磨消縄文　凹線　刺突文　ススス　明赤褐色	ナデ　ススス　赤褐色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
322	岩土原１区		深鉢　頸部	沈線　ススス　すり消　褐灰色	ナデ　にぶい黄褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
323	岩土原表採		深鉢　口縁部	磨消縄文　沈線　ミガキ　ススス　口縁内溝　橙色	ミガキ　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
324	岩土原５区		深鉢　頸部	ミガキ　浅い沈線　明赤褐色	ミガキ　ナデ　明赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
325	岩土原５区		深鉢　口縁部	突帯　ナデ　明赤褐色	ナデ　明赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
326	岩土原１区		深鉢　口縁部	突帯　ナデ　ススス　明赤褐色	ナデ　ススス　褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
327	岩土原１区		深鉢　口縁部	突帯　ナデ　ススス　橙色	ナデ　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
328	岩土原１区		深鉢　口縁部	突帯　指ツマミ　ナデ　明赤褐色	ナデ　沈線　明赤褐色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
329	岩土原住居１		深鉢　口縁部	低い突帯　条痕　ナデ　明赤褐色	条痕　ナデ　にぶい橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
330	岩土原１区		深鉢　口縁部	突帯　沈線　ナデ　ススス　にぶい橙色	条痕　指押さえ　ススス　橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
331	岩土原１区		甕　口縁部	突帯に刻目　ナデ　にぶい橙色	ナデ　ススス　にぶい橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
332	岩土原１区		甕　口縁部	ナデ　突帯　ハケ目の痕跡　浅黄橙色	ナデ　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
333	岩土原５区		甕　口縁部	ナデ　突帯に刻目　ススス　橙色	ハケ目　ナデ　ススス　にぶい橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
334	岩土原５区		甕　口縁部	突帯に刻目　口縁指押さえ　ナデ　ススス　黄灰色	ナデ　指押さえ　灰色			径1～8mm程度の砂粒含む	良
335	岩土原１区		鉢　口縁部	ナデ　ススス　口唇つまみ出し　橙色	ナデ　ススス　橙色			径1～3mm程度の砂粒含む	良
336	岩土原１区		鉢　口縁部	ナデ　ススス　明黄褐色	ナデ　ススス　にぶい黄色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
337	岩土原１区		高杯　口縁部	ナデ　沈線　にぶい黄橙色	ナデ　浅黄橙色			径1mm程の砂粒含む	良
338	岩土原１区		甕　口縁部	ナデ（赤色顔料）　橙色	ナデ（赤色顔料）　橙色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
339	岩土原１区		甕　口縁部	ナデ　ススス　橙色	ナデ　橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
340	岩土原５区		甕　口縁部	ハケ目　ナデ　ススス　橙色	ナデ　橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
341	岩土原５区		甕　口縁部	ハケ目　ナデ　ススス　橙色	ナデ　ススス　浅黄色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
342	岩土原１区		壺　底部	ナデ　にぶい黄色	ナデ　淡黄色			径1～2mm程度の砂粒含む	良
343	岩土原住居１		壺　口縁部	ナデ　にぶい黄橙色	ナデ　にぶい黄橙色			径1～5mm程度の砂粒含む	良
344	岩土原住居１		壺　口縁部	ナデ　灰白色	ナデ　灰白色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
345	岩土原住居１		甕？　口縁部	ナデ　橙色	ナデ（黒斑）　褐灰色			径1mm程の砂粒含む	良
346	岩土原住居１		鉢　底部	ナデ　指押さえ　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　橙色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
347	岩土原住居１		高杯	ナデ　ススス　指押さえ　にぶい黄橙色	ナデ　指押さえ　にぶい黄橙色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
348	岩土原住居１		甕　口縁部	ナデ　ススス　にぶい黄橙色	ナデ　ススス　にぶい橙色			径1～4mm程度の砂粒含む	良
349	岩土原住居１		甕　口縁部	ナデ　指押さえ　にぶい橙色	ナデ　指押さえ　にぶい橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
350	岩土原住居１		甕　口縁部	ナデ　ミガキ　ススス　橙色	ナデ　橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
351	岩土原住居１		甕　口縁部	ナデ　指押さえ　にぶい黄橙色	ナデ　輪積み痕　指押さえ　にぶい橙色			径1～6mm程度の砂粒含む	良
352	岩土原住居１		甕　底部	板ナデ痕　指押さえ　ススス　橙色	ナデ　輪積み痕　にぶい橙色			径1～7mm程度の砂粒含む	良
353	岩土原住居１		甕　口縁～胴部	ナデ　指押さえ　ススス　にぶい黄褐色	ナデ　輪積み痕　指押さえ　ススス　にぶい黄橙色			径13mm程の砂粒含む	良
354	岩土原住居１		敲打器　砂岩	磨痕有		11.5	7.7	5.6	706.52
355	岩土原住居１		礫器　砂岩	熱変　スス付着		19.4	7.8	4.4	993.28
356	岩土原住居１		礫器　花崗斑岩	磨痕不明		18.0	9.5	4.0	993.42
357	岩土原表採		砥石　砂岩	熱変		12.6	9.7	1.1	224.64
358	岩土原表採		砥石　砂岩			11.9	10.2	5.1	886.79
359	岩土原表採		土錘	つまみ整形		3.7	1.4	1.4	7.24
360	岩土原表採		石錘　砂岩	打欠石錘		5.5	2.1	1.5	28.76
361	岩土原表採		石錘　砂岩	打欠石錘		6.3	4.0	1.4	43.62
362	岩土原表採		石錘　砂岩	切れ目石錘		4.2	2.2	1.3	18.74
363	岩土原表採		石錘　砂岩	打欠石錘		5.0	4.3	1.2	38.28

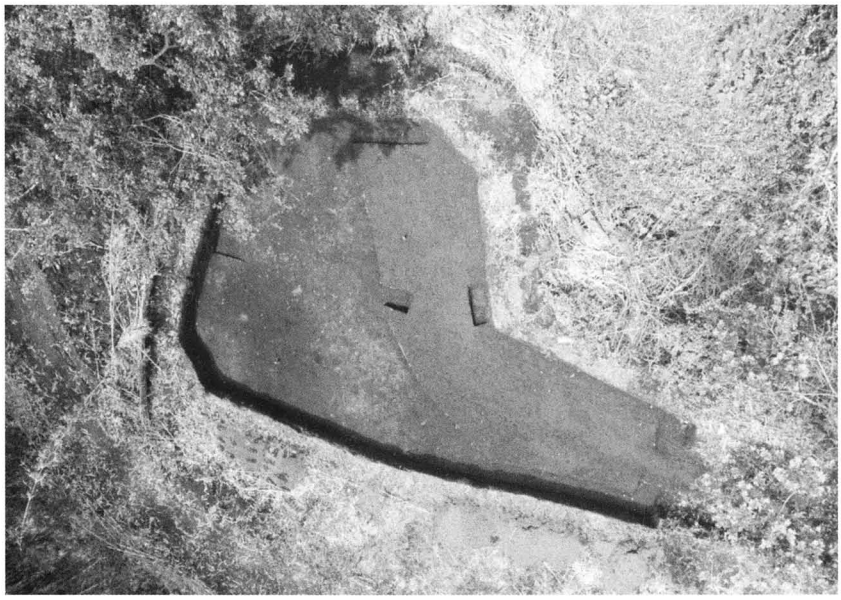
42. 出土遺物観察表⑤

43. 岩土北平遺跡・岩土原遺跡
航空写真（南西）より

44. 岩土北平遺跡航空写真

45. 岩土原遺跡 1 区航空写真

46. 岩土原遺跡 2 ～ 4 区航空写真



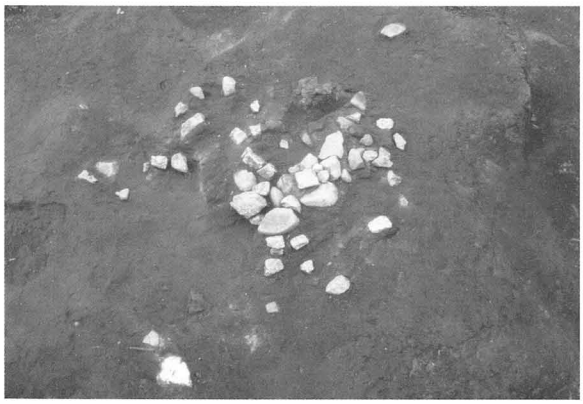
47. 岩土原遺跡 5 区航空写真

48.　1号集石遺構（北より）

49.　2号集石遺構（南より）

50.　3・4号集石遺構（南より）

51.　5号集石遺構（北より）

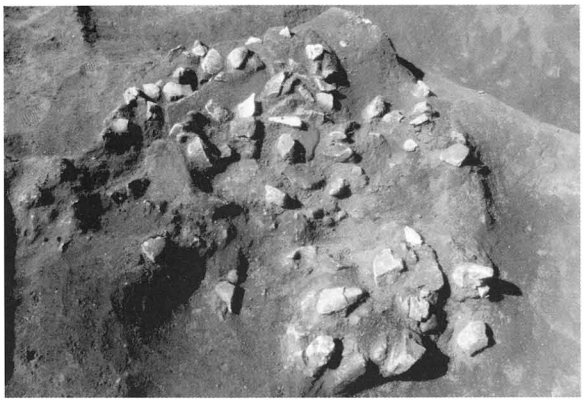


52.　6号集石遺構（北より）

53.　7号集石遺構（北より）

54.　8・9・10号集石遺構（北より）

55.　9号集石遺構断面（北より）



56. 11号集石遺構（南より）

57. 12号集石遺構（東より）

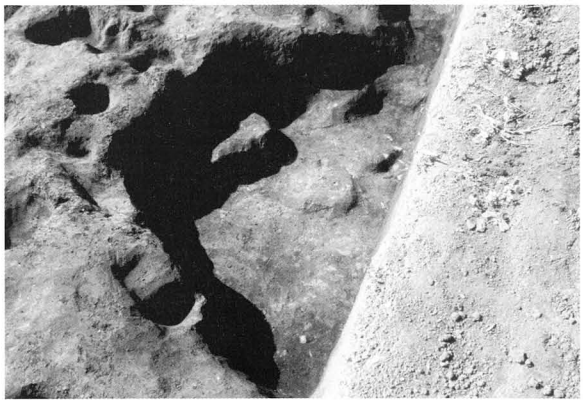
58. 13号集石遺構（東より）

59. 14号集石遺構（北より）

60. 2号土坑（東より）

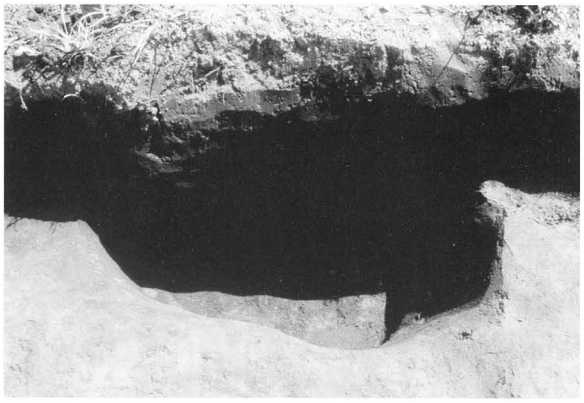
61. 3号土坑（北より）

62. 4号土坑（南より）

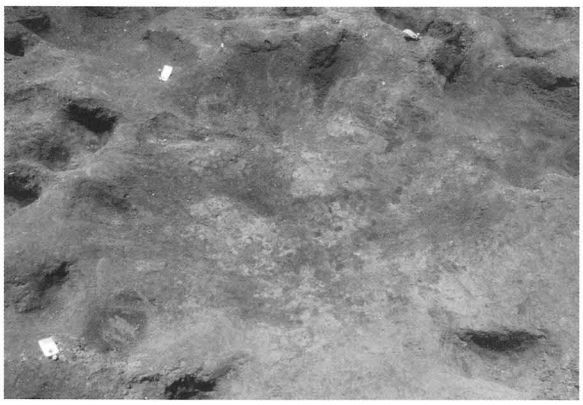


63. 5号土坑（南より）

64.　6号土坑（南より）

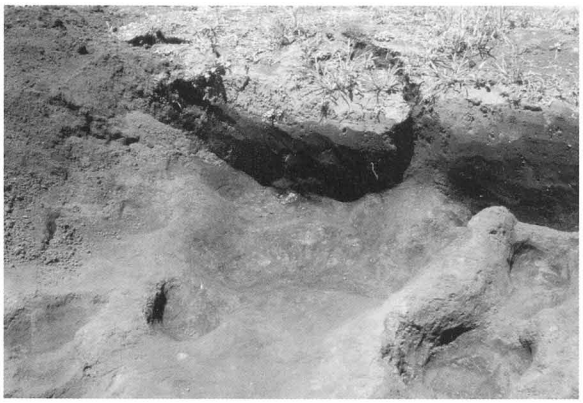


65.　7号土坑（北より）



66.　8号土坑（東より）

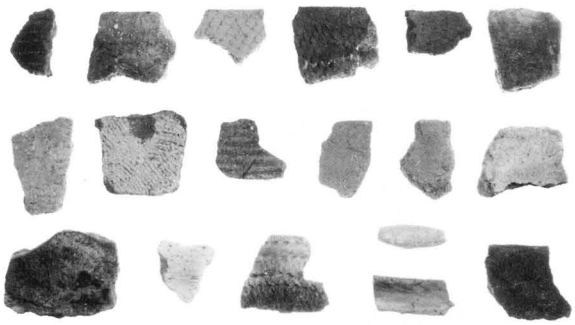
67.　9号土坑（東より）



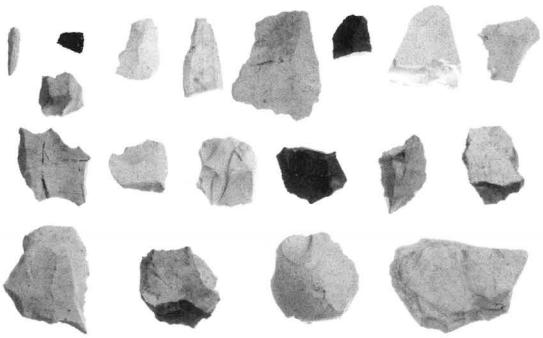
68.　10号土坑（東より）

69.　1号竪穴住居跡（西より）

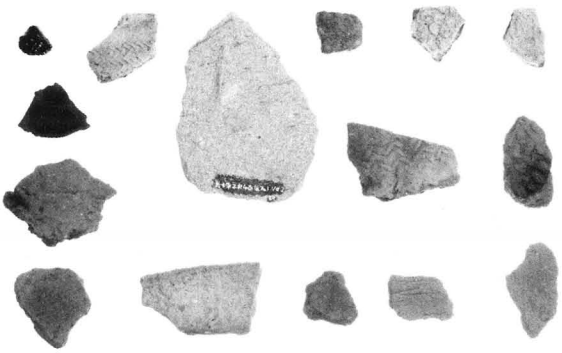
70.　出土遺物（1～14）



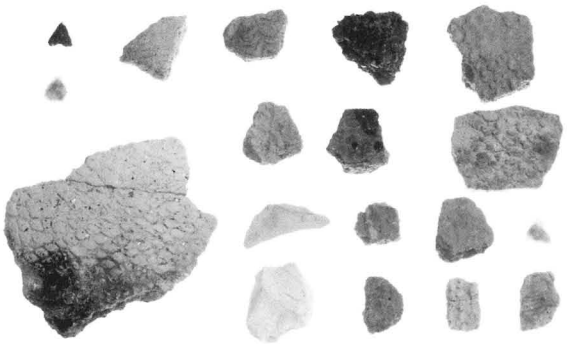
71.　出土遺物（15～32）



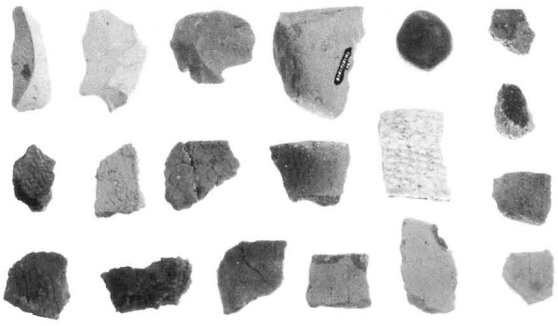
72. 出土遺物（33～51）



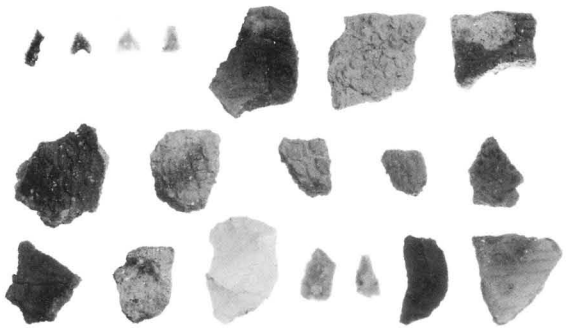
73. 出土遺物（52～66）



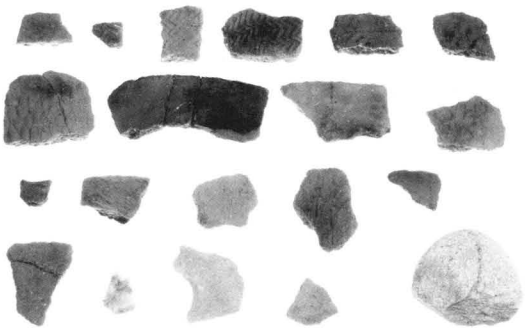
74. 出土遺物（67～84）



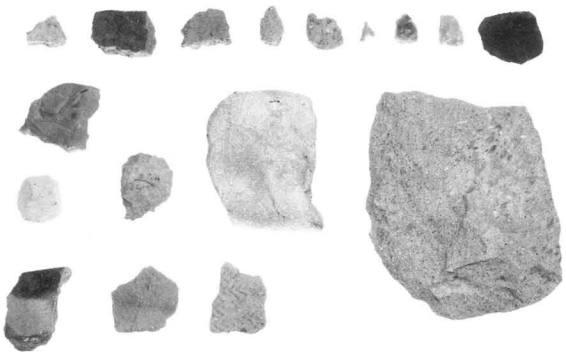
75. 出土遺物（85～103）



76. 出土遺物（104～122）

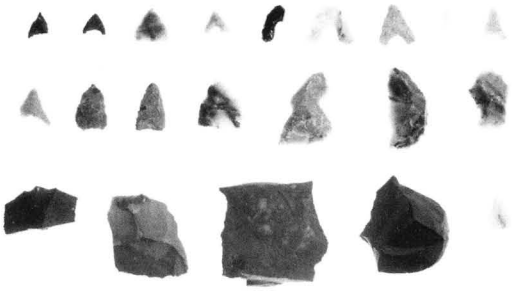


77. 出土遺物（123～142）



78. 出土遺物（143～159）

79. 出土遺物（160～178）



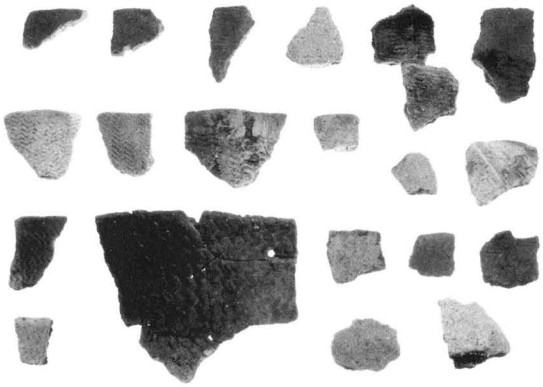
80. 出土遺物（179～199）

81. 出土遺物（200～206）

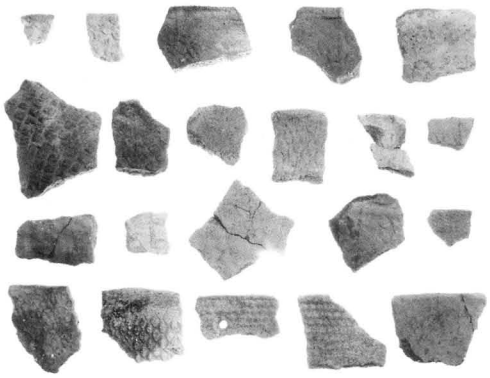
82. 出土遺物（207～215）

83. 出土遺物（216～221）

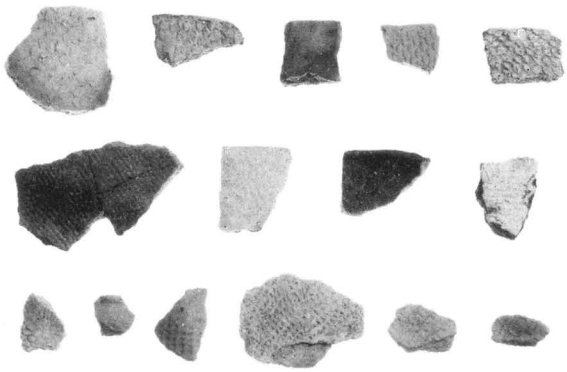
84. 出土遺物（222～224）



85. 出土遺物（225～244）

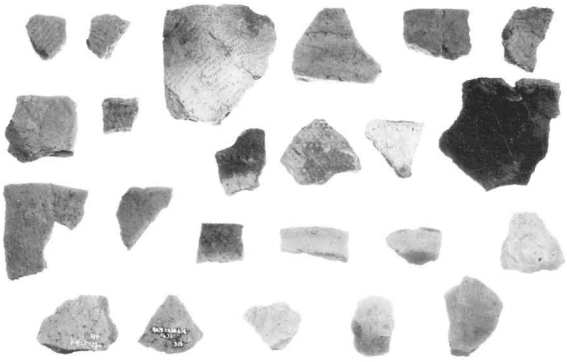


86. 出土遺物（245～265）

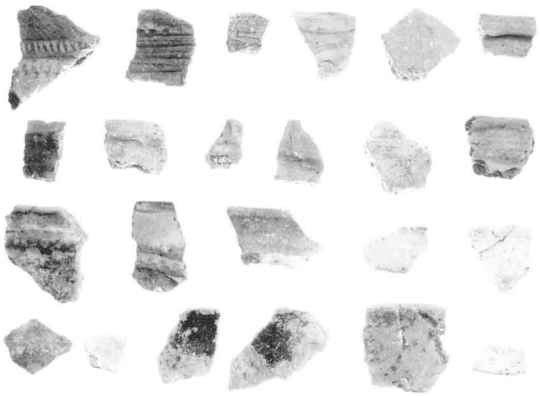


87. 出土遺物（266～280）

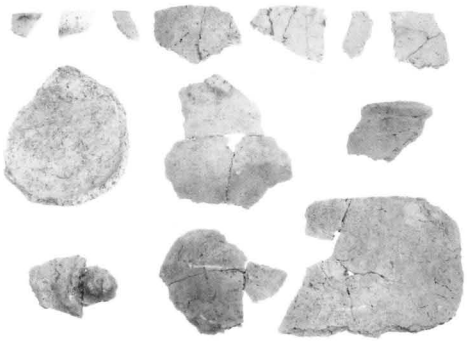
88. 出土遺物（281～296）



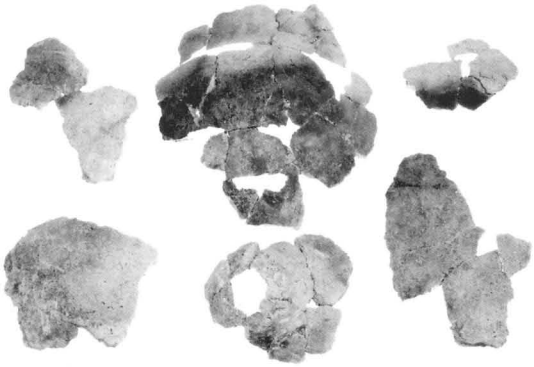
89. 出土遺物（297～319）



90. 出土遺物（320～342）



91. 出土遺物（343～351）



92. 出土遺物（352）

93. 出土遺物（353）

94. 出土遺物（354～356）

95. 出土遺物（357～363）

Ⅲ．おわりに

今回の市道岩土原線整備事業に伴う埋蔵文化財調査では、岩土北平遺跡で縄文時代早期の集石遺構１基と焼土集中部及び柱穴を若干、岩土原遺跡で縄文時代早期の集石遺構15基・連結土坑10基、焼礫集中部及び焼土集中部、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡１軒を検出した。調査区のほとんどは耕作により一部を除きローム層まで削平されている。

遺物では、旧石器時代の細石核や細石刃・スクレイパー、縄文時代早期及び中期・後期・晩期の石器・土器が出土した。弥生時代後期～古墳時代前期では、壺・甕・高杯等が出土している。

また、中・近世では陶磁器が、時期は不明であるが土錘・石錘等も出土している。

旧石器時代では、遺構の検出はなく、包含層からの出土遺物も少ない。竪穴住居跡内からも旧石器時代所産の遺物が出土している。昭和44年に南九州短期大学による発掘調査では細石器と隆帯文に爪形の施文を有する土器が共伴しているため、縄文時代早期の下位及びローム層上位については慎重に掘りさげを行った。しかし、細石刃及び細石刃核が若干出土したものの、隆帯文土器の検出は無かった。一部AT層下位まで掘り下げたが、Ⅷ層以下での遺構・遺物の検出は無かった。流紋岩製の細石核には加工が施され、スクレイパーの機能を併用した石器もあり注目される。今後、事例の増加に期待したい。蔵田遺跡や矢野原遺跡などの近接地域ではAT層下位の層から遺物の出土例が増加している。堆積状況から、周辺には良好な包蔵地が予想される。今後の開発行為には十分注意する必要がある。

縄文時代では、耕作による削平の影響で遺物包含層の残存状態がよくなかった。その中で、縄文時代早期の集石遺構を岩土北平で１基、岩土原遺跡で13基検出した。特に岩土原４区で検出した９号集石遺構は深く掘り込まれ、すり鉢状のしっかりした作りとなっている。集石遺構が検出されなかった調査区もあるが、埋土中に焼けた礫を検出していることなどから、周辺にはまだ多くの存在が予想される。また、ローム層を掘り下げる中で、焼土集中部と黒褐色土の掘り込みを検出した。焼土集中部は不定形で浅いものが多かったが、底部にしっかりした焼土の堆積が見られる連結土坑を３区で検出している。今回の検出数は10基であるが、そのほとんどは耕作により改変を受けている。縄文時代早期の遺物としては、押形文土器を中心として貝殻円筒文土器、撚り糸文土器、鍬形鏃、尖頭状石器、スクレイパー、敲石、磨石等多数の遺物が出土した。早期以外の縄文時代の遺構の検出はないが、縄文時代中期の船元式土器や後期の西平式土器、晩期の突帯文土器が若干出土している。

当地域における弥生～古墳時代の竪穴住居跡の検出例は、これまでの調査例に最近調査された延岡～北方道路の調査事例を加えると50例を超える。その中には、急傾斜地や尾根の端部などから検出した竪穴住居跡の調査例もあり、山間部における集落のあり方を考える上で興味深い。今回は古墳時代後期の竪穴住居跡１基のみの一部の検出にとどまったが、岩土北平遺跡では、近接する畑で石棺が確認されている。今後、周辺の開発事業と調整しながら継続して調査を行える体制を構築したい。

中・近世では陶磁器等が出土したが、その多くは耕作土中からの出土である。中国産及び国内産の各種陶磁器が出土しており、幅広い交流を伺うことができる。柱穴については、遺物を伴わないため時期等詳細は不明である。全般的に削平が進み遺構は検出できなかったが、付近に五輪塔なども見られることから、今後の開発には十分注意する必要がある。

報 告 書 抄 録

フリガナ	イワツチキタビライセキダイ２ジ・ダイ４ジ、イワツチバルイセキダイ２ジ・ダイ３ジ
書名	岩土北平遺跡第２次・第４次、岩土原遺跡第２次・３次
副書名	平成22・23年度市道岩土原線整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	延岡市文化財報告書
シリーズ番号	第48集
編集者名	小野信彦
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路２－１
発行年月日	平成24年３月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
イワツチキタビラ 岩土北平遺跡	延岡市 北方町 笠下寅	2033	62	32° 33′ 19″	131° 32′ 14″	2011.3．1～ 2011.7.25	300	市道岩土原線整備事業に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩土北平遺跡	包蔵地	旧石器・縄文時代 弥生・古墳時代	集石遺構基 土坑、焼土集中部	土器・石器 陶磁器等	

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
イワツチバル 岩土原遺跡	延岡市 北方町 笠下寅	2033	63	32° 33′ 15″	131° 32′ 18″	2011.3．1～ 2011.7.25	750	市道岩土原線整備事業に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩土原遺跡	包蔵地	旧石器・縄文時代 弥生・古墳時代	集石遺構基、土坑基 竪穴住居跡１軒	土器・石器 陶磁器等	連結土坑の検出

岩土北平遺跡第２次・第４次、岩土原遺跡第２次・第３次
延岡市文化財報告書
第48集
平成24年3月30日

発行　延岡市教育委員会
〒882-0811
宮崎県延岡市東本小路2-1

印刷　株式会社 ながと
〒882-0856
宮崎県延岡市出北４丁目2479番地